

# 京都市内遺跡立会調査概報

平成10年度

京 都 市 文 化 市 民 局

## ごあいさつ

京都は、世界に誇る数多くの歴史遺産に恵まれた大都市であります。市内の埋蔵文化財包蔵地には、年代ごとに幾層にもわたり積み重ねられ、歴史の重みをもつ遺跡が数多く存在致します。

このような埋蔵文化財は、我が国の歴史や文化の成り立ちを知ることができる国民共有の貴重な財産であり、将来にわたって保存すべきものであります。

近年、埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等による開発行為は、これら埋蔵文化財保護に少なからず影響を及ぼしており、先人が残した埋蔵文化財を引き継いだ私達は、その保存と開発との調整を適切に行い、これを後世に伝承していく責務があると考えております。

本報告書は、平成10年度に本市が文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財調査の結果をまとめた概要報告書であります。調査のうち、試掘調査は京都市埋蔵文化財調査センターが実施し、発掘調査及び立会調査は、財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託し実施したものです。

結びに、今年度の各調査の実施に当たりまして、御理解と御協力を賜りました市民の皆様をはじめ、御指導と御助言を賜りました関係機関の皆様に深く感謝申し上げますとともに、本報告書が京都の歴史を知るための一助として、お役に立てただければ幸いに存じます。

平成11年3月

京都市文化市民局長

坪倉 譲

## 例　　言

- 1 本書は京都市文化市民局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施した、文化庁国庫補助事業に伴う平成10年度の京都市内遺跡立会調査概要報告書である。
- 2 本書の編集は加納敬二を中心とし、清藤玲子、近藤章子、菅田　薫、能芝　勉、端　美和子、尾藤徳行、丸川義広、吉本健吾、竜子正彦が調整・作成実務を担当した。
- 3 各報告の執筆者はそれぞれの文末に記した。
- 4 写真撮影は村井伸也と幸明綾子が担当し、遺跡の一部は調査担当者が行った。
- 5 遺物復原・彩色は村上　勉、出水みゆきが担当した。
- 6 本書で用いた土壤色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。
- 7 本書に使用した造構の略記号は、奈良国立文化財研究所の用例に従った。
- 8 個々の調査地での計測値は、宅地の場合は仮の「水準点」を±0mとし、道路の場合には現行道路面を地表面（±0m）としている。なお、本書中で使用している方位および座標の数値は、平面直角座標系VIにより、標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。その際の測量基準点は京都市遺跡発掘調査基準点を使用し、調査地における測量基準点の設置は辻　純一、宮原健吾が行った。
- 9 調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており、調査日については簡略に記しているものもある。遺跡名は平安宮・京跡については、官衙・条坊を優先した。
- 10 なお、本書を作成するにあたっては、岡　泰正・佐藤昌憲・北野信彦の各氏に御教示いただいた。記して謝意を表したい。
- 11 本書で使用した地図は京都市長の承認を得て同市発行の都市計画基本図（縮尺：1/2,500）を複製して調整したものである。

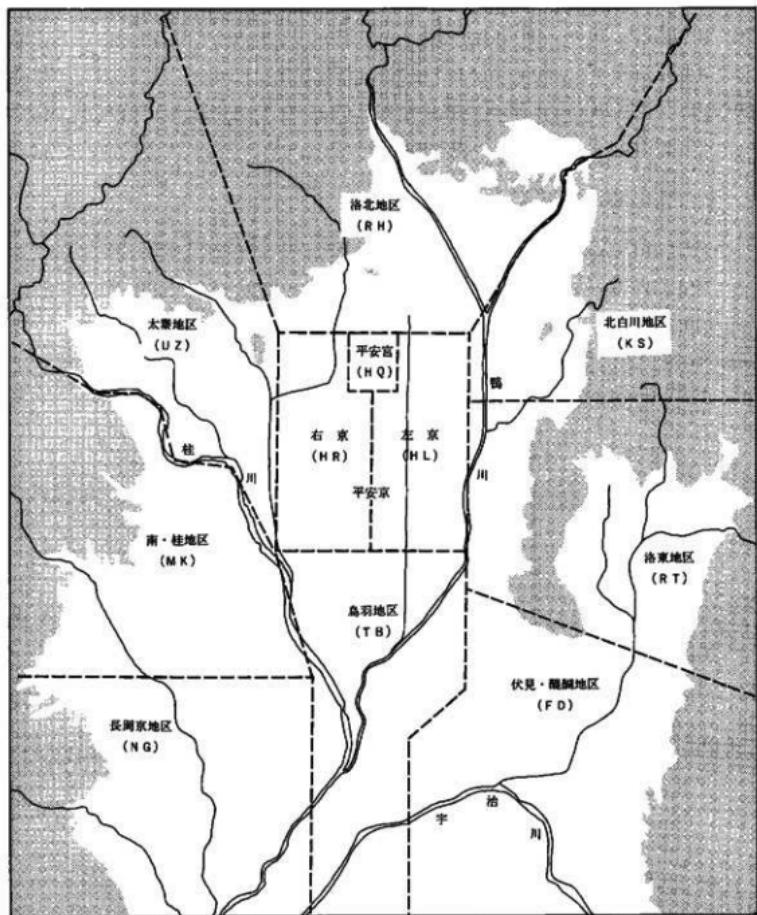
都市計画基本図は、縮尺を調整して以下のものを使用した。

平安宮・京跡 図版1～13 8,000分の1（船岡山、衣笠山、花園、聚楽廻、御所、山ノ内、壬生、三条大橋、西京極、島原、五条大橋、中河原、梅小路、京都駅）

その他の遺跡 図版14～28 10,000分の1（鞍馬、梶取、村松、岩倉、西賀茂、幡枝、三宅八幡、鷹峯、衣笠山、船岡山、相国寺、田中、大覺寺、鳴滝、花園、聚楽廻、御所、吉田、嵐山、太秦、山ノ内、岡崎、五条大橋、清水寺、安祥寺、桂、京都駅、今熊野、山科、小山、中山、川島、吉祥院、上鳥羽、勘進橋、稻荷山、勘修寺、行者ヶ森、大原野、石見、寺戸、久世、城南宮、竹田、醍醐、高塚山、栗生、向日町、久我、下鳥羽、丹波橋、石田、長岡、羽束師、横大路、中書島、納所、向島）

各報告の「調査位置図」 5,000分の1

- |           |           |          |            |
|-----------|-----------|----------|------------|
| 図1 (聚楽廻)  | 図7 (御所)   | 図9 (壬生)  | 図14 (三条大橋) |
| 図17 (花園)  | 図21 (山ノ内) | 図25 (吉田) | 図32 (岡崎)   |
| 図37 (京都駅) | 図40 (醍醐)  | 図44 (石見) |            |



地区設定概念図

## 本文目次

I 調査概要 .....	1
II 平安宮・京跡 .....	3
1 平安宮太政官跡 (97HL406) .....	3
2 平安京左京一条四坊・二条四坊 (97HL404・460) .....	8
3 平安京左京五条二坊八町 (97HL478) .....	11
4 平安京左京五条三坊八町・烏丸綾小路遺跡 (98HL165) .....	16
5 平安京右京一条二坊十五町 (98HR89) .....	18
6 平安京右京四条二坊十三町 (97HR498) .....	22
III その他の遺跡 .....	27
7 京都大学北部構内遺跡 (98KS161) .....	27
8 岡崎遺跡・延勝寺跡 (97KS82) .....	32
9 法住寺殿跡 (98RT194) .....	36
10 醍醐庵寺 (97FD296・437・438) .....	38
11 長岡京右京一条四坊十四町 (97NG26) .....	41

## 表目次

調査一覧表 .....	44
1 1998年 1～3月期 (平成9年度) .....	44
2 1998年 4～12月期 (平成10年度) .....	50
報告書抄録 .....	61

## 図版目次

### 図版1～28 調査位置図

- 図版1 平安宮
- 図版2 平安京左京北辺～三条 一・二坊
- 図版3 平安京左京北辺～三条 三・四坊
- 図版4 平安京左京 四～六条 一・二坊
- 図版5 平安京左京 四～六条 三・四坊
- 図版6 平安京左京 七～九条 一・二坊
- 図版7 平安京左京 七～九条 三・四坊
- 図版8 平安京右京北辺～三条 三・四坊
- 図版9 平安京右京北辺～三条 一・二坊
- 図版10 平安京右京 四～六条 三・四坊
- 図版11 平安京右京 四～六条 一・二坊
- 図版12 平安京右京 七～九条 三・四坊
- 図版13 平安京右京 七～九条 一・二坊
- 図版14 1 鞍馬山経塚群 2 二ノ瀬廃寺 3 岩倉忠在地遺跡 4 聖護院  
長谷殿跡 5 植物園北遺跡
- 図版15 1 紫野斎院跡・尊重寺跡・世尊寺跡 2 相国寺旧境内・室町殿跡・  
本満寺の構え跡 3 北野庵寺・北野遺跡 4 衆樂第跡
- 図版16 1 西北町遺跡 2 船山須恵器窯跡 3 清涼寺境内 4 福西古墳  
群 5 上ノ段町遺跡・御所ノ内町遺跡・多蘇町遺跡・西野町遺跡
- 図版17 円乗寺跡・花園宮ノ上町遺跡・村ノ内町遺跡・常盤東ノ町古墳群・和泉  
式部町遺跡・井戸ヶ尻遺跡・仁和寺院家跡
- 図版18 田中構え跡・京都大学北部構内遺跡・追分町古墳群・京都大学西部構内  
遺跡・京都大学構内弥生遺跡・白河街区跡・白河北殿跡・白河南殿跡・  
得長寿院跡・延勝寺跡・円勝寺跡・成勝寺跡・法勝寺跡・最勝寺跡・岡  
崎遺跡
- 図版19 桜原廃寺・革鳴館跡・南春日町遺跡・上久世遺跡・上久世城跡・上里北  
ノ町遺跡・長岡京跡
- 図版20 1 中久世遺跡・大蔵遺跡 2 久我殿遺跡 3 将軍塚古墳群  
4 法觀寺旧境内 5 安祥寺下寺跡・安朱遺跡
- 図版21 1 山科本願寺跡・左義長町遺跡 2 中臣遺跡 3 元慶寺跡  
4 大塚遺跡 5 四手井城跡 6 大宅廃寺・大宅遺跡

- 図版22 六波羅政庁跡・法住寺殿跡
- 図版23 1 法性寺跡 2 下三栖城跡・下三栖遺跡 3 法界寺旧境内
- 図版24 烏羽離宮跡・下烏羽遺跡
- 図版25 1 長岡京跡 2 深草遺跡・西飯食町遺跡 3 吉祥院竹尻城跡  
4 小野廃寺 5 向島城跡 6 醍醐廃寺
- 図版26・27 伏見城跡・金森出雲遺跡・御香宮廃寺・指月城跡
- 図版28 長岡京跡
- 図版29・30 平安宮太政官跡 (97HQ406)
- 図版29 1 調査地全景  
2 溝内完掘状況  
3 溝 出土遺物
- 図版30 溝 出土軒瓦
- 図版31~33 平安京左京五条二坊八町 (97HL478)
- 図版31 1 C地点 漆状造構断面  
2 漆状造構 遺物出土状況
- 図版32 1 瓦器鍋出土状況 (D地点)  
2 井戸  
3 漆状造構・D地点 出土遺物
- 図版33 井戸 出土遺物
- 図版34 平安京左京五条三坊八町・烏丸綫小路遺跡 (98HL165)
- 図版34 1 遺物出土状況  
2 遺物出土状況
- 図版35・36 平安京右京一条二坊十五町 (98HR89)
- 図版35 1 №3地点 漆状造構断面  
2 №3地点 遺物出土状況
- 図版36 1 出土遺物  
2 出土遺物
- 図版37・38 平安京右京四条二坊十三町 (97HR498)
- 図版37 1 8トレンチ全景  
2 9トレンチ全景  
3 四条大路北側溝 (SD1)
- 図版38 1 内溝 (SD2)  
2 内溝 (SD3)

図版39・40 京都大学北部構内遺跡（98KS161）

- 図版39 1 No.2 地点 土器出土状況
- 2 No.5 地点 土器出土状況
- 3 出土遺物

図版40 繩文土器

図版41 岡崎遺跡・延勝寺跡（97KS82）

- 図版41 1 調査区全景
- 2 出土遺物

図版42 法住寺殿跡（98RT194）

- 図版42 1 A 地点 南北溝
- 2 B 地点 東西溝

図版43・44 醍醐廃寺（97FD296・437・438）

- 図版43 1 B-1 地点 遺構断面
- 2 B-2 地点 遺構断面

図版44 出土遺物

図版45 長岡京右京一条四坊十四町（97NG26）

- 図版45 1 No.1 地点 包含層断面
- 2 No.3 地点 包含層断面
- 3 No.7 地点 溝断面
- 4 No.9 地点 包含層断面

## 挿 図 目 次

<b>97HQ406</b>	<b>98KS161</b>
図1 調査位置図.....	図25 調査位置図.....
図2 調査地点位置図.....	図26 調査地点位置図.....
図3 遺構断面図.....	図27 №1地点柱状断面図.....
図4 遺物実測図.....	図28 繩文土器拓影・実測図.....
図5 瓦拓影・実測図.....	図29 繩文土器拓影・実測図.....
図6 文字瓦.....	図30 石器実測図.....
<b>97HL404・460</b>	
図7 調査位置図.....	図31 弥生土器実測図.....
図8 出土遺物・実測図.....	<b>97KS82</b>
<b>97HL478</b>	
図9 調査位置図.....	図32 調査位置図.....
図10 遺構位置図.....	図33 調査地点位置図.....
図11 遺構断面図.....	図34 №1地点遺構平面・断面図.....
図12 漆状遺構出土遺物実測図.....	図35 遺物実測図.....
図13 井戸出土遺物実測図.....	図36 瓦拓影・実測図.....
<b>98HL165</b>	
図14 調査位置図.....	図37 調査位置図.....
図15 遺構位置図.....	図38 遺構位置図.....
図16 遺構断面図.....	図39 遺構断面図.....
<b>98HR89</b>	
図17 調査位置図.....	図40 調査位置図.....
図18 遺構位置図.....	図41 B地点位置図.....
図19 遺構断面図.....	図42 B-3地点柱状断面図.....
図20 遺物実測図.....	図43 瓦拓影・実測図.....
<b>97HR488</b>	
図21 調査位置図.....	図44 調査位置図.....
図22 調査区位置図.....	図45 遺構・遺物包含層分布図.....
図23 №8トレンチ平面・断面図.....	図46 遺物実測図.....
図24 遺物実測図.....	

## I 調査概要

(財) 京都市埋蔵文化財研究所では京都市内の遺跡に該当する建築物の基礎工事や上下水道、ガス、電気、電話などの埋設工事を対象にした立会調査を、研究所が発足した1976年以来、文化庁国庫補助事業として継続して実施している。本書では平成10年度概要報告として、1998年1月6日から3月31日までの1997年度と、同年4月1日から12月28日までの1998年度の調査成果を合わせて報告する。調査件数は1997年度が129件、1998年度が311件、調査総件数は440件であった。市内を便宜的に11に地区分けした各地区的調査件数は下表のとおりである。

地 区	97年度1~3月	98年度4~12月	小計	地 区	97年度1~3月	98年度4~12月	小計
平安宮(HQ)	17	51	68	南・桂地区(MK)	0	9	9
平安京左京(HL)	35	93	128	洛東地区(RT)	25	28	53
平安京右京(HR)	16	55	71	鳥羽地区(TB)	8	15	23
洛北地区(RH)	8	15	23	伏見地区(FD)	9	18	27
太秦地区(UZ)	0	11	11	長岡京地区(NG)	4	4	8
北白川地区(KS)	7	12	19	計	129	311	440

本書では造構・遺物の残存良好な調査の中から11件については概要報告を行い、その他は調査一覧表としてまとめた。以下、地区別に本年度の成果を概観してみる。

平安宮(HQ) 宮域では太政官跡(97HQ406)の概要を報告する。朝堂院(97HQ409)では現代層直下で地山を切込む平安時代後期から末期の落込を検出している。宮域での調査件数は昨年よりやや減少しており、ほとんどが小面積での木造住宅の基礎工事に伴う調査で、掘削深が浅いことから造構面に達せず現代盛土の確認にとどまった。

平安京左京(HL) 左京域では一条四坊・二条四坊(97HL404・460)と五条二坊八町(97HL478)、五条三坊八町(98HL165)の3件の概要を報告する。二条二坊十一町(97HL461)は大炊御門大路と油小路の交差部にあたり、路面と油小路西側溝を検出している。その他、条坊に関連する成果には大炊御門大路路面(97HL322)・(97HL493)、二条大路路面(98HL254)・(98HL27)、四条大路路面(98HL14)などがある。

平安京右京(HR) 右京域では一条二坊十五町(98HR89)と四条二坊十三町(97HR498)の2件の概要を報告する。条坊に関連する成果には宇多小路西側溝(98HR192)、西大宮大路西側溝(98HR36)などがある。

洛北地区(RH) 植物園北遺跡4件、北野遺跡・北野遺跡および北野庵寺・尊重寺跡・世尊寺跡各2件、西北町遺跡・鞍馬二ノ瀬町埋蔵銭出土地・紫野斎院・室町殿跡・聚楽第跡・本満寺の構え跡・相国寺旧境内・鞍馬山経塚群・聖護院長谷殿跡・岩倉忠在地遺跡・船山須恵器窯跡各1件であった。鞍馬二ノ瀬町埋蔵銭出土地(97RH459)では中世の備蓄銭が約38,000枚出土し発

掘調査に切り替えた。北野遺跡および北野廃寺（98RH206）では平安時代から室町時代の遺物包含層の残存が良好であった。尊重寺跡（98RH141）では平安時代後期の遺物包含層、世尊寺跡（98RH155）では鎌倉時代の整地層を確認している。

太秦地区(UZ) 村ノ内町遺跡2件、清涼寺境内・円乗寺跡・花園宮ノ上町遺跡・上ノ段町遺跡・和泉式部町遺跡・御所ノ内町遺跡隣接地・井戸ケ尻遺跡各1件であった。花園宮ノ上町遺跡（98UZ164）では平安時代の遺物包含層、和泉式部町遺跡（98UZ118）では古墳時代の整穴住居と遺物包含層、多蔵町遺跡（98UZ113）では平安時代の遺物包含層を検出している。

北白川地区(KS) 岡崎遺跡および白河街区跡16件、京都大学構内遺跡4件、田中構え跡・追分町古墳群各1件であった。その内、京都大学北部構内遺跡（98KS161）と岡崎遺跡および白河街区跡（97KS82）の2件について概要を報告する。京都大学西部構内遺跡（98KS150）では平安時代後期から鎌倉時代の版築状土層を検出した。

南・桂地区(MK) 中久世遺跡6件、大蔵遺跡・上里北ノ町遺跡各2件、上久世遺跡および上久世城・桜原廃寺隣接地・南春日町廃寺・福西古墳群・久我殿遺跡・革鳴館跡各1件である。革鳴館跡（98MK212）では館跡に関わる室町時代の遺構・遺物包含層を検出している。

洛東地区(RT) 中臣遺跡30件、法性寺跡・法住寺殿跡および六波羅政庁跡各5件、左義長町遺跡および山科本願寺跡3件、法觀寺旧境内2件、四手井城跡・元慶寺跡・安祥寺下寺跡・安朱遺跡・大源遺跡・大宅廃寺・大宅遺跡各1件であった。その内、法住寺殿跡（98RT194）の概要を報告する。法住寺殿跡および六波羅政庁跡（97RT469）では平安時代末期の遺物包含層を検出した。法觀寺旧境内（98RT47）では平安時代後期の遺物包含層を確認している。

鳥羽地区(TB) 鳥羽離宮跡14件、下鳥羽遺跡3件、吉祥院竹尻城跡2件、西飯食町遺跡・下三栖遺跡・下三栖遺跡隣接地・深草遺跡各1件であった。鳥羽離宮跡では平安時代後期から末期の礎敷遺構・遺物包含層（97TB318）・遺物包含層（98TB318）を、また鎌倉時代の土器と木簡片を含む湿地堆積（98TB34）も検出している。

伏見・醍醐地区(FD) 伏見城跡19件、醍醐廃寺5件、小野廃寺・法界寺旧境内各1件である。醍醐廃寺（97FD296・437・438）の概要を報告する。他には顕著な成果はなかった。

長岡京地区(NG) 左京城7件、右京城1件であった。右京一条四坊十四町（97NG26）の概要を報告する。その他は顕著な成果は認められなかった。

今年度の概要報告をみると遺構・遺物の時期が縄文時代から江戸時代までの多岐にわたっており、京都市内の遺跡の特質を反映する結果となった。平安宮・京にあたる市街地では官衙、条坊、町屋に関連する遺構を従来どおり検出しているが、京都御苑内の調査で近世の公家屋敷群に關係する遺構・遺物を検出し、新たな知見を加えている。また市街地郊外の西京区大原野石見町では遺跡範囲外の広域にわたり、弥生時代から古墳時代・室町時代の遺構・遺物包含層を検出したことから大原野石見遺跡の発見となった。

(加納敬二)

## II 平安宮・京跡

### 1 平安宮太政官跡 (97HQ406)

#### 調査経過（図1）

調査地は、上京区千本通二条下る東入主税町1022-2番地で、住宅建設工事に伴い、1998年1月19日から3日間調査を行った。

当該地は、平安宮内の官衙の一つである太政官に位置する。

調査を開始したところ、地表直下で平安時代の土器、瓦が出土した。掘削工事終了後、わずかに島状に残った部分での断面観察を行った結果、南北方向に連続する溝を2箇所で検出した。溝内からは、平安時代後期の土師器、瓦類などが多量に出土した。なお業者の協力により一部、造構の振り下げを行った。

#### 遺構（図版29、図2・3）

断面の観察地点を、No.1～4とした。

No.1・2地点は溝内にあたり、肩部は検出できなかった。No.3・4の両地点では、溝の東西両肩を検出した。検出面での現存幅は約2.8mで、深さは0.45mである。溝の底部はNo.1地点では標高41.5m、No.4地点では標高41.2mとなり、北から南へと緩やかに傾斜する。No.3地点の肩部は、No.4地点よりやや西に寄るが、これより南側では肩部を検出していないため、方位の傾きは明確ではない。

溝は、褐色・黄褐色系の粘質土層の地山を切り込み、断面形は皿状である。埋土には炭・瓦・礫が多量に混入し、肩口には粗砂が堆積する。溝からは、平安時代後期の土師器が出土した。

No.1地点では溝の上面で、南北幅0.5m、深さ0.46mの土壙を検出した。土壙内から、径0.2m大の石を3石確認したが、伴う遺物がみられず、時期は不明である。



図1 調査位置図 (1:5,000)

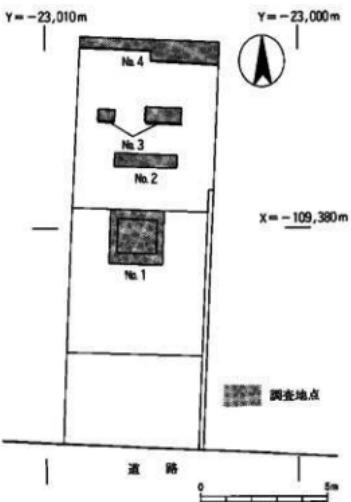


図2 調査地点位置図 (1:200)

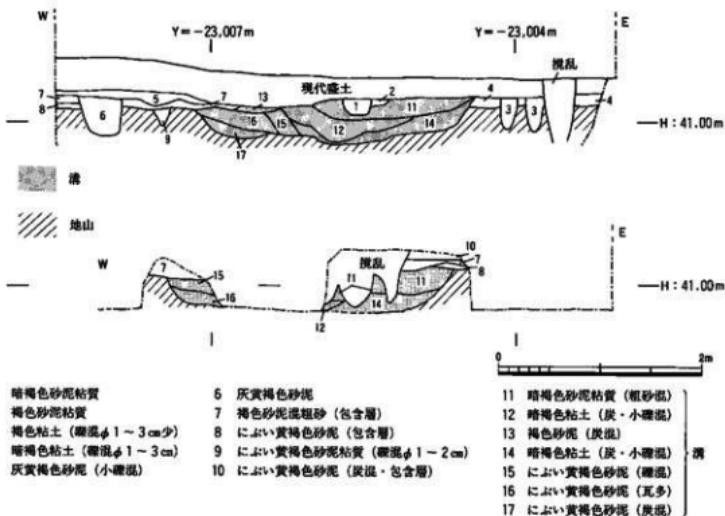


図3 遺構断面図 (1:50)

#### 遺物 (図版29・30、図4~6)

出土した遺物は、整理箱に13箱である。遺物のほとんどが瓦類であるが、土器類も出土している。土器は土師器が大半を占め、須恵器、縁釉陶器、灰釉陶器、瓦器、白磁、白色土器が若干出土した。土師器の器種は主に皿で、コースター状のもの、糸切り高台をもつもの、台付などがある。時期は、平安時代後期(11世紀後半)が主体となる。また、破損した平瓦、丸瓦の他に軒瓦が12点出土し、その内1点にはヘラ書きによる「大」字がある。その他には、陽刻による「人」字、判読不明の文字瓦がある。

土師器皿(1~4・6・7) 1~4は口径10.0~11.0cm、器高1.2~1.6cmである。1は口縁部を強く屈曲させ端部が上方に延びるのに対し、2・3は端部を内側に折曲げる。4は口縁部外面に二段のヨコナデを施す。6は口径14.0cm、器高3.5cmで器壁は厚く、丸みをもった底部より外上方に内窓気味に立ち上がり口縁部に至る。体部外面には、型作りしたような細かい皺が残る。7は口径17.0cm、器高2.6cmと大型の皿である。器壁は薄く、体部は内窓気味に立ち上がり、口縁端部は外反し、丸くおさめる。口縁部外面は二段のヨコナデを施す。

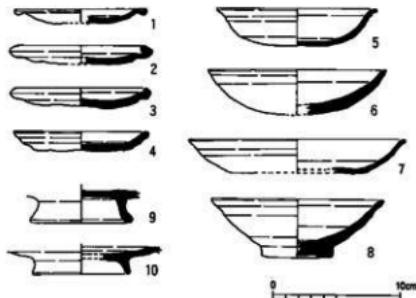


図4 遺物実測図 (1:4)

土師器台付皿(9・10) 台付皿の高台部

で、いずれも貼り付けによるものである。残存器高は9か2.0cm、10は1.1cmである。内・外面ともにヨコナデを施す。特に接合部分は、強いナデにより調整している。皿部は欠損しているため不明であるが、他の出土例からみて大別すると、コースター状と体部が外反する皿の2種類が考えられる。

白色土器皿(5) 口径12.6cm、器高2.9cmで、器壁は薄い。内面と口縁部は丁寧にナデを施し、体部は内弯気味に立ち上がり、口縁部は外反する。11世紀前半である。

白色土器椀(8) 口径13.5cm、器高4.6cmで、器壁は厚い。体部外面はヨコナデ、口縁部には強いヨコナデを施す。糸切りによる高台をもつ。

単弁八葉蓮華文軒丸瓦(11) 中房は平坦で圓線がめぐり、1+8の蓮子を配する。蓮弁は界線と接しており、子葉がある。外区は小粒の珠文を配し、唐草文が右回りにめぐる。瓦当部裏面の

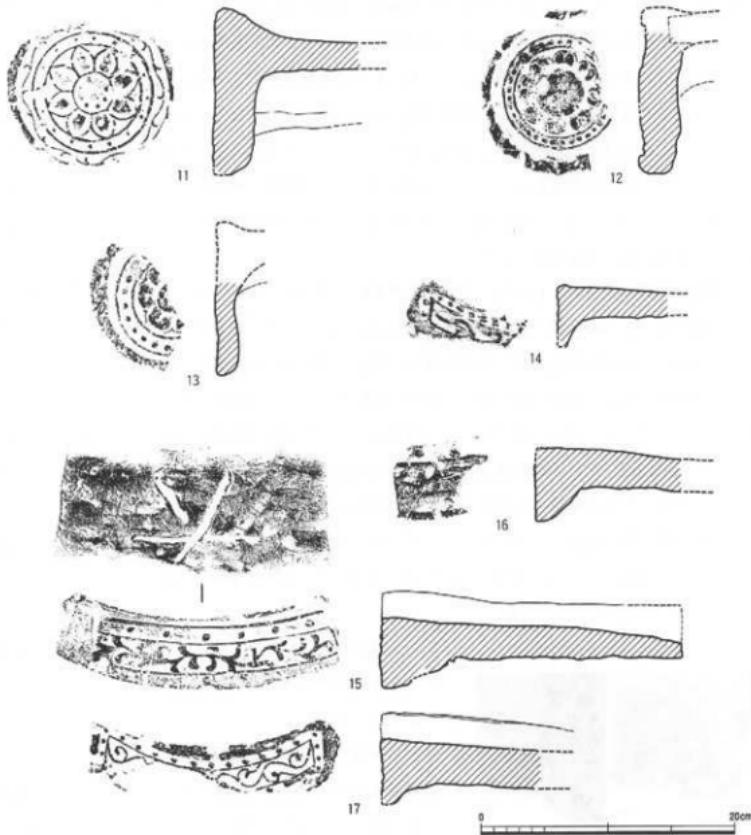


図5 瓦拓影・実測図 (1:4)

上端部に丸瓦をあて、粘土を補強して接合し、ナデ調整を施す。胎土は砂粒を含み、焼成はやや軟質で、黒灰色を呈する。平安時代中期、森ヶ東瓦窯産である。

複弁八葉蓮華文軒丸瓦(12) 中房は凸形で、1+4の蓮子を配する。蓮弁は子葉が盛り上がり、外区には珠文が密にめぐる。瓦当部裏面に溝を付け丸瓦を挿入し、粘土を補強して接合する。瓦当部裏面はナデを施す。胎土は精良で、焼成はやや軟質、灰白色を呈する。平安時代後期、丹波産である。

單弁六葉蓮華文軒丸瓦(13) 中房はやや隆起し、蓮子はない。花弁の中央に窪みを有し、外郭に細い突起がめぐる。外区は幅の広い2本の圓線内に、24個の珠文を密に配する。瓦当部と丸瓦部の接合式で、瓦当部裏面はナデを施す。胎土は砂粒を含み、焼成は硬質で、灰色を呈する。

唐草文軒平瓦(14) 主葉は緩やかに反転し、外区は珠文が密にめぐる。曲線顎で、瓦当部凹面に布目痕が残り、平瓦部凹面にも布目压痕が残る。端部・側面はともにヘラケズリ、平瓦部凸面はナデを施す。胎土は細砂を多く含み、焼成はやや硬質で、暗灰色を呈する。平安時代中期。

均整唐草文軒平瓦(15) 瓦当面の範は右側に大きくずれており、唐草文は中心から両側に3転する。主葉は連続して、反転する。枝葉は巻き込み、先端は丸くなる。外区の珠文は大きく、粗くめぐる。上段の珠文は鮮明だが、下段は消失している。平瓦部凸面、顎部凸面はともに横方向のヘラケズリ、側面は縦方向のヘラケズリを施す。平瓦部凹面に細かい布目压痕が残る。平瓦部凹面中央には、「大」字がヘラ描きにより刻印されている。胎土は砂粒を含み、焼成は硬質で、灰色を呈する。森ヶ東瓦窯産である。

均整唐草文軒平瓦(16) 15と同文で、瓦当面下段に周縁部がある。曲線顎で、平瓦部凹面に布目压痕が残り、凸面は指オサエ、側面は縦方向のヘラケズリ、瓦当部・顎部は横方向のヘラケズリを施す。胎土は砂粒を含み、焼成は硬質、灰色を呈する。森ヶ東瓦窯産である。

唐草文軒平瓦(17) 唐草文は両側から中央に展開し、主葉は連続して大きく反転、枝葉は強く巻き込む。外区には、珠文が密にめぐる。曲線顎で、瓦当部は平瓦部凸面に粘土を付加して成形する。平瓦部凹面に布目压痕が残り、凸面は指オサエ、側面は縦方向のヘラケズリを施す。胎土は砂粒を含み、焼成は軟質、暗灰色を呈する。讃岐産である。

文字瓦(18) 丸瓦凸面に、陽刻による「人」字の刻印がある。第一画の下半に傷がある。左右の下辺は、ほぼ揃っている。刻印の右辺には盛り上がりがあり、横幅は1.8cm、縦は下方が欠損しているが、残存長1.7cmである。

文字瓦(19) 平瓦裏面の側面に近い部分に、陽刻されている。文字の左方には、布目が残存する。文字は判読不明である。

### まとめ

今回検出した平安時代後期の南北溝は、東肩が太政官東限築地心から約58mの位置にあたり、太政官内の施設である朝所の区画溝の可能性がある。ただし、今回は調査の範囲が狭小であったため、この溝が築地の内溝・外

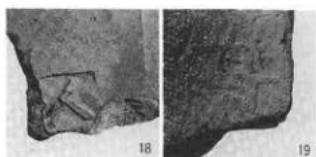


図6 文字瓦

溝のどちらになるかは確認できなかった。

朝所は『大内裏図考証』によると、太政官内の北東隅にあった施設で、東西幅16丈、南北幅11丈とされている。元来は太政官で行われる儀式などの際に、公卿以下の会食場として利用されていたが、内裏焼亡や方違のときの仮の御所となることもあった。また延久元年（1069）には、記録莊園券契所がおかれたなどという記述がある。<sup>註1</sup>

検出した溝の幅は約2.8mで、太政官内の他の調査でも現存幅2.1m、2.4mの規模の溝が検出されている。また、中務省内の調査でも区画施設として、幅2.5m、3.2m規模の溝が検出されている。いずれも平安時代前期・中期の溝であるが、規模からみて今回検出の区画溝と類似している。<sup>註2</sup> <sup>註3</sup> <sup>註4</sup>

太政官内の調査で検出された平安時代後期の溝には、1979年度調査の南北溝がある。この溝は西曹司東面の区画溝と考えられる。太政官内の施設区画幅を想定した見解によると、九条家本・陽明文庫本『宮城図』などから概観して、太政官東西幅57丈から文殿東西幅12丈を引いた45丈を正庁域の東西幅とした場合、朝所－西曹司間に太政官北後房の施設が収まる東西幅は7～9丈となる。正庁域中央部にその幅をとると、朝所の東西幅は18～19丈となる。前述の西曹司東面の南北溝と今回検出した南北溝との距離は約22m（約7丈）となり、太政官東限築地心から約58mに位置するこの溝が朝所西面の区画溝とすると朝所の東西幅は約19丈となり、上述した見解とも一致する。<sup>註5</sup>

太政官跡の既往の調査では、平安時代前期から中期の遺構・遺物の検出が大半を占めていた。今回の事例のように、平安時代後期に比定される遺構の検出、および遺物の出土例は少ない。溝から出土した遺物には、時期差がほとんど認められず、当溝は短期間利用され、廃棄された様相が窺え興味深い。平安時代前期・中期の遺構は確認できなかったが、造営当初の朝所の規模と大きく異なるとは考えられず、朝所の調査成果としてさらに検討し、今後の調査によって明らかにしたい。

（近藤章子）

註1 『御堂閣白記』長徳元年（995）六月二十九日条、『百鍊抄』延久元年（1069）閏二月十一日条などによる。

註2 上村和直「平安宮 太政官跡」『平安京跡発掘調査概要 文化庁国庫補助事業による発掘調査の概要 1979年度』 京都市文化観光局 1980年

註3 久世康博「平安宮太政官跡（HQ53）」『京都市内遺跡試掘・立会調査概報』昭和62年度 京都市文化観光局 1988年

註4 北田栄造「平安宮中務省跡1」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994年

註5 高橋 肇「付章32 朝堂院・太政官・中務省跡」「平安宮I」（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995年

註6 辻 裕司「太政官跡」「平安宮I」（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995年

## 2 平安京左京一条四坊・二条四坊 (97HL404・460)

### 調査経過 (図7)

上京区京都御苑内で和風迎賓館の建設に伴いゲートボール場が移転することになった。平安京左京一条四坊・二条四坊にあたる移転地先で樹木の移植が必要となり、掘削に伴い調査を実施した。樹木の移植は、A地区の樹木をC~N地区に分散し、B地区では東側の樹木を西側に移した。掘削深は平均で-0.5m、最大で-1.0mである。

### 遺構

A地区 移植元の地区である。西端を限るウバメガシの生垣は、C地区に移植された。掘削深-0.4mで、すべて近世盛土の範囲内である。コマツ群はC~N地区に移植された。他にも3本の樹木が移植された。ウバメガシ生垣の掘削では、江戸時代（18~19世紀）の陶磁器が多数出土した。東端のマツの掘削では、深さ-0.4mで洪水層とみられる砂礫を、また深さ-1.0mで路面状の堅い面を検出した。コマツ群の掘削時にヨーロッパ陶器が出土した。

B地区 7箇所を掘削。掘削深は-1.1m。東側の樹木を西側に移す作業が行われたが、樹木が

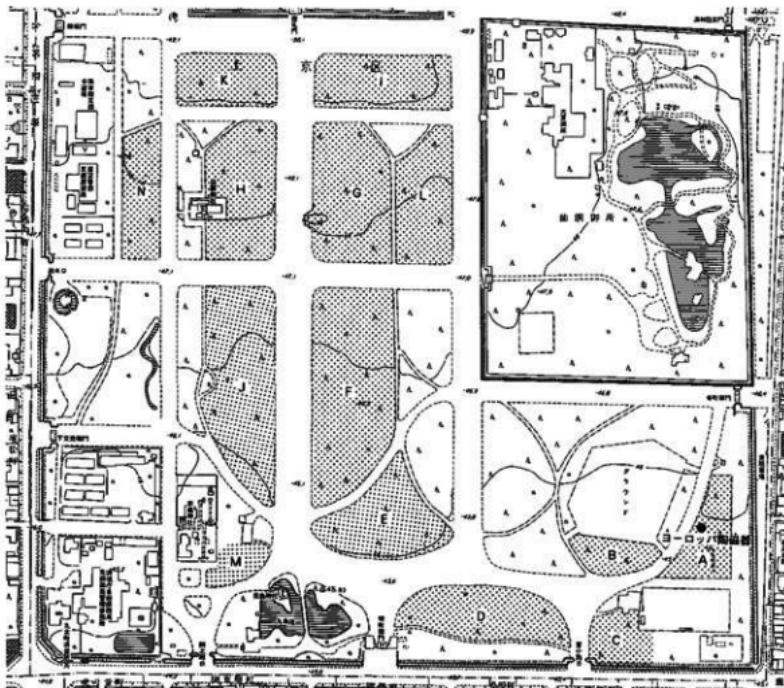


図7 調査位置図 (1:5,000)

大きいため移植穴も大規模となった。西部で江戸時代(18~19世紀)の土器窓を検出し、土器類・壁土が多量に出土した。中央部では-0.95mの褐灰色粗砂層から、室町時代の土器が出土した。また中央部では南北方向の石垣を検出した。東部では平安時代と室町時代の包含層を検出した。

C地区 A地区西端のウバメガシ生垣が移植された地区。掘削深-0.3mまで現代盛土である。  
D地区 19箇所を掘削。掘削深-0.5m。東部で南北方向の石列を検出。西部で石材を廃棄した土壤を検出した。

E地区 6箇所を掘削。掘削深-0.4m。西部では深さ-0.2mで建物の礎石を検出した。  
F地区 15箇所を掘削。掘削深-0.4m。顕著な遺構・遺物は検出できなかった。  
G地区 7箇所を掘削。掘削深-0.5m。南部では、深さ-0.7mで路面状の堅い面を検出した。以下、-1.0mまで洪水層とみられる砂疊を確認した。

H地区 21箇所を掘削。掘削深-0.5m。中央南寄りでは深さ-0.2mで焼土層を検出した。  
I地区 3箇所を掘削。掘削深-0.5m。西端部にて焼土層を検出し、陶磁器が多数出土した。  
J地区 16箇所を掘削。掘削深-0.5m。顕著な遺構・遺物は検出できなかった。  
K地区 3箇所を掘削。掘削深-0.5m。西部では土器窓を検出した。  
L地区 3箇所を掘削。掘削深-0.5m。中央北寄りでは陶磁器が出土した。  
M地区 3箇所を掘削。掘削深-0.5m。南端部にて焼土層を検出した。  
N地区 A地区的ウメを1本移植した。顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

#### 遺物(図8)

出土遺物は江戸時代のものがほとんどで、遺物整理箱で7箱出土した。輸入磁器(青花)、肥前磁器(染付・色絵)、肥前陶器(唐津・京焼風肥前陶器・刷毛三島鉢)、信楽系陶器、丹波系陶器、瀬戸・美濃系磁器(藍文・印判手)、瀬戸・美濃系陶器(鉄釉・灰釉・再興織部)、京・信楽系陶器(鉄釉・染付)、土師質土器(皿・焼塙壺・玩具・人形)、堺・明石系擂鉢・瓦類、輸入ガラス、輸入陶磁器(イギリス・オランダ)、焼けた壁土である。その中でA地区で出土したヨーロッパ陶磁器について概述する。

図8-1はオランダ・マーストリヒト製フロウンブルー・チャイナ(にじみ手)のカップもしくはボウルで、文様型式は不明。日本の都市遺跡ではヒンドスタン型式の皿が長崎出島で出土しており、ペトルス・レグー窯製とされている。

図8-2はイギリス製銅版転写軟質磁器で、通称「ストーン・チャイナ」と呼称される軟質磁器皿。文様はスタンダード・ウィロー型式で、19世紀後半を通じて最も多用されたシノワズリー(中国趣味)である。この文様型式は、1830年頃には最も一般的なものになっており、世界中に伝播している。ニューヨークをはじめ、日本各地の都市遺跡からの出土例も多い。

図8-3はイギリス製クリームウェア(白磁)、おそらくはスタフォードシャーで製作されたと考えられるポット、もしくは花瓶の一部(頭部)である。遺跡出土の遺物としては類例のないタイプである。出土したヨーロッパ陶磁器は、共伴した他の国産陶磁器の年代観(19世紀中頃)とも矛盾せず、幕末期に一括廃棄されたものと考えられる。

## まとめ

掘削深が浅かったため、平安時代から中世に属する遺構・遺物はほとんど検出できず、江戸時代後期から明治時代に属する遺構・遺物を検出した。検出遺構としては、E地区で建物礎石、B・D地区で石列、G地区で路面状の礎を敷いた面、B・K地区で大規模な火災整理土壤がある。またH・I・M地区では焼土層の堆積がみられた。B地区では平安・室町時代の遺物包含層を確認したが、これは掘削が深かったためであろう。A地区で出土したヨーロッパ陶磁器は、公家の所持品として注目される遺物である。

(能芝 勉・丸川義広)

註 ヨーロッパ陶磁器については、神戸市立博物館学芸員の岡 泰正氏の御教示による。

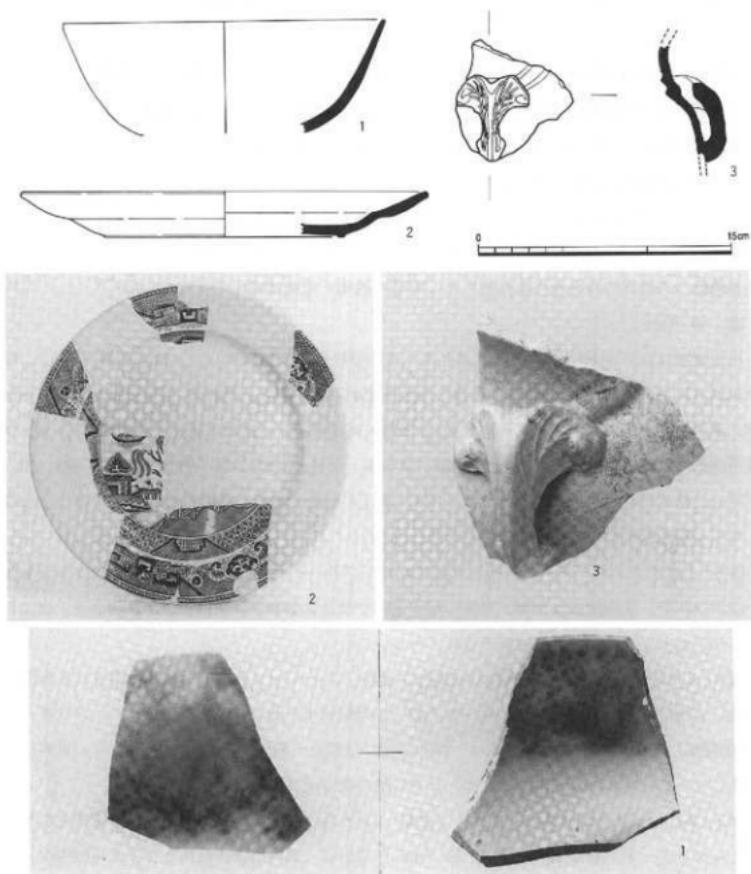


図8 出土遺物・実測図 (1:3)

### 3 平安京左京五条二坊八町 (97HL478)

#### 調査経過 (図9)

この調査は、下京区岩上通四条下る佐竹町392-1・2、394-1・2番地におけるマンション建設工事に伴う調査である。当地は平安京左京五条二坊八町と、室町時代後半に建てられた妙満寺の寺域にあたり、近辺では、これまでに10件の立会調査が行われ、平安時代中・後期、室町時代等の遺構を検出している。今回の調査はそれらに関連する、遺構・遺物の検出に期待がかかる。

調査は、1998年3月10日から5月14日まで

実施した。調査の結果、調査区中央を東西方向に流れる平安時代末期から鎌倉時代の濠状造構や室町時代の井戸を検出した。

#### 遺構 (図版31・32、図10・11)

基本層序は調査地中央部のB地点の北側で、-0.75mまでが現代盛土、-0.94mまでが灰黄褐色砂泥層、-1.08mで平安時代後期から末期の遺物包含層である暗灰黃色泥土層、以下はにぶい黄褐色砂泥の地山である。

調査区北半部で東西方向の濠状造構を検出した。最大幅8.3m、深さ1.9m以上を測る。濠の底は西から東へと下がり、断面形状は西側のA地点では緩やかな皿状を呈するが、B・C地点では北側が垂直に近い肩であるのに対して、南側は緩やかである。濠の方向はほぼ東西であるが正確には、B～C地点が真東に流れている以外は、西側は北東へやや折曲しているが、全体としては緩やかに蛇行している。埋土は上層・中層は灰色系の砂泥で、下層は泥土・細砂で炭を含んでいる。埋土からの遺物の出土状況はB地点で上層（-0.7～1.0m）からは近世、中層（-1.7～2.0m）で室町時代後期から桃山時代、下層（-2.0～2.2m）からは平安時代末期から鎌倉時代の遺物が多量に出土した。特にD地点では、一括で投棄された状態で瓦器鍋が多数出土した。杭列は東西方向で10.3mに渡って確認した。杭の残存長は、良好



図9 調査位置図 (1:5,000)

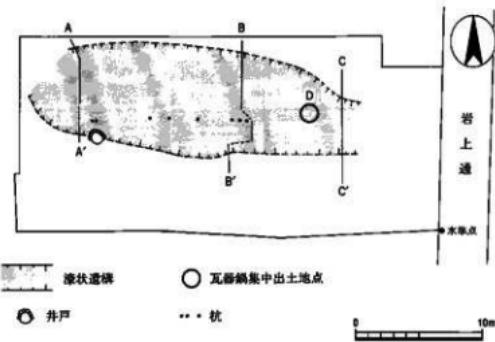


図10 遺構位置図 (1:400)

な杭は-1.17mで長さ0.8m・径0.05mを測る。杭の南側では炭化した板材を確認している。

漆状造構南側の整地層で、平安時代末期から鎌倉時代と室町時代の土壌を多数検出した。また室町時代の円形の石組井戸も検出している。規模は径約0.9m、深さは1.0m以上である。

#### 遺物(図版32・33、図12・13)

遺物は整理箱に16箱出土した。時期は平安時代中期から近世で、鎌倉時代が主体である。

#### 漆状造構A地点出土土器(図12-1~9)

土師器(1~6) 1はいわゆるコースター状のもので、口径8.8cm。2~4は小型皿で、口径8.6~9.2cm。5・6は大型皿で、口径は5が13.5cm、6が13.4cm。7は高杯の脚部。11面に面取りされて、一部に段がある。胎土は灰白色を呈する。

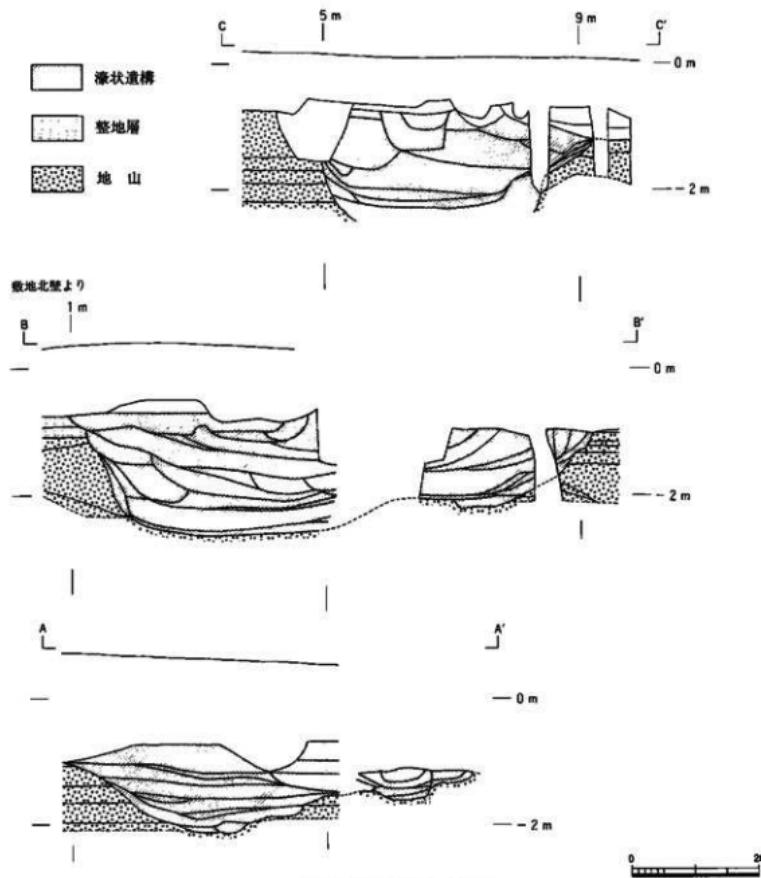


図11 遺構断面図(1:80)

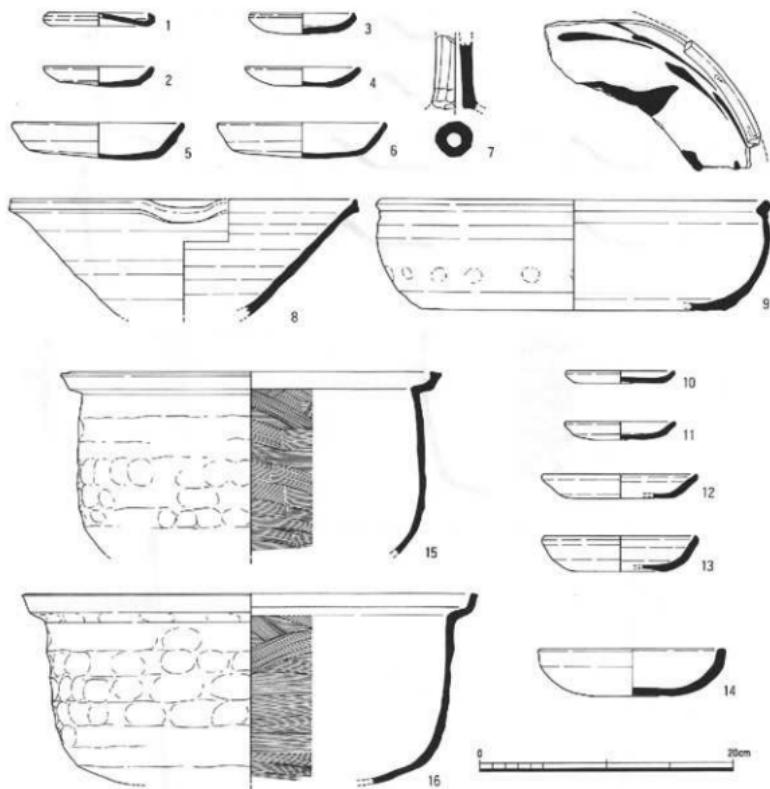


図12 漆状造構出土遺物実測図 (1:4)

陶器(8・9) 8は片口の焼締陶器鉢である。内面には体部から底部にかけて使用痕がある。東播系産。口径27.4cm。9は黄釉陶器盤である。口縁が玉縁で体部は丸い。口縁端部の上端に重ね焼きの目跡が付き、体部外面の中央から少し下にも目跡らしいものがめぐる。施釉は内面だけで、黄釉地に褐釉で文様を描く。文様は中心花を葉が丸くめぐるものに類似する。華南産。口径31.0cm、器高8.7cm。

#### 漆状造構D地点出土土器 (図12-10~16)

土師器(10~13) 10~13は皿で大・小の2種に分かれる。10・11は小型皿で、口径は10が8.6cm、11が8.9cm。12・13は大型皿で、口径12.2cm。

瓦器(14~16) 14は鉢である。丸い体部から口縁部が立ち上がり、平坦な端部がつく。底部外側は未調整で、それ以外はナデを施す。器壁は0.7cmと厚い。口径14.8cm、器高3.7cm。15・16は鍋である。口径は15が30.0cm、16が35.8cm。いずれも頭部から体部にかけて煤が付着している。

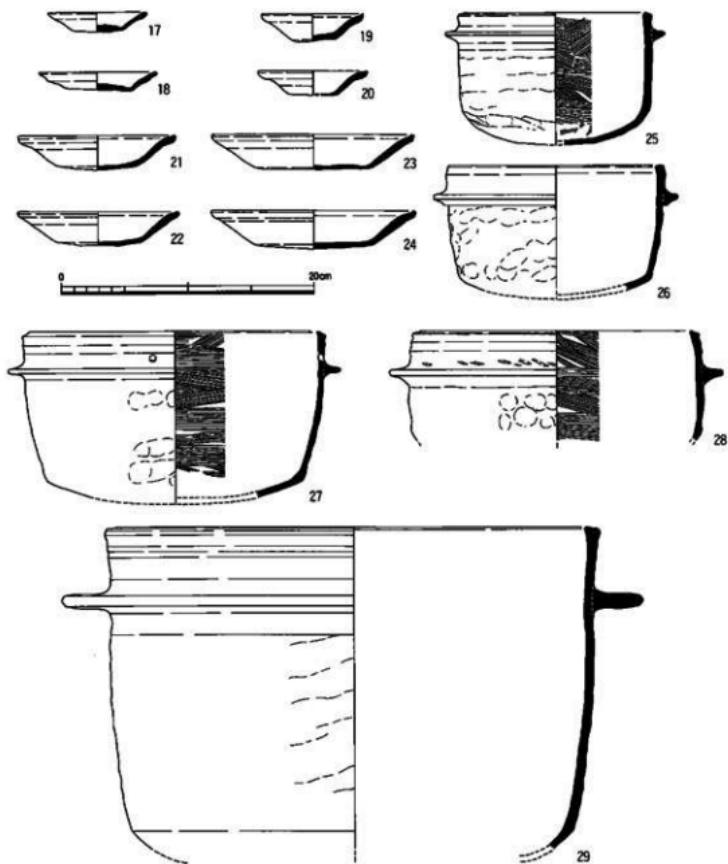


図13 井戸出土遺物実測図 (1:4)

#### 井戸内出土土器 (図13)

土師器皿(17~24) 大・中・小の3種に分かれる。17・18は赤色系土器の小型皿で口径は17が7.8cm、18が9.3cm。19・20は白色系土器の小型皿である。19は口径8.0cm、20は8.6cm。21・22は白色系土器の中型皿で21が口径12.4cm、22は12.8cm。23・24は白色系土器の大型皿で23が口径16.0cm、24が16.2cm。

瓦器羽釜(25~29) 大・中・小と大きさは3種類ある。小型25・26は口径15.2cm、16.8cmで、器高10.3cm。中型27・28は口径21.8cm、22.6cm。大型29は口径38.6cm。内面の調整は26・29がナデ、25・27・28が横方向のハケメを施す。27は焼成後に、口縁部に径0.6cmの穴が穿かれている。破片のため穴の個数は不明である。いずれも外面の体部から底部にかけて煤が付着している。

## ま と め

調査では、東西方向に流れる平安時代末期から鎌倉時代の濠状造構を検出した。この時期の幅8mを越える濠状造構は、京内の条坊側溝および条坊に伴う河川以外で検出された事例はない。検出した濠状造構は、緩やかに蛇行しているため方向は一定ではない。そのため四行八門に開連する区画溝の可能性はその規模からみても少ない。

この濠状造構を東に延ばすと東堀川に合流する。濠状造構は幅8.3m、深さ1.9m以上で、その規模は導水・排水としての機能を越えており、単なる水路としては捉えがたい。東堀川は東市への物資運搬にも利用されていた南北河川と考えられているが、濠状造構が同一の機能をもった東堀川に取り付く東西水路とみると、東堀川と当地点間での検出事例がないため可能性だけにとどめておきたい。さらに、平安時代後期には居館・寺院を囲む堀が京内にも出現することから、その可能性も付け加えておきたい。

また、今回検出した室町時代の遺構・遺物は、妙満寺に直接関連するものであろう。

(吉本健吾・竜子正彦)

#### 4 平安京左京五条三坊八町・烏丸綾小路遺跡 (98HL165)

##### 調査経過 (図14)

調査地は、下京区室町通四条下る鶴鉢町491番地他、池坊学園の学舎改築工事に伴い、1998年8月3日から9月4日の間、計12日調査を行った。当該地は、平安京左京五条三坊八町、および弥生時代の集落跡である烏丸綾小路遺跡に位置する。

調査地の大部分は、1991年度調査地に重複する。<sup>社1</sup>また、北隣接地は1987年に、<sup>社2</sup>西隣接地は1995年<sup>社3</sup>に調査が行われた。これらの調査では、弥生時代から江戸時代の遺構・遺物を多量に検出し

ている。今回の調査でも、それらに関連する遺構の検出が予想された。

調査可能な面積は狭小であったが、弥生時代中期の遺物を多量に包含する溝状遺構、平安時代から江戸時代の包含層、鎌倉時代の土壌を検出した。

##### 遺構 (図版34、図15・16)

敷地北東角を水準点とした。

No.1 地点 -1.17m の第3層で、平安時代後期から鎌倉時代の包含層を検出した。-1.5m から下層の第5・6層は時期不明の池状堆積となる。

No.2 地点 掘削面-2.0m で、東西約2m、南北1m以上 の不定形の土壌を検出した。土壌内からは鎌倉時代の土器類とともに、人骨片、銭が出土しており、土壌基の可能性をもつ土壌である。

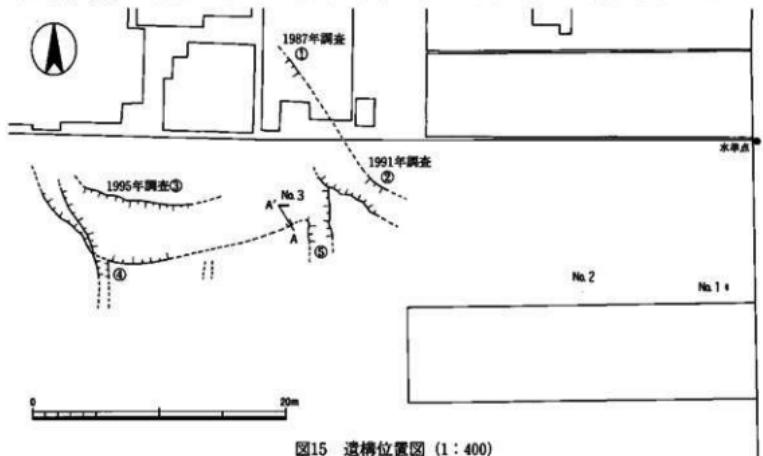


図14 調査位置図 (1:5,000)

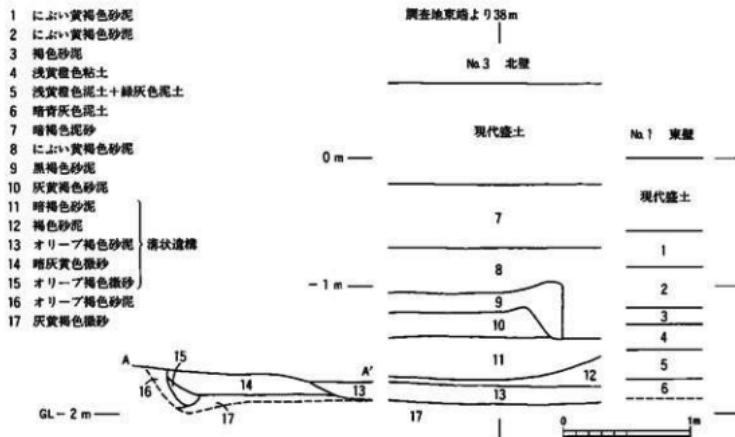


図16 No. 1・3 地点断面図 (1:40)

No. 3 地点 敷地北側の断面観察により、-0.2m の第 7～11 層で、平安時代後期から江戸時代の包含層を 5 層確認した。その下層から弥生土器が出土したため、掘削面を精査し掘り下げた。その結果、東西方向に広がる状態で土器が出土し、一部では南肩を検出したことから、溝状遺構と判断した。溝内からは弥生時代中期の遺物が多量に出土し、2 箇所に土器の集中する箇所があった。溝の南肩付近は、微砂層になる。

#### ま と め (図15)

今回 No. 3 地点で検出した弥生時代中期の溝状遺構は、土器が集中して出土する箇所がみられ、調査区外西方への広がりを示していた。これは西隣接地の調査で検出された、弥生時代中期の東西方向の自然流路 (図15-③) から続くものと思われる。この流路は南北幅約 4.5m で、北西方向から流れ、緩やかに屈曲して東へと流れている。また、流路から南に分流する幅 1m の狭い支流もある (図15-④)。図15-⑤は流路から引水する溝である。また北隣接地の調査で検出した東肩部 (図15-①) は、②の流路に合流する溝である。このように調査地を含む周辺は、弥生時代中期には北西方向からの流路が、支流、溝に分岐していく流域であったことを知り得た。

(近藤・菅田 薫)

註 1 百瀬正恒「平安京左京五条三坊」『平成 2 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財) 京都市埋蔵文化財研究所 1994 年

註 2 久世康博「平安京左京五条三坊」『京都市内遺跡試掘・立会調査概報』昭和 62 年度 京都市文化観光局 1988 年

註 3 「平安京左京五条三坊八町」『平安京跡研究調査報告』第 19 号 (財) 古代学協会 1997 年

## 5 平安京右京一条二坊十五町 (98HL89)

### 調査経過 (図17)

調査は、中京区西ノ京中保町24-1番地におけるマンション建設工事に伴い実施した。当地は平安京右京一条二坊十五町の南端と近衛大路にあたり、また西側には御土居跡が推定されている。当地北側の1987年度調査では、平安時代前期の遺物包含層、鎌倉・室町時代の溝・土壌・柱穴、桃山時代の溝、および御土居に伴う濠を検出している。

調査は1998年6月8日から開始し、掘削工事終了の6月16日まで実施した。調査の結果、平安時代の東西方向の濠状造構と平安時代前期の井戸を検出した。

### 造構 (図版35、図18・19)

調査地は旧地形が南から北へ高くなっていたのを近世に削平しており、土層は北側では-0.07mまで暗褐色砂泥の近世層、-0.07m以下は褐色砂泥の地山である。中央より南側では-0.29mまでが現代盛土、-0.44mまでが平安時代末期の遺物包含層（黒褐色砂泥・褐灰色砂泥）、-0.53mに黄褐色微砂の火山灰層、以下は浅黄色粘土の地山となる。

調査区の南側の東西両壁で東西方向の濠状構の北肩を検出した。規模は最大幅5.0m以上、深さ1.5m以上である。検出地点は近衛大路北側溝の推定地にあたるが、北肩口は北築地推定線近くにおよび、大路の側溝推定幅をはるかに越えていた。南肩は調査区内では検出できず、調査区南側の現道路までおよんでいるとみられる。底面は洪水により侵食を受けたとみられる凹凸があり、傾斜方向は不明確であった。北肩の傾斜は西側の1地点は緩やかで、2～4地点は垂直に近い。3地点で調査地南端より北へ約4.6mの地点に護岸と考えられる杭を検出している。埋土は-1.0mで大きく2層に分かれ、上層は黒褐色砂泥、下層は褐色粗砂である。遺物の出土状況は上層は平安時代後期、下層は平安時代中期から後期の遺物が出土している。他に4地点の下層（-0.78～-1.5m・黒褐色泥土）から平安時代前期、中層（-0.65～-0.78m・黒褐色砂泥）と3地点の肩口の層（-1.0～-1.2m・黑色砂泥）からは平安時代前期から中期の遺物が出土している。



図17 調査位置図 (1:5,000)

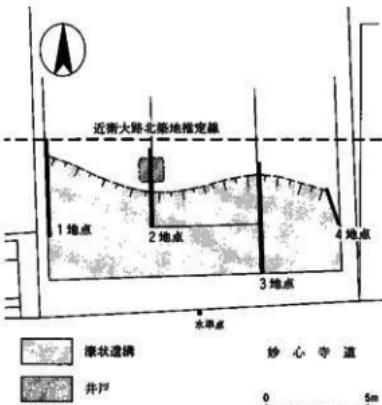


図18 造構位置図 (1:250)

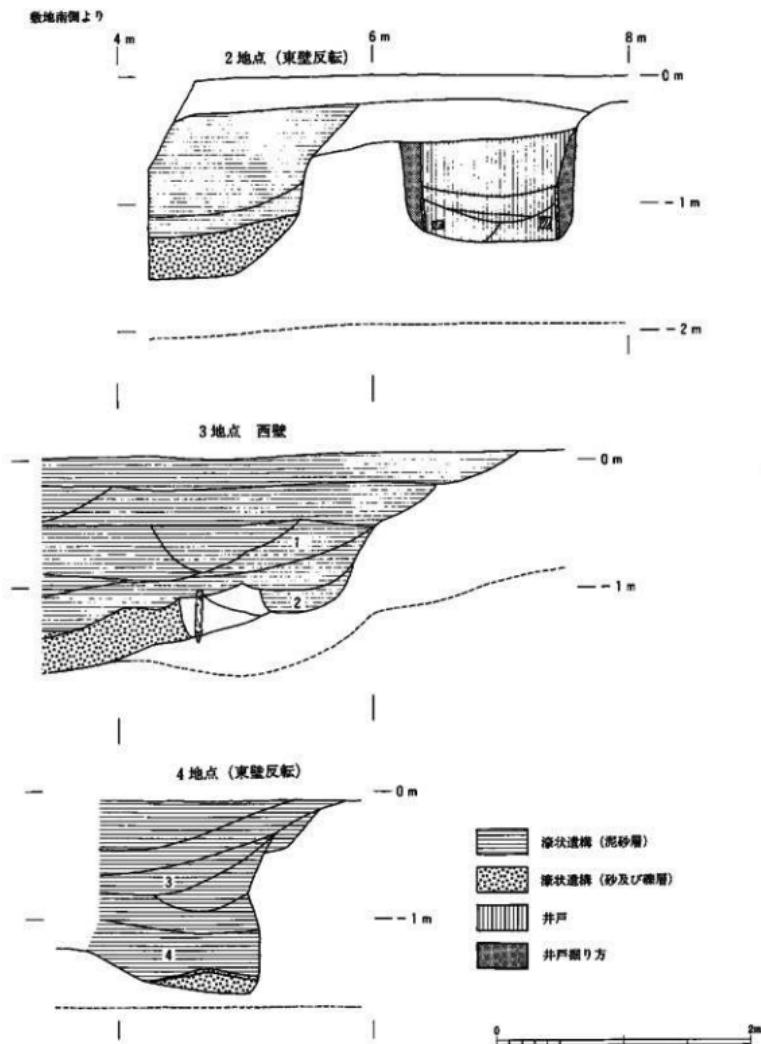


図19 遺構断面図 (1:40)

平安時代前期の井戸は、-0.4mで検出した。ここは近衛大路北側の築地の大走り推定地にあたる。井戸の掘形は一辺1.4mで、井戸枠は一辺1.1m、深さ0.9mの方形縦板枠組で、両壁に板と棟の角材の一部が残存していた。遺物は井戸内の埋土の上層（-0.4～0.95m・黒褐色砂泥）と中層（-0.95～1.12m・黒褐色泥土）から平安時代前期の遺物が出土している。

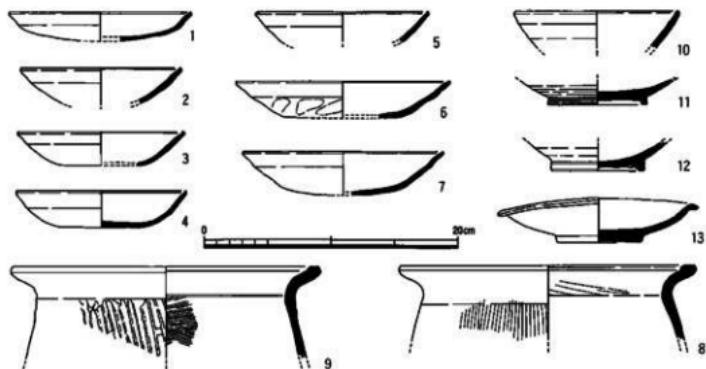


図20 遺物実測図 (1:4)

#### 遺 物 (図版36、図20)

遺物は整理箱に3箱出土した。内容としては、平安時代の土師器皿・杯・高杯・甕・羽釜、須恵器杯・甕・鉢・壺、綠釉陶器皿・椀、灰釉陶器椀・壺、黒色土器椀・甕、白色土器皿・椀、白磁椀、瓦類が、その他に、中・近世の土師器皿、青磁、瓦類がある。

各遺物は、3地点-1層(1・3・6・7・13)・2層(4)、4地点-3層(11)・4層(2・5・8~10・12・14)から出土している。

1~9は土師器である。1は皿で口径14.4cm。2~7は杯で2~5の口径は12.5~13.6cm、6・7は口径15.8cm。8・9は甕で体部外面の調整を8はハケメ、9は平行タタキを施す。10は須恵器杯で口径13.1cm。11は白色土器で底径7.8cm。12は綠釉陶器椀で、底部外面の高台際を除く全面に施釉している。淡緑色を呈し、胎土は須恵質である。底径7.4cm。13はほぼ完形の綠釉陶器皿で、全面に施釉し、淡緑灰色を呈する。口径15.8cm、器高3.5cm。

14(図版36)は漆付着布片で、漆は須恵器甕の体部の内外面に付着し、布は内面の一部に漆とともに貼り付いており、甕の体部の最大径から下方の部分に付着していた。布は麻類の平織りで、織りの密度は1cm間に経糸12本、緯糸10本あり、撚糸の本数は経糸が2本、緯糸が3~4本である。布の用途等については、小破片であること、他の類例がなく詳細は不明である。<sup>註2</sup>

#### ま と め

調査では、東西方向の幅5.0mを超える平安時代の濠状造構の北肩を検出した。これは近衛大路北側溝と考えられる。右京域でこのような推定幅を超える大規模な側溝は、一条大路北側溝、西大宮大路西側溝、朱雀大路西側溝、野寺小路西側溝、宇多小路東側溝などの検出例がある。また、路面側溝の機能を越えた運河的な性格をもつ西堀川、佐井川の例もある。西堀川は発掘調査で幅6.0m、深さ1.0mの規模で検出され、佐井川の調査でも、平安時代中期には東側溝が幅10m以上の規模で河川化されていたことが判明している。今回検出した濠状造構は幅5.0m以上、深さ1.5m以上という規模からみると、西堀川、佐井川に類似している。南北に流れる西堀川・佐

井川が西市への物資輸送の水路として利用されていたと考えられており、これらに取り付く同一の機能をもった東西方向の水路として捉えたい。

しかし南肩が未検出なため、大路・路面との関係も不明であることから可能性にとどめておく。

(吉本・竜子)

註1 菅田 薫「平安京右京一条二坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1991年

註2 漆と布の分析・鑑定については、奈良国立文化財研究所客員研究員（京都工芸織維大学名誉教授）佐藤昌憲氏、元興寺文化財研究所保存科学センター主任研究員 北野信彦氏に御教示いただいた。

註3 堀内明博「平安京右京五条二坊」『平安京跡発掘調査報告』昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査センター・（財）京都市埋蔵文化財研究所 1981年

註4 辻 裕司「平安京右京四条二坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1993年

## 6 平安京右京四条二坊十三町 (97HR498)

### 調査経過 (図21)

右京区西院東淳和院町2-1番地において店舗建築が計画され、1998年3月25日、事前に隣地建物の基礎の深さなどを見るための7箇所の試験掘りを立会調査した。その内、四条通に近い4箇所から平安時代前期の遺物が多量に出土した。

当地は、平安京右京四条二坊十三町にあたり、十一町から十四町までの四町は淳和天皇の離宮である淳和院（齋院）のあったところとされている。

そこで、京都市埋蔵文化財調査センターの指導のもと、業者の協力を得て、隣地土留め工事の終了後、緊急調査を開始した。

調査地は、面積約240m<sup>2</sup>のL字状の細長い敷地で、調査区は南北23m、幅1.8mのNo.8トレンチと東西9m、幅1.5mのNo.9トレンチを敷地に沿って設定した。調査は、表土下0.5mまで重機で掘削し、その後、遺構検出・実測などを行った。調査期間は4月3日から4月10日までである。

調査の結果、平安時代の四条大路北側溝、築地、溝2条などを検出した。

### 遺構 (図版37・38、図22・23)

今回検出した主要な遺構は、No.8トレンチの南半で、四条大路の北側溝（SD1）と、築地部分の北側で2条の内溝（SD2・SD3）、また、No.9トレンチの北東端で弥生時代から古墳時代



図21 調査位置図 (1:5,000)

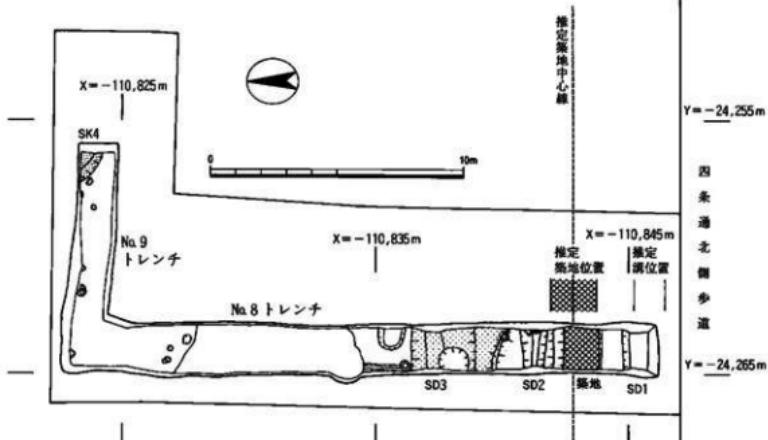


図22 調査区位置図 (1:200)

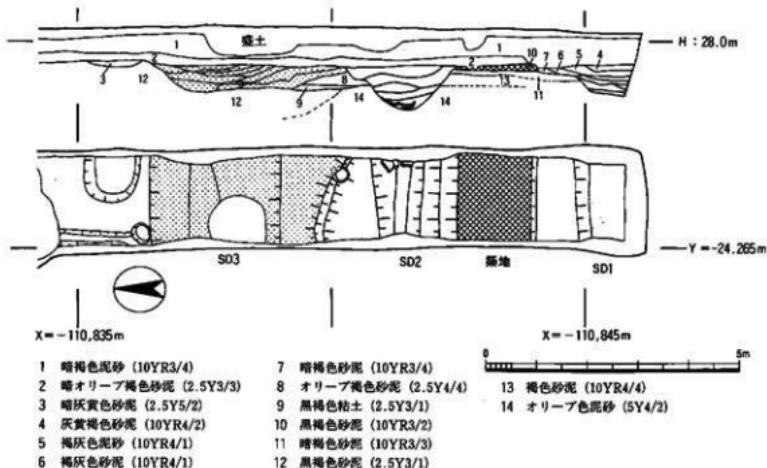


図23 No.8 トレンチ平面・断面図 (1:100)

の土壤 (SK 4) を検出した。

SD 1 南肩は検出できなかったが、幅は上端で1.2m以上、下端で0.7m以上、深さ約0.4mを確認した。埋土は5層に分けられ、黒褐色の粘土と砂の互層堆積で、各層からは平安時代後期の遺物が出土した。

SD 2 幅2.25m、深さ1.27m、埋土は5層に分けられ、黒褐色の粘質土が層をなす湿地状の堆積であった。上層からは平安時代後期、最下層からは平安時代前期の遺物が出土した。

SD 3 SD 2 の北側に位置する溝で、幅3.9m、深さ0.55m。埋土は13層に分けられ、各層からは瓦の出土が多い。上層の埋土は人為的に埋められたと思われる土層で、上面では瓦を敷き固めた面が認められ、下層からは平安時代前期の遺物が出土した。

SK 4 東西1.5m以上、南北1.0m以上、深さ0.2mである。北東方向に緩やかに落ち込んでおり、埋土は黒褐色砂泥で、弥生時代から古墳時代の土器小片が多数出土した。

#### 遺物 (図24)

遺物は整理箱に18箱出土した。SD 1からの遺物 (1~4) は12世紀と思われる。SD 2からの遺物 (5~7) は9世紀後半の6と、12世紀の5・7の2群がある。また、最下層からは大型の丸・平瓦が数点、完形で出土した。SD 3からの遺物 (8~16) は9世紀中葉、溝の上面の整地層からは12世紀の輸入青磁皿 (18・19) や黒色土器の風字硯の小片が出土している。ほかに、SD 3の下層からは、平安時代前期の土器とともに、フイゴの羽口や溶滓片が約30点出土し、9トレンチの北東角のSK 4からは、弥生時代から古墳時代にかけての土器小片が多量に出土した。

青磁皿(1) 小片で、緑灰色の釉を施す。見込みに強い凹線を入れる。同安窯系の平底皿で無文である。

土師器皿(2) 二段ナデが退化し、一段ナデになったもので、大型の類にはいる。口径は14.2

cm、器高2.6cm。

瓦器椀(3) 口径14.7cm、器高5.6cm。見込みに連結暗文が入り、内面には細幅の暗文が全面に、外面には口縁部近くにのみ暗文を施す。底部の高台は小さな逆台形になり退化が著しい。

白磁椀(4) 器底部は厚く高台部の削りは浅い。見込みに沈圈線はなく、使用痕が認められる。

土師器皿(5) 口径14.7cm、器高2.2cm。一段ナデ仕上げである。

土師器皿(6) 口径15.8cm、器高2.0cm。体部はわずかに屈曲しながら外反し、口縁端部を内に折り返す。外面の下半分にヘラケズリを施す。

瓦器羽釜(7) 口径25.2cm。鍔部は貼り付け、内面にはハケメが認められ、体部外面は指圧痕が顕著である。

須恵器蓋(8) 直径13.4cm。平坦な天井部から段をつくり口縁部となり、端部は小さく外下方に開く。焼成は硬い。

須恵器杯(9) 口径13.7cm、器高5.0cm。底部にはヘラ切り痕を残し、低く小さい高台が付く。体部は内弯気味に立ち上がる。

土師器椀(10) 口径14.3cm、器高3.0cm。体部は大きく外傾し、口縁端部はわずかに肥厚する。底部外面から口縁近くまで指圧痕が残り、口縁部はヨコナデを施す。

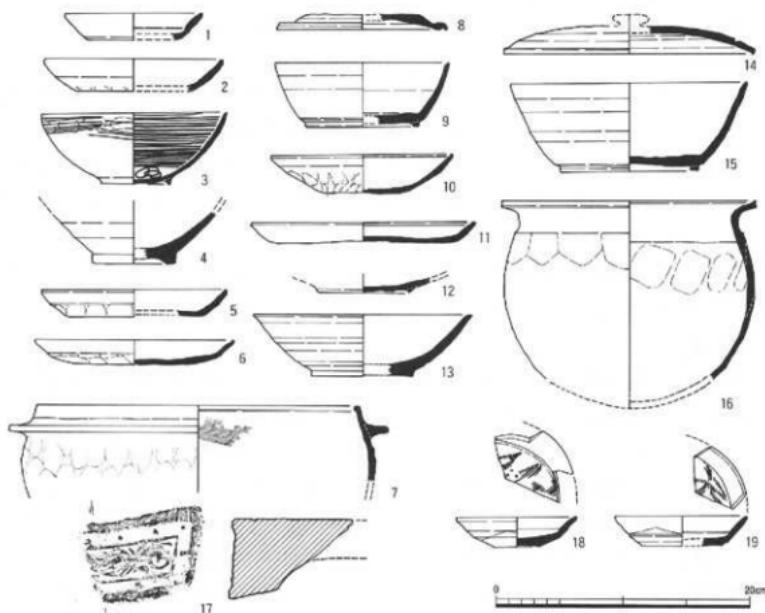


図24 遺物実測図 (1:4)

土師器皿(11) 口径17.7cm、器高1.5cm。器高は低く、扁平な皿で、口縁端部は肥厚させる。底部外面には指圧痕が明瞭に残る。

土師器椀(12) 底部のみの破片。断面が三角形の小さな高台を貼り付ける。色調は暗褐色を呈する。

白色土器椀(13) 口径17.3cm、器高4.8cm。体部は内弯気味に立ち上がり、口縁端部は外反する。体部外面の下半にはケズリを施す。高台は平高台である。表面が磨滅しており、ミガキは観察できない。

須恵器蓋(14) 直径19.8cm。形状は、天井部からなだらかにカーブしてそのまま口縁に至り、口縁端部は下方に突出しない。

須恵器杯(15) 口径14.7cm、器高7.0cm。回転ナデ調整が非常に丁寧である。胎土の中心は赤褐色、外面は暗灰色を呈する。底部はヘラ切りで、小さく低い台形の高台が付く。

土師器甕(16) 口径20.0cm。口縁部を強く「く」字に折り曲げ、外周部に一条の凹線がめぐる。体部外面には、指圧痕と平板の叩き痕、内面に丸い当て具痕が認められ、丁寧なナデを施す。色調は暗褐色を呈し、河内系とみられる。

均整唐草文軒平瓦(17) 瓦当面の磨滅が著しく、文様は不鮮明である。外区の珠文の間隔は広い。断面は段階状を呈す。平安時代前期のものと思われる。

青磁皿(18・19) 同安窯系で、内面に描書きの陰刻文様を施し、外底部と立ち上がり部は無釉で、強いケズリを施す。釉は浸し掛けである。

### ま と め

四条大路北側溝は、出土遺物から造営当初より平安時代後期まで機能していたことがわかった。内溝は上層からは平安時代後期の遺物が出土し、最下層からは大型の瓦類と平安時代前期の土器類が出土している。この溝は、平安時代前期に造られ、後期に埋められたと考えられる。また、SD 3 からは平安時代前期の土器類や多量の瓦類が出土している。このことから、SD 3 が幅広く造られ、その後埋められて内溝が深く掘り直されたものと考えられる。

『延喜式』には、四条大路は築地心間で8丈（約24m）、築地幅は6尺（約1.8m）、大行幅は5尺（約1.5m）、側溝4尺（約1.2m）とあり、築地と内溝との間隔もあることから、内溝の南肩と北側溝の北肩との間隔は少なくとも11尺（約3.3m）以上あることになる。しかし実際には、SD 1 と SD 2 との間隔は約2.3mと狭くなっていたことを示している。また、SD 1 は推定位置よりも0.51m築地側に入り込んでいる。

今回の調査では、築地が側溝と内溝に入り込まれて1.1m狭くなり、さらに、築地は推定線よりも南側で見られた。約100m西の1992年度調査でも、南面築地の位置が推定よりも南にずれることが確認されている。このような状況の一つの理由として、排水のための溝が重視されたためと考えられる。当地を含む淳和院の推定地は、三条坊門小路以南が現地形からみても低いことから、洪水になりやすく引・排水がきわめて困難であったとみられる。また周辺の調査から、推定地内の野寺小路の東側は湿地状であったことが窺え、土地利用の限界性が示されている。それら

のことから内溝の改修にみられるように、排水機能の充実が淳和院を維持・管理するにあたり不可欠な課題であったといえる。

また、調査区北東角のSK 4からは小片ではあるが、多量の弥生時代から古墳時代の土器が出土している。調査地北東に広がる弥生時代から古墳時代の遺物散布地である壬生遺跡との関連が窺われる。

今回は、緊急調査であったため制約も多いことから、条坊関連の遺構の調査に重点をおいた。そのため、淳和院に関する調査は不十分であったといえる。しかし、遺構の残存状態は良好であり、一定の成果は得られた。今後は、周辺の狭小な敷地であっても綿密な調査をすることによって、淳和院の全容が明らかにされることが望まれる。  
(尾藤徳行・吉村正親)

註 吉川義彦『淳和院跡発掘調査報告』 関西文化財調査会 1997年

### III その他の遺跡

#### 7 京都大学北部構内遺跡 (98KS161)

##### 調査経過 (図25)

調査地は左京区北白川追分町4番地で、今回マンション建設工事に伴い、調査を実施した。当地は、京都大学構内遺跡群の一部である縄文時代から近世の北部構内遺跡にあたる。1990年から断続的に継続してきた今出川通の白川分水路計画に伴う調査のうち、後二条天皇北白河陵から理学部正門前までの5・6次調査では、縄文時代から弥生時代の土器棺墓などを検出し、多くの遺物を採取している。当地は同陵墓の西隣接地にあり、5・6次調査に関連する遺構・遺物の検出が期待された。

調査は1998年7月30日から8月1日に行い、その結果、弥生時代前期の土器棺墓とみられる甕と縄文時代から中世の遺物を採取した。

##### 遺構 (図版39、図26・27)

水準点は敷地南東角の縁石上とした。

No.1～6地点を断面実測し、その他の区域では遺物を採取した。基本層序は、水準点-0.37mで耕作土、-0.42～-0.97mの間は中世の遺物包含層、-0.97mで黄色砂となり、厚さは北西方に向へ薄くなる。-1.22mで縄文時代の遺物包含層、-1.57mでよい黄橙色粗砂層の地山となる。

No.1地点は、基本層序どおりである。

No.2地点は、No.1地点とはほぼ同様の層序であるが、黄色砂層に代わり褐色泥砂層となる。

No.3地点では、-1.04mで幅0.5m、深さ0.36mの落込を検出した。断面形状はU字形である。出土遺物はなく時期は不明である。

No.4地点では、No.1地点とはほぼ同様の層序であるが、黄色砂層が0.53mと厚くなる。

No.5地点では、-1.46mで弥生土器の蓋が逆位の状態で出土した。



図25 調査位置図 (1:5,000)

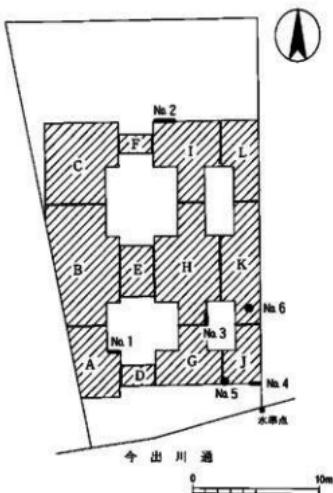


図26 調査地点位置図 (1:400)

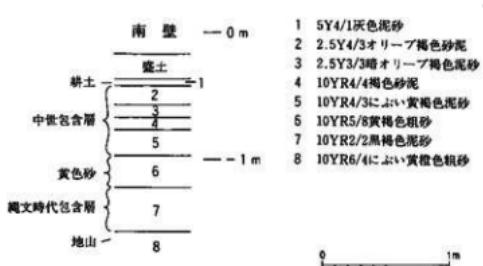


図27 No. 1 地点柱状断面図 (1:40)

ら、縄文土器の深鉢・鉢、弥生土器の壺・甕・蓋が出土した。

各遺物は、B区(9・17・23・42・44)、E区(1・2・4・6・8・16・20・22・24・30・33・37・39・41)、G区(18・26)、J区のNo.5近辺(48)、I区(5・7・10・15・19・21・25・27~29・31・32・34)、K区(3・11・13・36・38・43・45・46)、排土中(14・35・40・47)、No.5地点(49)、No.6地点(50)から出土している。

#### 縄文時代

土器(1~46) 1は縄文地に縦に押引文、2は外面は縄文地に押引刺突で文様を描き、口縁部下に横位の突帶を貼りつけ、その上に刺突文を加える。口縁部は二枚貝の背部による圧痕をめぐらし、端部に縄文を施す。口縁部内面に縄文帯をめぐらす。3は細く粗い縄文地に横に押引文を施す。4は条痕地に凸帶を貼りつけ、刺突をその上に付けるものと横に付けるものがある。口縁部には指で挟んだ指頭圧痕が内外面に付き、端部は細かい波状を呈する。口縁部内面には粘土を貼りつけた縄文帯が付く。5は口縁部外面に粘土を貼りめぐらし、その上から縄文地に押引刺突で文様を描く。口縁部には4と同じ指頭圧痕が付く。6は細かい縄文地で、胎土が浅黄褐色を呈する。7は沈線の間に縄文、刻み目を施す。8~10は太め縄文地に太い沈線で文様を描く。11~13は無文地のもので、太い沈線で文様を描く11・12と、細い沈線の13がある。14は外面が縄文、内面が条痕地で、口縁外面の端部に太い沈線をめぐらす。15~17は縄文を沈線で区画する。18は口縁部が屈曲し、縄文地の上に同心円文・弧状文を描く。19・20は条痕地で、口縁端部に太い沈線をめぐらす。21は波頂部の下に円形の刺突文と太い沈線で文様を描き、口唇部に短い弧状文を描く。22・23は無文地で、沈線で入組文を描く22、器壁が薄い23がある。24~26は縄文地に三本沈線で文様を描く24・26と、25は縄文を沈線で区画する。27は無文地で口縁部に粘土を貼りつけ肥厚させ、波頂部に同心円文・弧状文が付き、その間に端に刺突をもつ二本の沈線が平行する。28は頸部が巻貝による条痕地で、口縁部は縄文地に同心円文と二本の沈線をめぐらす。29は同心円文・弧状文を、30は縄文地に太い沈線で文様を描く。31・32は頸部・胸部を沈線で区画し、多条の沈線を描く。33は肥厚させた口縁部に縄文を施し、その後から沈線を垂下させる。34は頸部・胸部を沈線で区画し、頸部を無文、胸部を縄文地とする。35は細い縄文地で、肩部を一定の幅にミガキ、細い円形刺突文をめぐらす。注口土器の可能性もある。36は横位の二本の沈線で区

No.6地点では、-1.43mで横位に据わった弥生土器の甕を検出した。甕の大部分は掘削重機により破壊されていたが、出土状況からみて土器棺墓となる可能性がある。

遺物(図版39~40、図28~31)

遺物は整理箱に2箱あり、各調査地点の遺構・遺物包含層か

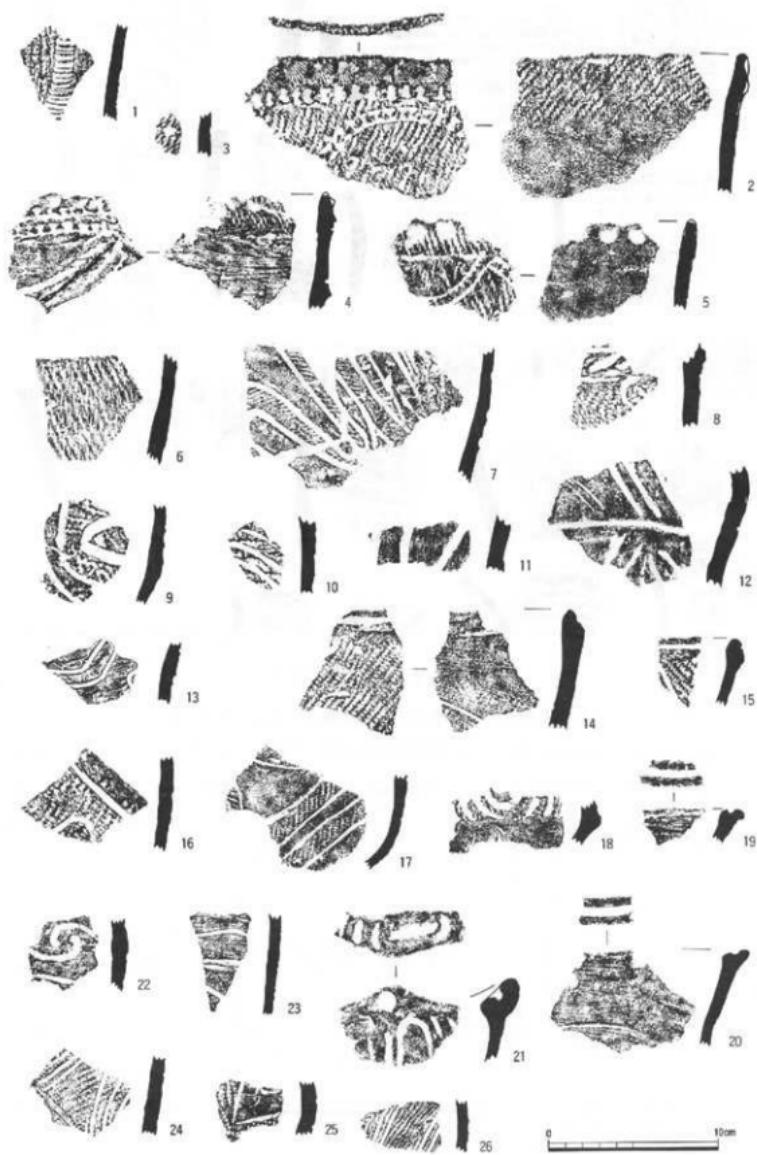


図28 縄文土器拓影・実測図 (1:3)

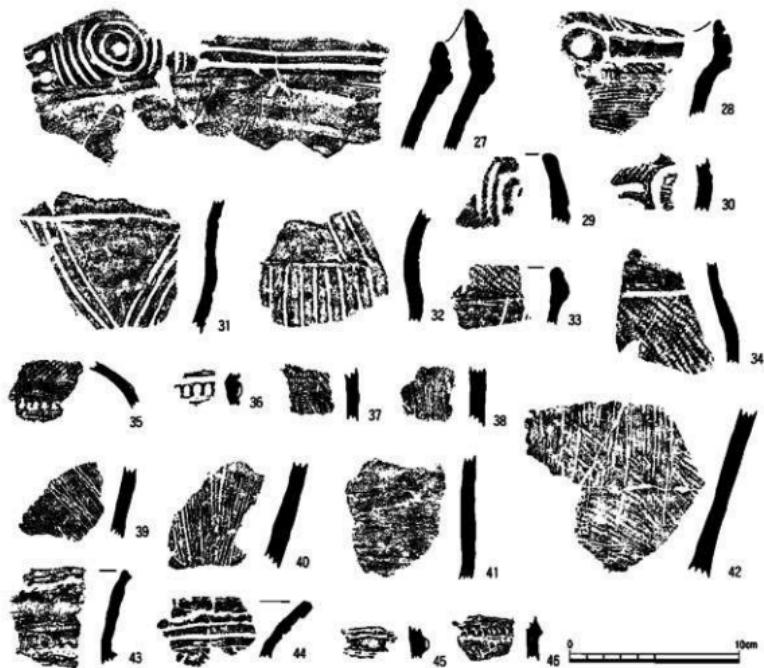


図29 縄文土器拓影・実測図 (1:3)

画された中に、刺突文をめぐらす。37は巻貝による擬縄文である。38・39は条線文で、38は細かく、39は粗い。40～42は条痕地のもの。43は口縁部と胸部に断面三角形の突帯がめぐらす。44は口縁部に粘土帯を貼りつけ肥厚させ、その下に断面V字形の沈線を二条めぐらす。45は突帯の上に

指頭圧痕による刻み目状のものをめぐらす。

46は突帯に細くて浅いV字の刻み目を付ける。

石器(47・48) 47は完形の磨石で、両面に磨耗した平滑な面をもつ。併せて両面中央に打撃痕があり、叩き石としても使用されていた。48はいわゆる異形石器の破片である。両

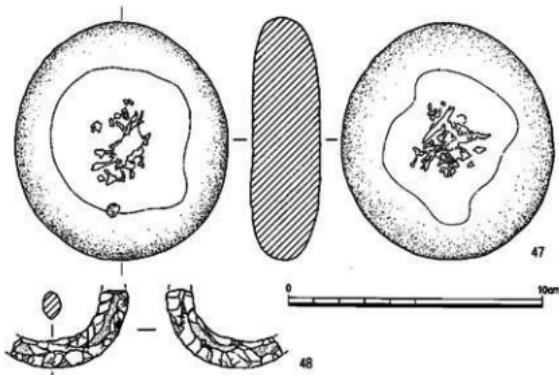


図30 石器実測図 (1:2)

端が欠損している。形状はJ字形を呈する。材質はサヌカイトである。

#### 弥生時代

土器(49・50) 49は甕に伴う蓋である。全体は笠形を呈し、天井部が少し窪み、裾部が大きく横へ広がる。外面は天井部が指オサエ後ナデ、裾部は丁寧にヘラミガキされ、天井部直下に指オサエ痕がめぐる。内面はナデ調整されている。50は甕である。平坦な底部から最大径が中央より上にある胴部が内弯気味に立ち上がり、頸部で鋭く外反し口縁部は水平に延びる。外面は頸部から底部際まで縦のハケメ、口縁部外面はナデ。内面は、頸部が斜めのハケメ、胴部がナデ、底部は磨耗が激しく不明。口縁端部にO字形の刻み目が付き、頸部に二条1単位の沈線が二列めぐる。胴部外面に煤が付着している。

#### まとめ

今回の調査成果を箇条書きにまとめると、以下のようになる。

- 1 今出川通の調査で確認した墓域が、北へ広がる可能性がある。
- 2 繩文時代中期の船元式土器(図28-2・4・5)が出土した。
- 3 異形石器といわれる特殊な石器が出土した。
- 4 弥生時代前期の甕と笠形蓋が出土した。

当地西隣接地の立会調査では、遺構・遺物は未検出であったことから、縩文時代から弥生時代の遺構・遺物包含層は今回の調査地を含む北東側に広がるものと考える。  
(竜子)

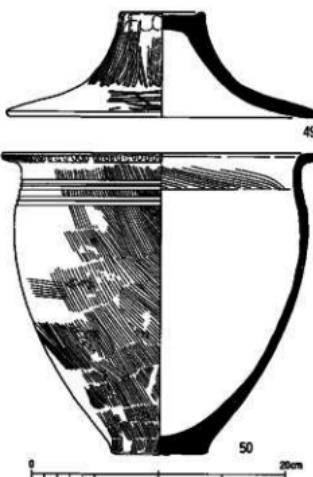


図31 弥生土器実測図(1:4)

- 註1 長戸満男・竜子正彦・尾藤徳行「15 京都大学構内遺跡」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1987年
- 註2 本弥八郎・尾藤徳行・竜子正彦「京都大学北部構内遺跡(95KS140)」『京都市内遺跡立会調査概報』平成7年度 京都市文化市民局 1996年

## 8 岡崎遺跡・延勝寺跡 (97KS82)

### 調査経過 (図32)

調査地は二条通が琵琶湖疏水に架かる二条橋である。この橋の橋梁架替工事が計画され、当地は弥生時代から古墳時代の岡崎遺跡と平安時代後期の六勝寺の一箇寺・延勝寺跡、また二条大路末にあたるため調査を実施した。工事は、渋水期にあわせて、橋台部分を鋼矢板で囲い、橋台の解体と基礎部掘削が行われた。調査地点は、疏水開削や旧架橋工事の際に削平されていたため、旧基礎の下層と括幅部分の観察を行った。調査期間は工期にあわせて、1997年5月20日から6月13日と1998年3月30日から4月15日の2期にわたった。

周辺地域では当地の北西150mの1977年度の調査<sup>註1</sup>で、縄文時代から古墳時代の遺物が出土している。また南西の1992年度調査<sup>註2</sup>では、平安時代後期の井戸群・区画溝、下層では弥生時代後期から古墳時代初頭の方形周溝墓群と古墳時代後期の竪穴住居を検出している。また1997年度調査<sup>註3</sup>で、二条大路末の路面や弥生時代の流路を検出している。

今回の調査では、橋台の南東部分で上記の弥生時代の流路の一部と考える流路を検出した。

### 遺構 (図版41、図33・34)

水準点は二条橋から約9m東の二条通内のNTTマンホール中央とした。

調査は工事の進行に合わせ、No.1～6地点の計6箇所で実施した。No.2～5地点では地山まで削平されており、No.1・6地点で遺構・遺物包含層を検出した。

No.1地点では、既掘削のため南北5.5m、東西1.4mの北へ狭くなる三角形状の範囲について調査を行った。-2.36mまで掘削されており、面的に遺構の精査を行った。検出した遺構は、南北溝1条(1)、土壙6基(2・3・7・9・11・12)、流路1条(4・13・14)がある。南北溝1は耕作に伴うもので、幅0.2mで南北4.0mにわたって確認し、埋土より近世の土師器皿が出土したが、庄内式併行期の甕やその他の土器が多く混入していた。土壙3は、平安時代から鎌倉時代の瓦が混入した近世の土壙で、埋土は粗砂が多い粘土である。土壙2・7は平安時代から鎌倉時代

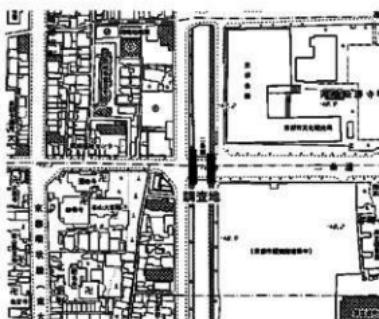


図32 調査位置図 (1:5,000)

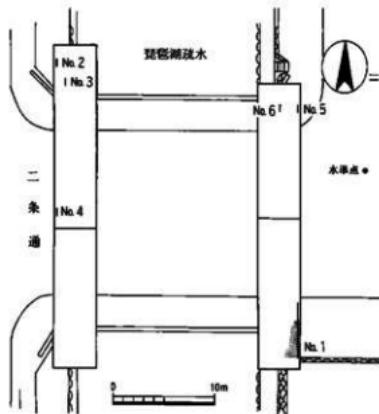


図33 調査地点位置図 (1:500)

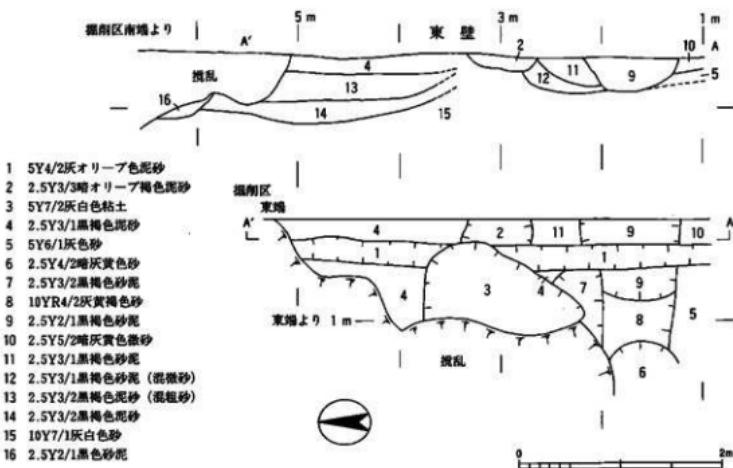


図34 №1地点 遺構平面・断面図 (1:50)

の遺物が出土し、土壤9は庄内式併行期の土器が出土した。11・12は流路の一部になる可能性があり、庄内式併行期の土器を含む。地山となる灰白色砂層を切って検出した流路は、検出幅が狭く流れの方向は不明である。流路内の堆積土は3層に分層でき、上層(4)は腐植質の泥砂、中層(13)は微砂を含み、下層(14)は微砂と粗砂が多い泥砂であった。いずれの層からも庄内式併行期の土器が出土している。

№6地点では、-1.99~2.75mで黒褐色泥土をブロック状に含む灰オリーブ色細砂層となり、平安時代から鎌倉時代の磨滅の少ない瓦片が多数出土した。

#### 遺物 (図版41・図35・36)

遺物は整理箱に7箱出土した。遺物の内容としては、庄内式併行期の甕・壺・鉢・高杯・器台が各遺構から出土している。特に流路内下層からは、庄内式併行期の甕が底部を除きほぼ完形で出土している。また、溝、土壤からは平安時代から鎌倉時代の土器皿、瓦類、近世の土器皿、陶器壺、棧瓦などが出土している。その他、平安時代後期の軒丸瓦1点を表探している。掲載した遺物は、流路内から出土した庄内式併行期の土器群と、軒瓦である。

**甕(1~3)** 1は頸部から口縁部の破片である。口縁部は頸部からやや外上方へ直線的に立ち上がり、端部をわずかに外側へ肥厚させる。内外面ともナデ調整。胎土は精良で、にぶい橙色を呈する。口径13.1cm。2は体部下半から底部の破片である。やや縦長の体部に外側へ張りだした底部がつく。底部の側面と外面に強く指オサエ痕が残る。胎土は砂粒が多く、灰白色を呈する。底径5.8cm。3は体部上半から口縁部の破片である。球形に近い体部から口縁部は丸く外反し、端部は細くつまみます。外面の体部から頸部にかけてハケメを施し、内面全面と口縁外面にヨコナデを施す。胎土は砂粒が多く、灰白色を呈する。口径10.3cm。

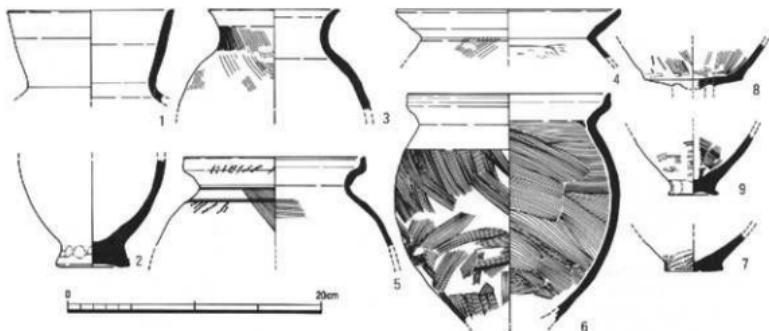


図35 遺物実測図 (1:4)

甕(4~7) 4は甕の頸部から口縁部の破片である。鋭く屈曲する頸部から外上方へ口縁部が直線的にのび、端部は上方にわずかにつまみ上げる。体部は外面にハケメ、内面にヘラケズリを施し、口縁部の内外面をヨコナデする。胎土に角閃石を含む。口径17.7cm。生駒山西麓産である。5は体部から口縁部の破片である。丸い体部にいわゆる受口状の口縁がつき、端面は少し内傾する。器壁は薄い。頸部と肩部に2条単位の沈線をめぐらし、口縁部外面の屈曲部と肩部の沈線の下に列点文をめぐらす。体部は内外面とも細かいハケメを施し、口縁部は内外面ともヨコナデを施す。胎土は砂粒を含み、鈍い褐色を呈する。口径14.4cm。6は底部を欠くがほぼ完形で、5と同じく受口状の口縁がつき、端部は上へつまみあげる。外面は肩部から下に縱方向のハケメ、内面は頸部から下に横方向のハケメ。その他はヨコナデを施す。胎土は砂粒が多く、鈍い褐色を呈する。口径16.0cm。残存高は17.9cm。7は底部の破片である。体部外面に右上りの平行のタタキメを施す。底部外面に指オサエ痕が残る。底径4.6cm。

高杯(8) 杯部下半の破片である。屈曲部が段状をなす。体部の内外面とも丁寧なヘラミガキを施す。

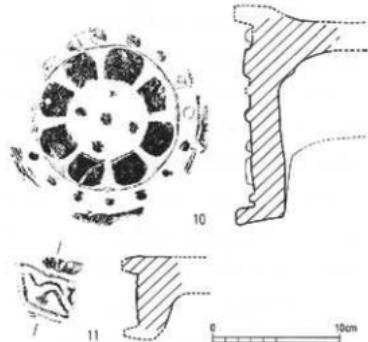


図36 瓦拓影・実測図 (1:4)

鉢(9) 体部下半から底部の破片である。外面は体部に横方向のタタキを施し、底部の側面と外面に強く指オサエ痕が残る。内面は細かい単位の横方向のハケメを施す。底径4.0cm。

單弁八葉蓮華文軒丸瓦(10) 尊勝寺推定地で表採。花弁、珠文、蓮子とも厚く隆起する。瓦当部裏面中央には、指圧痕が顕著に残り窪む。胎土は微砂粒を含み精良、焼成は良好で、灰色を呈する。1986年度調査で同窓の瓦が出土している。

唐草文軒平瓦(11) 近世の土壤3から出土。

範の影りが浅く文様は不鮮明。細い線状の唐草で範の押しは強く、外縁は隆起している。胎土は砂粒を多く含み、焼成はやや甘く、黄褐色を呈する。

### まとめ

周辺での調査で検出した弥生時代から古墳時代の明確な遺構は、先述した1992年度調査と1991年度調査でしか確認されていない。他の調査は今回を含めて、流路、湿地あるいは、遺物の出土だけにとどまっている。今回の調査で検出した流路は、1992年度調査で検出された南西方向に流れる流路の一部であると考えられる。未報告ではあるが、疏水西側の南北道路での立会調査で、同時期の遺物が採集されており、さらに西域での遺跡の確認が待望される。

(竜子)

註1 平田 泰「六勝寺跡発掘調査概報」(財)京都市埋蔵文化財研究所 1977年

註2 綱 伸也・会下和宏・桜井みどり「成勝寺跡」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年

註3 吉崎 伸「白河街区跡」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998年

註4 家崎孝治「主要な出土遺物」『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和61年度 京都市文化観光局 1987年

## 9 法住寺殿跡 (98RT194)

### 調査経過 (図37)

この調査は、東山区大仏南門大和大路東入新瓦町西組625-2番地における住宅建設工事に伴う調査である。当地は法住寺殿にあたり、最光院の北側の一部と最勝光院と蓮華王院（現三十三間堂）を区画する東西道路に位置する。当地の北西付近での1983年度調査では、平安時代後期の建物・南北道路とそれに伴う溝を検出している。今回の調査地でも最勝光院や東西道路に関連する遺構・遺物の検出に期待がかかる。

調査は、掘削工事にあわせて1998年8月31日と9月1日に実施した。調査の結果、調査区北部で平安時代中期の南北溝と平安時代末期から鎌倉時代の東西溝を検出した。



図37 調査位置図 (1:5,000)

### 遺構・遺物 (図版42、図38・39)

基本層序は現代盛土、によい黄橙色砂泥の地山である。A地点では盛土以下、-0.5mで灰色砂

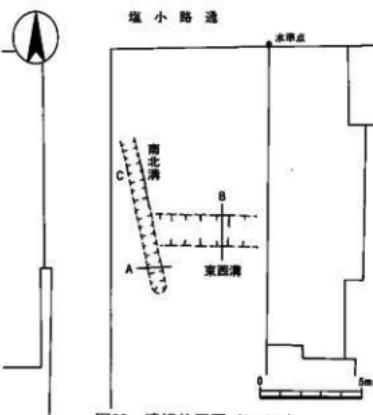


図38 遺構位置図 (1:250)

泥層と灰色粗砂層の互層、-1.0m以下はによい黄橙色砂泥の地山である。B地点では盛土以下-0.25mでによい黄橙色砂泥の地山となる。当地点より南側では-0.65~0.91mまで江戸時代の包含層、その直下で灰黄褐色細砂の地山となる。

東西溝は、幅1.52m、深さ0.48mの規模で、B地点-0.25mで地山を切って検出した。断面の形状は皿状を呈しているが、北側の底部が約0.2m窪んでいる。埋土は上層が暗褐色砂泥、下層は褐灰色粗砂である。遺物は上層より平安時代末期から鎌倉時代の土師器皿・高杯、下層からは平安時代末期の土師器皿が出土している。

南北溝は、A地点では-0.8m、C地点では-0.9

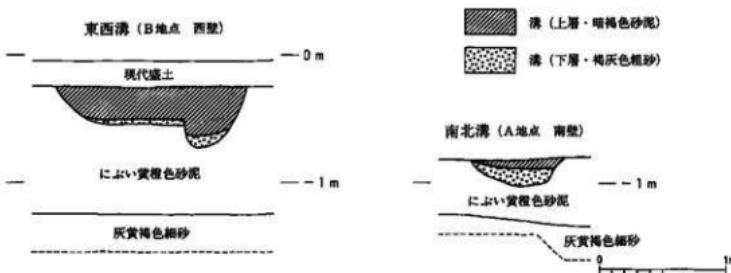


図39 遺構断面図 (1:40)

mで検出し、A地点では幅0.75m、深さ0.23mで、断面は皿状を呈する。溝の方位は真北ではなく、A・C地点間で西へ約10度振っている。埋土は褐灰色粗砂層で、A地点では褐灰色粗砂層の上に暗褐色砂泥層が薄く堆積している。遺物は平安時代中期の土師器皿、須恵器甕、黒色土器、綠釉陶器、灰釉陶器碗・壺が出土している。

### まとめ

調査では、平安時代中期の南北溝と平安時代末期から鎌倉時代の東西溝を検出した。

東西溝は、東から1度41分北へ振れ（現三十三間堂の振れ角度）、検出地点から西へ延長すると東京極大路の東築地で、八条坊門小路の北側溝の延長に交差することがわかった。このことは、この東西溝が東西道路の北側溝と仮定すれば、推定の法住寺殿域の区画が南北軸は東へ振り、七条大路を基準に蓮華王院の南北幅が平安京の一町の幅に相当し、その南限がこの東西道路となる。しかし、現時点で東西溝の検出地点は一箇所のみであるため、可能性の指摘だけにとどめておきたい。

今回の調査では平安時代中期の南北溝を検出したが、周辺でのこの時期の検出事例としては、最勝光院内の南西付近で検出した池田瓦窯に次ぐ例となる。この南北溝の方位は、真北から西へ約10度振っていた。当地の北西付近で実施した1983年度調査で検出した平安時代後期の南北道路と、それに伴う溝は真北から東へ約0度4分程振っており、法住寺殿全体が東へ傾いていた根拠になっている。今回の南北溝の西への傾きは、平安時代中期の地割りの方位か、それ以前の当地的の条里の傾きを示すものかは、今回の検出だけでは明確にはできない。今後のこの近辺の調査によって明らかにされることを期待する。

(吉本)

註 久世康博・上村和直「法住寺殿跡」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1985年

## 10 醍醐廃寺 (97FD296・437・438)

### 調査経過 (図40)

この調査は、伏見区醍醐西大路町から北西裏町での道路におけるガス低圧管撤去・新設および水道管新設工事に伴う調査である。調査地は、醍醐中山から南西方向に延びる丘陵の南端あたり、頂上部で故木村捷三郎氏らが飛鳥時代の軒瓦を収集したことなどから、醍醐廃寺に推定されている。<sup>註1</sup>今回の調査地の北側部分がこの醍醐廃寺にあたり、1996・1997年には調査を行っており、醍醐廃寺に関連する溝・土壌・柱列などを検出している。<sup>註2</sup>

調査は、ガス低圧管撤去工事が始まった1997年10月14日から開始し、工事終了の1998年2月23日まで実施した。調査の結果、調査区南端で飛鳥時代の瓦を多量に含む包含層を検出した。

### 遺構 (図版43、図41・42)

層序は調査地北側の丘陵頂上部のA地点では、-0.2mまでが現代盛土で、以下は黄褐色粘土層の地山である。調査地南側の丘陵を下がったB-3地点では、-0.45mまでが現代盛土、-0.59mまでが暗褐色砂泥の路面、以下-1.44mまでの褐色砂泥・粘土が4層あり、うち-1.22mまでが飛鳥時代の瓦の包含層である。特に-1.1mの第2層は多量の瓦を含んでいる。-1.44m以下は暗褐色粘土の地山である。

包含層は瓦を少量含む上層（第1層）と、多量に含む下層（第2・3層）に大きく2つにわけることができる。第1層の分布範囲は、北がB-10地点（検出高-0.99m）、西がB-4地点（検出高-0.99m）、南がB-1地点（検出高-0.7m）、-1m東がB-9地点（検出高-0.9m）の範囲である。この層からは、飛鳥時代の重弧文軒平瓦、奈良時代・平安時代末期から鎌倉時代の土師器、鎌

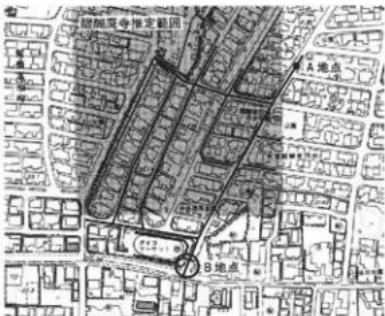


図40 調査位置図 (1:5,000)

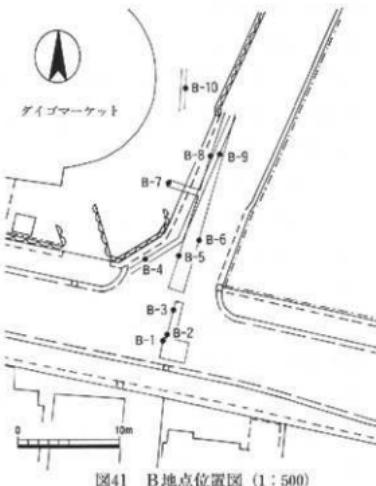


図41 B地点位置図 (1:500)

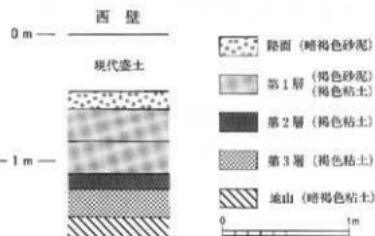


図42 B-3地点柱状断面図 (1:40)

倉時代の青磁碗、室町時代の陶器擂鉢、凝灰岩の破片が出土している。第1層は室町時代の遺物包含層とみられる。

第2・3層は、B-1～3の地点で検出した。分布範囲はB-4・5地点以南である。第2層はB-1地点（検出高-0.9m）で厚さ0.3m、B-3地点（検出高-1.1m）で厚さ0.12mと北へいくほど薄くなる。瓦は平瓦が多く、横になった状態で出土した。その下に第3層が0.2mの厚さで堆積する。遺物は丸・平瓦の他に飛鳥時代の重弧文軒平瓦、時期不明の土師器の小片が出土している。

#### 遺物（図版44、図43）

出土遺物は大半が瓦類であり、他に土器類、石製品、鉄製品がある。

瓦類はすべてB地点の包含層からのもので、平瓦が大半を占め、軒瓦・丸瓦も少量出土している。平瓦は凸面に布目叩き痕をもつものが大半であるが、一部には平行線叩き痕や格子状叩き痕をもつものがある。また広端部に芋で作った縄を敷いたとみられる痕跡が残るものがある（7）。軒平瓦は11点出土しているが、すべて瓦当文様は押し引きの重弧文である。重弧文でも三重弧文（2）と四重弧文があり、四重弧文には弧線断面が台形のもの（4）、三角形のもの（3）、丸いもの（5）がある。6も5と同じ器具で押し引きされたものと考えられるが、引いた箇所が下がりすぎたために一番下の弧線がほとんど削れてしまっている。すべて直線縁で、胎土には砂粒を含み、焼成は2・4が甘く、それ以外は良好である。色調は2・4が淡灰色、それ以外は褐色系である。1は軒丸瓦で、瓦当部の花弁から外縁にかけての一部の破片である。胎土は精良であるが少し砂粒を含み、焼成は甘く、暗灰色を呈する。同窓と考えられる瓦が、法琳寺跡および小栗栖瓦窯跡から出土している。<sup>註1</sup>

土器類は、時代の特定できるもののが、B-10地点の第1層で出土した奈良時代・平安時代末期から鎌倉時代の土師器、室町時代の陶器擂鉢、B-7地点の第1層で出土した鎌倉時代の青磁碗の4点である。

その他には、B-9地点の第1層で凝灰岩（図版44-8）が出土している。方形に成形された凝灰岩の一隅の破片である。残存長は三方とも角からほぼ縦10cmで、一面は丁寧に成形され、他の2面は粗く面取りがしてある。

鉄製品は、B-4地点の第1層から長さ14cm以上、幅0.8cmの棒

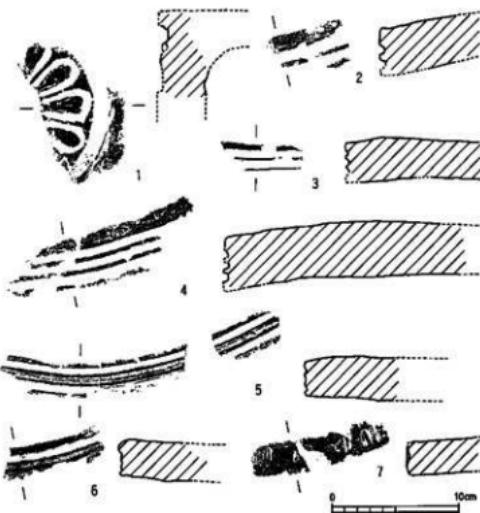


図43 瓦拓影・実測図（1:4）

状製品が出土している。時代および用途は不明である。

### ま と め

今回の調査では、B地点で飛鳥時代の瓦を多量に含む包含層を検出した。第1層は中世の包含層で、B-1～3地点で検出した第2・3層は、飛鳥時代から平安時代の包含層である。また凝灰岩の出土からも、この付近に飛鳥時代から平安時代の当廃寺に関連する施設の存在が考えられる。

他にB-3地点では、-0.45mで路面を検出した。この路面は、寛保元年（1741）の京大絵図に示される伏見から醍醐寺へ向かう東西方向の旧道にあたる。どこまで時期を遡れるかは不明であるが、当廃寺との関連で興味深い。

醍醐寺は、丘陵上が推定地とされてきた。<sup>註3</sup> 1997年の調査でも、当廃寺に関連する遺構・遺物を検出している。しかし今回、包含層を検出したB地点は、当廃寺推定地から外れた丘陵の南斜面下である。今回の発見により醍醐寺の推定地は、さらに南斜面裾部に広がるものと考えられる。特にB-1～3地点で検出した包含層の広がりと性格を把握することが、今後、当廃寺の実態を考える上で重要である。

(吉本)

註1 「木村捷三郎収集瓦図録」（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996年

註2 津々池惣一・内田好昭・丸川義広・能芝 勉・布川豊治「醍醐寺」「平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要」（財）京都市埋蔵文化財研究所 1998年

註3 「京都市遺跡地図」京都市文化市民局 1996年

## 11 長岡京右京一条四坊十四町 (97NG26)

### 調査経過 (図44)

西京区大原野石見町で行われた下水道敷設工事に伴う立会調査を実施した。調査地の東半部が主に長岡京右京一条四坊十四町に該当する。また室町時代の城跡である石見城が北東に隣接する。西半部は遺跡範囲外である。調査地の南には、古墳時代後期の円墳を中心とする芝古墳群が立地している。調査は当該地を含む石見域での本格的な調査事例がないことから、遺構・



図44 調査位置図 (1:5,000)

遺物包含層の有無を主眼に行った。

調査の結果、弥生時代から古墳時代の土壇、室町時代の溝、弥生時代から古墳時代・中世の各遺物包含層を遺跡範囲外におよぶ広域で検出した。

### 遺構 (図版45、図45)

調査地は善峰川右岸にあたり、北西から南東へ緩やかに傾斜する段丘上に位置している。基本層位は現代層以下、第1層は暗褐色砂泥、第2層は黄褐色砂泥、第3層は褐色砂泥、第4層は褐色砂礫であった。第1層は中世、第2層は弥生時代から古墳時代、第3層は弥生時代の各遺物包含層である。第4層は地山である。

以下に遺構・遺物包含層を検出したNo.1～10地点について述べる。No.1～6地点については遺跡範囲外であった。

No.1 現地表下-0.15～-0.35mに、中世の土師器皿、瓦器碗のいずれも小片を含む暗褐色砂泥層、-0.7mで時期不明の土師器片を含む褐色混礫粗砂層、-0.9m以下は地山の褐色砂礫層である。

No.2 -0.2mで近世の盛土、-1.26mで室町時代の瓦器碗・羽釜、陶器甕を含む灰色混礫粘土層、-2.05m以下は地山の暗緑灰色砂礫層である。

No.3 -0.25mで近世の盛土、-1.1mで鎌倉時代から室町時代の土師器皿、瓦器羽釜、青磁、陶器のいずれも小片を含む灰色混礫粘土層、-1.6m以下は地山の暗緑灰色粘土層である。

No.4 -0.2mで地山の褐色砂礫層を切り込んで、弥生時代から古墳時代の土器片を含む土壇の東肩を検出した。土壇は幅1.0m以上、深さ0.6mである。

No.5 -0.2～-0.46mで中世の土師器片を含む暗褐色砂泥層、-0.7mで古墳時代の土師器甕を含

む褐色砂泥層、-1.02m以下は地山の褐色砂礫層である。

No.6 -0.25mで中世の瓦器椀を含む暗褐色砂泥層、-0.41mで弥生土器壺とみられる小片を含む暗褐色砂泥層となる。

No.7 -0.2mで地山の褐色砂礫層を切り込んで、室町時代の南北溝を検出した。溝の幅は1.4m以上、深さ0.51mである。溝内から室町時代の土師器皿、瓦器椀が出土している。

No.8 -0.23mで中世の土師器皿、瓦器椀を含む暗褐色砂泥層、-0.33mで弥生土器を含む褐色砂泥層、-0.75m以下は褐色砂礫層の地山である。

No.9 -0.37mで古墳時代の土師器、須恵器を含む黄褐色砂泥層、-1.0m以下は褐色砂礫層の地山である。

No.10 -0.22mで時期不明の土師器片を含む黄褐色砂泥層、-0.41mに弥生時代後期の甕、炭を含む褐色砂泥層、-0.9m以下で褐色砂礫層の地山となる。

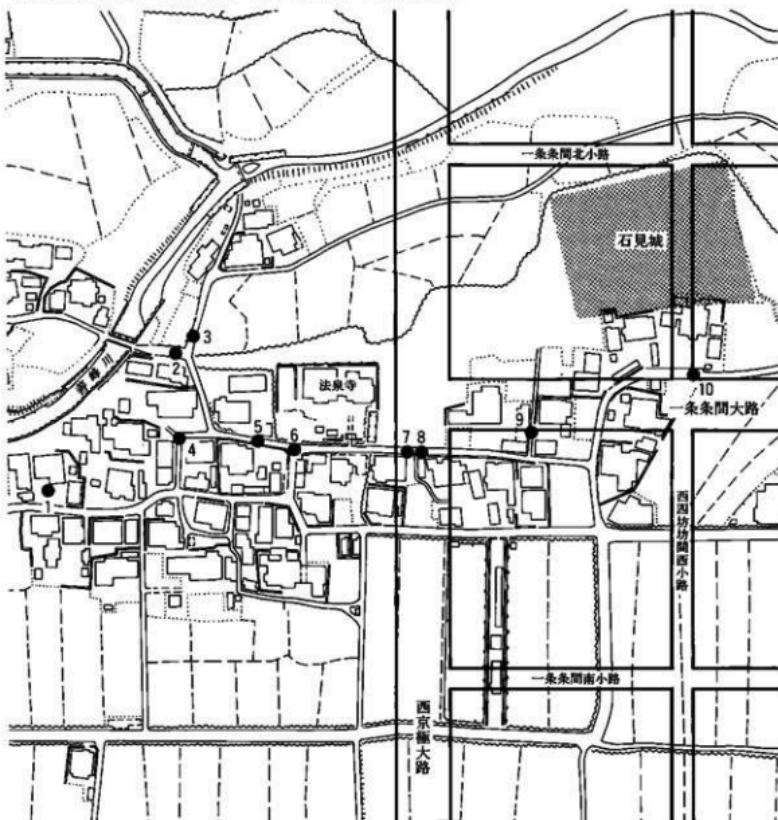


図45 遺構・遺物包含層分布図 (1:2,500)

### 遺物(図46)

遺物は整理箱に1箱であった。出土した遺物は弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、陶磁器、瓦があるがほとんどが小片である。遺物の時期は弥生時代から江戸時代まであるが、弥生時代と室町時代が大半を占める。弥生時代の遺物には弥生土器壺・甕がある。No.10の第3層からは、口縁部が受け口状の特徴をもつ畿内第V様式とみられる近江系の甕(3)が出土している。室町時代の遺物は土師器皿、瓦器碗・羽釜・鍋がある。No.7で検出した南北溝の埋土から、15世紀中頃とみられる土師器皿(1・2)と瓦器羽釜(4)が出土している。

### まとめ

今回の調査成果を3点に大別して以下に要約しておく。

まず第1に弥生時代から古墳時代の遺物包含層を、遺跡外も含む広範囲で検出したことが挙げられる。包含層の範囲は善峰川右岸の段丘上にあたり、居住地に適していることから、当地に当該期の集落の存在が想定できる。

第2に上述した包含層と同様に、中世の包含層も広範囲に広がることが判明した。調査地の北東には、文明二年(1470)に焼失した石見城跡が立地し、また調査地内には応長元年(1311)に創建された法泉寺が現存する。そのことから中世の包含層は石見城、法泉寺との関連が考えられる。

第3は西京極大路西側溝の推定地点で検出した、室町時代の南北溝が挙げられる。周辺の田畠の地表面には長岡京時代から室町時代の遺物が散布しており、当該期の遺構の残存が予想されることから、西側溝が室町時代まで踏襲されていた可能性が考えられる。

西京区と長岡京市にまたがる石見地域では、從来から乙訓を研究対象とする地元関係者により、先土器時代から平安時代の遺物が表面採集され、石見遺跡として仮称されてきた。しかし本格的な調査が行われておらず、遺跡の性格、範囲などの実態については不明であり、周知の遺跡として京都市遺跡地図には登録されていなかった。今回の調査成果から、石見遺跡は善峰川右岸の段丘上に立地する弥生時代から古墳時代の集落、室町時代の石見城・法泉寺に関連する遺跡であることが判明した。

(加納)

註 岩崎誠「第1回曜部会の仕事と石見遺跡紹介」『乙訓文化』31号 乙訓の文化遺産を守る会

1974年

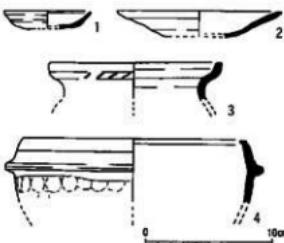


図46 遺物実測図(1:4)

## 調査一覧表

I 1998年 1~3月期 (平成9年度)

### 平安宮 (HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
諏訪 宮	上・御前通一条下る東堅町130-1	3/17	-0.3mまで現代盛土。	HQ491	1
兵庫 寺	上・仁和寺街道七本松東入一番町105-8-9	1/27, 3/23	-0.2mまで現代盛土。 巡回時、工事終了。	HQ426	1
主殿 宮	上・智恵光院通一条下る東入新白木丸町462-86	1/8	-0.1mまで現代盛土。	HQ393	1
左近 街	上・後屋町通中立光下る神明町447-1	2/5-9	-0.2mまで現代盛土。	HQ364	1
内裏 宮	上・出水通土屋町東入東神明町279, 281	2/3	-0.4mまで現代盛土。	HQ433	1
内裏 宮	上・下立光通千本桜人田中町473	2/16	-0.4mまで現代盛土。	HQ451	1
左兵衛府	下・下立光通大宮西入浮田町610-2	3/17	-0.25mまで現代盛土。	HQ490	1
内匠 宮	中・西ノ京左馬寮町25-1	3/31	-0.14mまで現代盛土。	HQ503	1
左馬 門	中・西ノ京左馬寮町11-9, 40	1/9-13	-0.8mまで現代盛土。	HQ392	1
豊楽院	中・樂樂庭西町188-49	1/27	-0.18mまで現代盛土。	HQ425	1
朝堂院	中・樂樂庭東町3-16	1/22-23	No.1 : -0.19mで平安後期~末期の落込。(土師器、瓦)。 No.2 : -0.15m以下、暗褐色粘土の地山。	HQ409	1
朝堂院	上・千本通二条下る樂樂庭858-5	3/12	巡回時、工事終了。	HQ482	1
大炊官	上・日暮通竹屋町上る東入四町目 地先	1/16	-0.62m以下、暗褐色粘土の地山。	HQ405	1
太政官	上・千本通二条下る東入主税町1022-2	1/19~21	平安後期の南北溝を検出。瓦多量に出土。太政官内「朝所」を区画する溝の可能性あり。本文3ページ。	HQ406	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町15-3	3/23	-0.1mまで現代盛土。	HQ492	1
式部省	中・西ノ京小堀町2-9	1/21	掘削工事なし。	HQ411	1
式部省	中・西ノ京内堀町 地先	'97/12/3-5・24, '98/1/9-14	-0.2m以下、黄褐色砂泥の地山。	HQ363	1

### 平安京左京 (HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
一条大路	上・一条通淨福寺西入草堂之内町294-1	1/19	巡回時、工事終了。	HL407	2
一条大路	上・千本通一条上る北伊勢擬町682-1	2/3	-0.65m以下、褐色粗砂礫の地山。	HL435	2
北辺四坊五町	上・京都御苑3	2/19~27, 3/2~6	7世紀・中世の遺構、江戸の路面検出。本文8ページ。	HL460	3
北辺四坊七町	上・京都御苑3	'97/10/21, '98/3/31	-0.4mで江戸の包含層。	HL311	3
二条四坊十六町	上・京都御苑3	1/16~3/2	逆資建設のための樹木移転に伴う調査。ヨーロッパ陶器出土。本文8ページ。	HL404	3
二条二坊八町	上・坂川通丸太町上る上根川町126, 126-1	2/26~27, 3/2	-1.32m以下、流れ堆積。	HL467	2
二条二坊十町	中・油小路通丸太町下る大文字町~油小路 通夷川下る素屋町 地先	'97/11/4~ '98/3/3	逆資構造の続きの可能性あり。No.3 : -1.46mで整地層。No.4 : -1.57mで池の底部か。No.5 : -1.2m以下、大炊御門大路の路面2。No.6 : -0.53m以下、疊多くの路面風の整地層4。No.7 : -0.62m以下、路面5。	HL322	2
二条二坊十一町	中・竹屋町通油小路東入鏡本町468-4	2/25~27, 3/3	平安の大炊御門大路と油小路の交差点。No.1 ~ 5で平安~鎌倉の路面6。No.2 : 平安の路面(須恵器、綠釉陶器、灰釉陶器、瓦、馬の齒・骨)。No.3 : 平安の落込(土師器、須恵器、青磁)。平安前期の南北溝(土師器、須恵器、鐵製品、骨)、油小路西側溝。	HL461	2
二条二坊十一町	中・油小路通竹屋町下る鏡本町471-2	3/24, 4/7-13~ 15-17・20	No.2 : -0.55mで焼土層、-0.95mで供木層、-1.06mで整地層、範疇を含む。No.3 : -1.4mで大炊御門大路路面。平安中期の南側溝の可能性あり。	HL493	2
二条三坊二町	中・西洞院通丸太町下る田中町131, 131-1	3/9~11-13-16 ~18-23-24-26	No.4 : -1.69mで平安後期・鎌倉の土領各1。No.5 : -1.7mで室町後半の包含層。	HL477	3
二坊三条十二町	中・両替町通夷川下る北小路町98-1, 987	2/13	-1.1mまで焼け瓦層。	HL444	3
二条四坊四町	中・二条通、烏丸通~寺町通 地内	3/18~5/27	-0.3m以下、路面と焼土の互層、二条大路内。	HL486	3

道路名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
二条四坊 三町	中・高倉通竹屋町下る福原町718	3/12-13・16-18	No 1 : -1.4mで近世の包含層。No 3 : -0.8m以下、江戸の包含層。No 4 : -1.27mで室町後半の包含層。	HL479	3
二条四坊 四町	中・高倉通二条上る天守町753-1	97/11/21-25・28, 12/1, '98/1/14	No 1 : -0.6mで江戸の包含層（鉄製品、埴輪）、鋸造関係か、埴土から電角製品出土。-1.83m以下、江戸初期の包含層。No 2 : -1.81mで平安末期～鎌倉以降の地山。No 3 : -1.01mで平安末期の包含層。その西に江戸初期の井戸状遺構。	HL346	3
三条二坊 九町	中・御園通二条下る土橋町18-1, 19-1, 20-1	2/16	-0.65mまで近世以前の包含層。	HL456	2
三条二坊 十町	中・御園通（堀川東通～西洞院通、車屋町通～柳馬場通）地内	3/30-7/13	No 3 : -1.33mで平安の包含層（須恵器）。No 6 : -1.1mで黄褐色砂泥の地山を切って中世の埴（瓦器）。No 7 : -1.08mで平安中期の包含層（黒色土器、灰陶兩器）。No 11 : -1.0mで平安の三条坊門小路路面（黒色土器）。	HL501	2
三条二坊十三町	中・油小路通鈴小路下る宗林町88	3/24-26・30, 4/2-6・7-13	No 1 : -0.42mで中世の包含層。No 2 : -1.0mで昭オリーブ色砂泥の地山を切って室町後半の井戸。	HL496	2
三条三坊 二町	中・西洞院通押小路下る押西洞院町611他	2/16-19	-0.67m以下、近世以降の包含層。-0.5m以下、黄褐色砂泥の地山。	HL446	3
三条三坊 四町	中・新町通鈴小路下る町頭町97-4	1/19-23	No 2 : -2.05m以下、包含層4（輪花の瓦器、瓦器、陶磁器、須恵器、白磁、土師器）。No 3 : -1.7mで平安末期～鎌倉の包含層（土器類、瓦器）。-2.4m以下、灰オリーブ色砂泥の地山。	HL408	3
三条三坊 五町	中・室町通三条上る役行者町377	1/21-23・27, 2/9-10-12	No 1 : -0.6m以下、近世・室町の包含層。No 2 : -1.76mで桃山の包含層。No 3 : -1.1m以下、室町の包含層・土器、-1.48mで平安中期の包含層。No 4 : -1.77mで平安中期の包含層。-1.52mで、褐色砂泥の地山を切って鎌倉の落込（土師器、須恵器）。	HL412	3
三条三坊 九町	中・鳥丸通二条下る秋野々町535、両替町通二条下る金吹町461-1	97/12/19-22-24, '98/1/6-14, 3/2-3	No 2 : -1.47mで中世の包含層を切って中世の落込1。No 3 : -1.96mで室町以前の井戸、底部には井戸枠が残存。No 4 : -2.16m以下、中世～近世の堆積、-3.26m以下、褐色砂泥の地山。	HL369	3
四条三坊 三町	中・新町通鈴小路上る百足屋町391, 393	97/12/22, '98/1/8-14	-0.22mで流れ堆積、-0.37mで近世の包含層。	HL385	5
四条四坊 九町	中・柳馬場通三条下る福原町101	2/17-23・25-26, 3/2-4	No 1 : -1.1mで室町の包含層。No 2 : -1.37m以下、平安後期の包含層。No 3 : -2.34m以下、オリーブ褐色砂泥の地山。	HL458	5
四条四坊 九町	中・船屋町通三条下る白壁町432	97/12/9-15・19- 22, '98/1/6-9	-2.93m以下、流れ堆積。	HL370	5
四条四坊十二町	中・富小路通四条上る西大文字町607	1/6-9・12-14	No 1 : -1.1m以下、江戸の包含層。No 2 : -1.55mで平安後期の包含層。No 3 : -1.45mで室町の土器類。No 4 : -1.58mで平安後期～鎌倉の包含層を切って鎌倉～室町の落込。	HL387	5
五条二坊 八町	下・岩上通四条下る佐竹町392-1・2, 394-1・2	3/10-5/14	平安後期～鎌倉の東西方向の層状遺構、室町の石組井戸。本文14ページ。	HL478	4
五条二坊十二町	下・羅ヶ井通高辻下る往古町496, 494-1、 東堀川通高辻下る五軒町379	1/26-29	+0.25mで中世の包含層、-0.29m以下、流れ堆積。	HL424	4
五条三坊 三町	下・仏光寺通西洞院東入賀大臣町177	1/23-30, 2/4-5, 9-10	No 1 : +0.45m以下、近世の包含層、-0.5m以下、室町の包含層（土師器、須恵器、瓦器）、室町の落込2（土師器、滑石、陶器）、-0.94m以下、オリーブ褐色敷砂の地山。No 2 : -0.73mで近世の井戸、-0.73m以下、オリーブ褐色敷砂の地山。	HL420	5
六条四坊十六町	下・寺町通松原下る植松町721, 721-2	1/23, 2/18-19- 23-25	-1.89mで中世の包含層（土師器、陶器、瓦）。	HL417	5
六条四坊 十町	下・富小路通五条上る本神明町419	1/29, 2/2	-2.69m以下、流れ堆積。	HL432	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
七条一坊 五町	下・奥馬場町35-3-6	1/8	-0.3mまで搅乱。	HL391	6
八条二坊十一町	下・油小路通塩小路下る東池小路町	3/5	-0.5mまで現代盛土。油小路・梅小路の交差点内。	HL471	6
九条二坊十三町	南・四九条春日町19	2/2-6-9	No 1 : -0.8mで中世の窪込(土師器)。No 2 : -0.58m以下、鎌倉前期の包含層(土師器多量)、-0.8mで平安末期~鎌倉初頭の土壌(土師器多量、藍の光彩多い)。	HL434	6
九条四坊 四町	南・九条通西側(竹田街道~河原町通)地内	'97/12/18~24、'98/1/7~2/17	No 4 : -0.74m以下、鎌倉後半・室町の包含層。-1.13m以下、褐色泥砂の地山。No 6 : -0.57m以下、平安後期の包含層。No 9 : -0.35m以下、発生~古墳・平安後期の包含層。-0.8m以下、オリーブ褐色泥砂の地山。	HL381	7
九条四坊十四町	南・東九条南河原町6-3	2/9-10-12	-0.97m以下、近世以降の包含層。	HL445	7

### 平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
二条三坊 七町	中・西ノ京春日町16-1	1/22-27~30、2/1-16	No 1 : -0.1mで落込みの北側を検出。No 2 : -1.14mで流路の北肩を検出。	HR418	8
三条一坊 一町	中・西ノ京星池町	1/7-8	No 1 : -0.26m以下、二条大路の路盤整地層 3。	HR389	9
三条一坊 二町	中・西ノ京柳尾町 3-B	2/16	-0.3mまで現代盛土。朱雀大路内。	HR457	9
三条一坊十四町	中・西ノ京西光町42-1	1/26-30、2/2	-0.2m以下、江戸の湿地状堆積。西大宮大路・崎小路交差点内。	HR423	9
三条四坊 七町	右・太秦安井一町田町~中・西ノ京桑原町地先	2/10~3/10	-0.68m以下、によい黄橙色砂礫の地山。	HR442	8
三条四坊 西町	右・山ノ内大街~宮脇町 地先	2/13-16~18-25、2/27, 3/2-17	-0.66mで江戸の路面。-0.97mで土壌。-0.97m以下、明治褐色粘土の地山。	HR448	8
四条二坊 三町	中・壬生東洞町20	1/7-9-13	No 1 : 南北の溝状造構の東肩、幅2.2m以上。No 2 : -0.46m以下、中世以降の湿地状堆積。	HR388	11
四条二坊十三町	右・西院東岸と院町2-1	3/25、4/1~4-6	-0.6mで平安前期~後期の四条大路の北側溝を検出。本文22ページ。	HR498	11
四条三坊十三町	右・山ノ内順戸畠~山ノ内赤山町 地内	2/13~3/17	-1.0mで江戸の包含層。-1.3m以下、褐色砂礫の地山。	HR500	10
四条四坊十四町	右・西院貝川町~山ノ内苗町 地内	'97/7/22-23-31、8/8-11-18、'98/3/23	No 1 : -1.2m以下、湿地状堆積、流れ堆積。No 5 : -1.65m以下、湿地状堆積(土師器、黒色土器)。-2.06m以下、流れ堆積。No 6 : -1.82m以下、包含層(土師器、甕生變)。-2.42m以下、灰オーブ色粘土の地山。	HR177	10
六条一坊十二町	下・中室寺栗田町 1	2/5-6	-1.2mまで現代盛土。六条大路内。	HR439	11
六条二坊十一町	右・西院東中水町 8-1	3/3	-0.4mまで現代盛土。	HR470	11
七条一坊十五町	下・花屋町通~七条通(御前通~七本松通)地内	'97/10/15~'98/1/13-14-23	No 2 : -0.91mで平安中期の湿地堆積。No 5 : -0.57mで築面。No 3 : 4・8・9・10・14・16 : -0.4m以下、包含層(土師器、須恵器)。No 13・16 : -0.7m以下、流れ堆積。No 15 : -0.77mでによい黄褐色粘土の地山を切って南北溝。No 1 : -1.3m以下、包含層(土師器)。No 2 : -1.42m以下、流れ堆積。No 3 : -0.9mで土壌状の落込、遺物なし。-1.0m以下、灰オーブ色泥砂の地山。	HR298	13
八条一坊 一町	下・新千木通、七条通~木津屋橋通 地内	2/17~19-23-25、3/2~4-9-10	-0.78mで鎌倉の整地層(土師器、瓦)。	HR455	13
九条一坊十五町	南・唐橋門脇町 5-7	2/25-26	-1.16m以下、流れ堆積。	HR466	13
九条三坊十二町 隣接地	南・吉祥院新田巷ノ段町 5	3/13-16		HR483	12

### 洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
鞍馬二ノ瀬町 埋蔵文化財 出土地	左・鞍馬二ノ瀬町67	2/4	民家裏山の石垣工事の際に、中世の蓄積鉄が約38,000枚出土。発掘調査に切り替える。	RH459	14-2

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
植物園北造跡	左・下鴨神殿町9	97/12/24、 98/1/6-8	-0.15m以下、黒褐色砂泥の地山。	RH386	14-5
植物園北造跡	北・上賀茂岡本町28-1の一部、34の一部、 34-2の一部、72の一部	1/13	-0.3mまで現代盛土。	RH399	14-5
植物園北造跡	北・上賀茂岡本町28-1一部 72の一部 73	1/20	-0.35mまで現代盛土。	RH400	14-5
植物園北造跡	北・上賀茂梅ヶ丘町～上賀茂岡本町地内	2/9～27, 3/2～23	Na 6 : -0.75m以下、包含層2、落込（土師器）。 Na 7 : -0.52mで路面。Na 9 : -0.15m以下、包 含層3（土師器、須恵器）。Na 10 : -0.8mで包 含層。Na 11 : -0.65mで黄褐色砂泥の地山を切 って池底の落込の西肩。Na 14 : -0.17mで宝町 の包含層。	RH443	14-5
紫野南院跡	上・大宮通寺之内上る二町目中之町491他	3/16-17	-0.6m以下、黒褐色砂泥の地山。	RH487	15-1
宝町殿跡	上・宝町通上立光下る裏堀地町93-1-6	3/13-16-19-23-26	-0.54mで近世の包含層。-0.88mで中世の包含層。	RH480	15-2
聚衆第跡	上・一条通松屋町西入鏡石町23他	97/12/16-25、 98/1/6-2/25、 3/13	戸の包含層。Na 2 : -1.78mまで江戸の塙。Na 4 : -1.54m以下、平安末期・中世の包含層（土 師器层）。Na 6 : -0.52mで後堆により補強され た2段の石垣。-0.89m以下、褐色粘土の地山。	RH379	15-4

### 北白川地区 (KS)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
田中構え跡	左・田中門前町地	3/27, 4/23, 6/20-24	-3.6m以下、によい黄色砂礫の地山。	KS499	18
岡崎道跡	左・岡崎道(二条通・神宮道)交差点	3/9～13-16-23	-1.1mまで現代盛土。	KS476	18
最勝寺跡					
皮勝寺跡					
岡崎造跡	左・岡崎成勝寺町地	97/5/20-27, 6/ 3-12-13, '98/3/ 30-4/15	-2.35mで弥生～古墳の土壤、流路、平安の土 壤、中世の南北溝を検出。本文32ページ。	KS502	18
延勝寺跡					
岡崎造跡	左・岡崎法勝寺町30, 30-2	2/10	+0.09m以下、平安中期の包含層（土師器、軒 瓦）、-0.15m以下、古墳の包含層（土師器、須 恵器）。	KS419	18
法勝寺跡	左・岡崎南御所町 地先	97/12/15-16- 18, '98/1/19	-0.68mまで現代盛土。	KS375	18
岡崎造跡	左・岡崎道(二条・冷泉通)交差点	2/6-9	-1.2mまで擾乱。	KS441	18
法勝寺跡					
岡崎造跡	左・仁王門通南側、神宮道～岡崎道 地内	3/23, 5/19-25	-0.92m以下、によい黄褐色砂泥の地山。	KS494	18
成勝寺跡					
円勝寺跡					
白河南殿跡	左・聖蹟院東寺領町 地先	1/23	-1.28mまで遺構・遺物の検出できず。	KS422	18
白河北殿跡	左・東丸太町39, 39-2	2/26-27	-0.37mまで現代盛土。	KS468	18
白河街区跡	左・新東洞院町252 新浜小学校	3/6-9	-0.21mで近世の盛地層を切って土壌（石藍の 砲衣蓋）。-0.8m以下、平安後期・末期の包含 層。-1.75m以下、黒褐色砂礫の地山。	KS475	18

### 南・桂地区 (MK)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
上里北町造跡	西・大原野上北ノ町・上里南ノ町・上羽 町・石見町 地内	3/16～10/19	Na 3 : -0.78mで包含層（土師器）。Na 7 : -0.37 mで中世の包含層（瓦器）。	MK488	19-5
中久世造跡	南・久世衛城町456-1, 463	2/9	-1.73mまで現代盛土・耕作土。	MK440	20-1
中久世造跡	南・久世衛城町477-3～7	2/23-25	巡回時、工事終了。	MK463	20-1
大森造跡	南・久世大森町	97/5/13～6/27、 10/17～12/15、 '98/1/14	Na 1 : -0.52mで包含層（土師器）。-0.62m以 下、によい黃色粘土の地山。Na 3 : -2.0m以下、 流れ堆積。Na 4 : -2.1m以下、泥状堆积。	MK050	20-1
桜原庵寺隣接地	西・桜原杉原町12-1	3/3-4	-0.36mで近世の盛地層。-0.46m以下、黃褐色 砂泥の地山。	MK472	19-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
南春日町鹿寺	西・大原野南春日町	1/7・9・13・14・19・26～28, 2/2・25	-0.9m以下、黄褐色泥砂の地山。	MK390	19-3
久我原遺跡	伏・久我御族町～久我本町 地先	'97/11/10～ 12/24, '98/1/9～26	No.1 : -0.2m以下、流れ堆積、湿地状堆積。 No.7 : -0.2mで路面、-0.63mで近世の包含層。 No.8 : -0.3mで路面、-0.38m以下、近世の流れ堆積。 -1.3mで溝状堆積。No.9 : -0.23mで路面、-0.42mで流れ堆積。 No.10 : -0.49m以下、湿地状堆積。	MK333	20-2

### 洛東地区 (RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
法住寺嚴塔・六波羅政厅跡	東・大黒町通五条下る猿町～大黒町通七条 上る西之門町 地先	2/27～4/28	-0.5mで平安末期の包含層（土師器、青磁、陶器）。-0.65m以下、灰白色粘土の地山。	RT469	22
法性寺跡	伏・狭草坂町1-51	2/24～26	+0.8m以下、黄褐色粘土の地山。	RT465	23-1
法性寺跡	東・福島岸ノ上町7-2	3/13	-0.9mまで現代盛土。	RT484	23-1
法性寺跡	東・本町十五丁目778	1/23・26・28	-0.56m以下、灰土層（瓦）。	RT421	23-1
西手井城跡	山・原子鬼塚町15-2	2/13・16・17	-1.23mまで田耕作土。	RT449	21-5
元慶寺跡	山・北花山寺内町15-2・5	'97/11/4, '98/1/14	現代盛土のみ。	RT324	21-3
左義長町造跡・山科本願寺跡	山・東野舞台町～西野鷺宮町 地先	1/14～30, 2/2～17	RT402	21-1	
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 3号地	1/8	泥砂の地山を切って流路の東肩。		
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 2号地	1/8	掘削工事なし。	RT395	21-2
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 11号地	1/8	-0.1mまで現代盛土。	RT396	21-2
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 10号地	1/13	掘削工事なし。	RT397	21-2
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 5号地	1/21	巡回時、工事終了。	RT398	21-2
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 6号地	1/21	巡回時、工事終了。	RT413	21-2
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 7号地	1/21	-0.3mで砂泥層。	RT414	21-2
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 8号地	1/21	巡回時、工事終了。	RT415	21-2
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 4号地	1/28	巡回時、工事終了。	RT416	21-2
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 9号地	1/28	巡回時、工事終了。	RT427	21-2
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 14号地	1/28	巡回時、工事終了。	RT428	21-2
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 15号地	1/28	巡回時、工事終了。	RT429	21-2
中臣造跡	山・東野鷺宮町1-6	2/16	-0.2mまで現代盛土。	RT430	21-2
中臣造跡	山・東野鷺宮町1-6	2/19	-0.2mまで現代盛土。	RT452	21-2
中臣造跡	山・東野鷺宮町1-6	2/19	-0.3mまで現代盛土。	RT453	21-2
中臣造跡	山・御辻巻所ヶ口町38-2	3/3-4	-0.28mまで現代盛土。	RT454	21-2
中臣造跡	山・東泉野町1-4, 11-4	3/25	巡回時、工事終了。	RT473	21-2
中臣造跡	山・勤修寺東京稻野町4-25の一部 13号地	3/17	巡回時、工事終了。	RT497	21-2
				RT489	21-2

### 鳥羽地区 (TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
吉祥院竹尻城跡	南・吉祥院西ノ内町32の一部	1/28・30, 2/2	+0.18m以下、室町・近世の包含層、近世の土壌。	TB431	25-3
西飯食町造跡	伏・深草阪衆町748-1, 749	2/23・25・26	-0.01mで近世の包含層。-0.19mで幅0.16m・深さ0.07mと幅0.2m・深さ0.08mの畦状堆積。	TB464	25-2
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畠町 地先	'97/10/29～'98/4/13	No.6 : -1.27m以下。平安後期～末期の包含層（土師器、瓦器、白磁、瓦）。No.15 : -1.22mで肩口に礎を貼り付けた落込、東西1.67mを確認。	TB318	24
鳥羽離宮跡	伏・竹田青池町	1/8～27, 2/13・19・23～25・26	No.4 : -1.15m以下、中世の包含層2（土師器、瓦器）。No.7 : -0.55mで近世以降の包含層。	TB394	24
鳥羽離宮跡	伏・竹田淨普提院町～中島北ノ口町 地先	1/13・14	-1.18m以下、湿地堆積、流れ堆積。	TB401	24
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畠町7	2/13	-0.4mまで耕作土。	TB450	24
下鳥羽造跡・鳥羽離宮跡	伏・竹田坂ノ川町～下鳥羽笄川町 地内	3/24～4/19	No.8 : -1.5mで古墳の包含層。	TB495	24
下三橋遺跡	伏・横大路下三橋江立町, 下三橋城ノ前町	'97/11/5～'98/12/22	-1.47mで中世以降の湿地堆積。	TB326	23-2

伏見・醍醐地区 (FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
醍醐高寺	伏・醍醐西大路町～北西表町 地先	'97/10/14～12/24, '98/1/7～28, 2/2・3・23, 3/2	対象地の南半部(醍醐マーケット周辺)で飛鳥の瓦包含層を検出。本文38ページ。	FD296	25-6
醍醐高寺	伏・醍醐高畠町～醍醐西表町 地先	'97/12/9～24, '98/1/9～2/12	調査地全体、現代盛土(-0.45～1.0m)以下、湿地堆積。	FD365	25-6
醍醐高寺	伏・醍醐西大路町 地先	2/4～6・9・10・12・16・18・23	飛島～平安の包含層を検出、瓦多量出土。本文38ページ。	FD437	25-6
醍醐高寺	伏・醍醐北表町他 地内	3/13	-0.45mまで現代盛土。	FD481	25-6
醍醐高寺	伏・醍醐西大路町 地内	2/4～6・9・10・12・16・18・23	飛島～平安の包含層を検出、瓦多量出土。本文38ページ。	FD438	25-6
伏見城跡	伏・御堂前町621	1/14	-0.6m以下、近世以前の包含層。	FD403	26
伏見城跡	伏・桃山長岡越中南町85	2/12・13	-0.19mで近世以前の包含層、-0.34m以下、赤褐色粘土の地山。	FD447	26
伏見城跡	伏・大手筋通～南浜通、京町通～国道24号 番地内	3/13～6/30	No.3～5・7・11・13・14で近世以前の路面。	FD485	26
伏見城跡	伏・銀座一丁目346-1, 347-1	3/31	-0.17m以下、明褐色粘土の地山。	FD502	26

長岡京地区 (NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
左京北辺二条十町	南・久世鍬城町282-1	1/20	巡回時、工事終了。	NG410	28
左京郡西四坊十二町	伏・羽束郡志水町131	3/6・9	-1.34m以下、灰色粘土の地山。	NG474	28
左京八条三坊十二町	伏・納所町293	'97/9/10・16, 10/1, 12/12, '98/1/16	-0.35m以下、河川敷の現代盛土。	NG259	25-1
右京一条四坊十四町	西・大原野石見町	'97/4/14～'98/3/31	新たに朱生～古墳の遺跡を確認。他に中世の南北溝を検出。本文41ページ。	NG026	19-5

## II 1998年 4~12月期(平成10年度)

## 平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
大蔵省	上・千本通一条下る西御西中筋町19-64 上・仁和寺街道六軒町西入四番町121	6/16~18 5/22	巡回時、掘削終了。 +0.26m以下、黄色混砂泥沙の地山。	HQ100	1
大蔵省	上・仁和寺街道七本松東入一一番町90-1	7/9	-1.5mで近畿の包含層。	HQ058	1
大蔵省	上・千本通上長者町上る百万遍町85	8/28, 9/1~3・8	-1.0mで包含層(土師器)。	HQ130	1
大蔵省	上・仁和寺街道六軒町西入八番町151-位	11/4	-0.8mまで現代盛土。	HQ190	1
大蔵省	上・千本通中立売下る鬼星町61-2	7/6~7	-0.75mで江戸の包含層。	HQ264	1
内教坊	上・中立売通日暮東入新白木町 地先	5/6~15	-0.45mまで現代盛土。	HQ126	1
正帆司	上・下長者町通七本松西入馬場町225-27	11/24	掘削工事なし。	HQ038	1
要の松原	上・下長者町通六軒町西入人吉町291-1	4/21~22	-0.45mで江戸の包含層。	HQ284	1
要の松原	上・七本松通出水下る七番町356	6/23	-1.5m以下、黄褐色粘土の地山。	HQ079	1
要の松原	中・難波通西町166-11	7/13	掘削工事なし。	HQ137	1
要の松原	中・難波通西町60-2	9/16~17	-0.2m以下、時期不明の整地層。	HQ208	1
要の松原	上・下立売通七本松東入長門町410	6/16~18	-0.34mまで近世層。	HQ101	1
内鹿	上・下長者町通千本西入六番町375	6/12~16	-0.33mで江戸の包含層。	HQ096	1
左近南府	上・下長者町通松屋町東入東辰巳町118	8/3	巡回時、工事終了。	HQ167	1
左近衛府	上・下長者町通松屋町西入東辰巳町 地先	12/21~22	巡回時、工事終了。	HQ315	1
右兵衛府	上・御前通下立売下る之町398-3	9/28	巡回時、掘削終了。	HQ222	1
右兵衛府	上・御前通下立売下る之町398-3	9/28	巡回時、工事終了。	HQ223	1
右兵衛府	上・御前通下立売下る之町398-3	9/28	巡回時、工事終了。	HQ224	1
右兵衛府	上・下立売通御前東入西町344, 344-6	7/3~6~10	No.3 : -1.3mで明褐色粘土の地山を切って江戸の土壤層。 No.4 : -0.48mで時期不明の包含層。	HQ123	1
真言院	上・下立売通千本西入西町439 上・下立売通智恵光院西入中村町525	6/2 6/29~30	巡回時、工事終了。 -0.4mまで現代盛土。	HQ081	1
左兵衛府	上・松屋町通出水下る一丁目 地先	12/21	-0.8mまで現代盛土。	HQ117	1
東雅院	上・松屋町通椎木町上る二丁目638-640-1	6/1~2	-0.5mで包含層(土師器)。-0.72m以下、にっぽい黄褐色砂泥の地山。	HQ316	1
西雅院	上・日暮通丸太町上る西入西町747-85	12/14	-0.3mまで現代盛土。	HQ074	1
西雅院	上・日暮通丸太町上る西入西町747-83	12/14	-0.3mまで現代盛土。	HQ305	1
内匠寮	上・御前通下立売下る之町424-3	4/20~21	-0.15m以下、時期不明の包含層(土師器)。	HQ306	1
内匠寮	上・御前通下立売下る之町424-3	4/20~21	-0.4m以下、にっぽい黄褐色砂泥の地山。	HQ018	1
内匠寮	上・御前通下立売下る之町 地先	12/16	-0.07mで平安の包含層(土師器)。	HQ310	1
典嘉寮	中・難波通松下町8-19	6/15	-0.12mまで現代盛土。	HQ097	1
重嘉寮	中・難波通西町 地先	6/3~5	擾乱のみ。	HQ085	1
豊嘉寮	中・難波通南町8-7	4/2	-0.12mまで現代盛土。	HQ006	1
豊嘉寮	中・難波通中町51-23	6/22~23, 7/15	巡回時、工事終了。	HQ104	1
豊嘉寮	中・難波通中町 地先	11/5~6~9	-0.84mで明褐色砂泥の地山を切込む時期不明の東西溝。幅0.7m・深さ0.3m。	HQ269	1
豊栄院	中・難波通中町51-8	6/22~23, 7/1~2	巡回時、工事終了。	HQ105	1
朝堂院	中・難波通東町24-5	8/19~20	-0.6mまで現代盛土。-1.1mまで時期不明の整地層。	HQ179	1
朝堂院	中・西ノ京小堀町	4/1~2~6	-0.35mまで現代盛土。	HQ001	1
朝堂院	中・西ノ京小堀町2-52	4/28~30	No.1 : -0.27mで江戸の包含層。-0.87m以下、黄褐色砂泥の地山。 No.2 : -0.1mで江戸の包含層。	HQ031	1
中務省	上・淨福寺通丸太町下る西入主税町1056-1	12/25	-0.45m以下、No.1と同一の地山。	HQ320	1
宮内省	上・丸太町通智恵光院下る主税町1119	4/17	巡回時、工事終了。 +0.04mで江戸の包含層。	HQ017	1
宮内省	上・竹屋町通千本東入主税町1218-2	6/1	-0.4mまで現代盛土。	HQ072	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町6-33	7/7	掘削工事なし。	HQ128	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町17-5	7/10	-1.0mまで幾乱。	HQ135	1
式部省	中・西ノ京式部町43 8号地	4/6~7	掘削工事なし。	HQ009	1
式部省	中・西ノ京式部町43	7/17	-0.15mまで現代盛土。	HQ143	1
式部省	中・西ノ京式部町43 3号地	7/17	-0.15mまで現代盛土。	HQ144	1
式部省	中・西ノ京式部町43 7号地	7/17	-0.15mまで現代盛土。	HQ145	1
式部省	中・西ノ京式部町43 6号地	7/17	-0.15mまで現代盛土。	HQ146	1
式部省	中・西ノ京式部町43-2	10/19~20	工事掘削なし。	HQ241	1

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
式部省	中・西ノ京式部町43-2	12/9	-0.15mまで現代盛土。	HQ298	1
式部省	中・西ノ京小堀町2-103他 3筆	6/26	-0.2mまで古代盛土。	HQ114	1

### 平安京左京 (HL)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
一条大路	上・一条通淨福寺西入草堂之内町294-1	7/15	-0.2m以下、近世の包含層。	HL139	2
一条大路	上・一条通淨福寺西入草堂之内町294-1	4/23	-0.2mまで現代盛土。	HL026	2
朱雀大路	中・西ノ京小堀町-西ノ京南聖町 地先	6/8~18-29,7/3	No 2 : -0.9mで時期不明の地状堆積の南端。No 3 : -0.95mで地状堆積。-1.45mでオリーブ粘土の地山。No 4 : -1.3mまで近代の石塁。-1.3m以下、近世の土層。	HL088	2
北辺二坊 三町	上・蘿屋町通上長者町上る南横町331,332	6/23	-0.4mまで現代盛土。	HL109	2
北辺三坊 四町	上・一条通塗町西入東日野蘿屋町395,396 上宮中学校	10/5-7-9	+0.32mで近世以降の土層。	HL230	3
一条二坊 四町	上・黒門通下立荒下る森中町602	8/5-6-10-18-20-21	-0.82mまで江戸の包含層。	HL170	2
一条二坊十一町	上・東堀川通出水下る四丁目196-3-4	5/22-25-26	-0.17mで室町の包含層。-0.41m以下、赤褐色砂泥の地山。	HL059	2
二条三坊 九町	中・丸太町通室町東入常其横町190-5	7/17-28-29	-1.1mで鎌倉の包含層、-1.3m以下、橙色砂泥の地山。	HL147	3
三条三坊十五町	中・車屋町通御池上る仲保利町-車屋町通 夷川上る少将井御旅町	4/21-22,5/8	-0.9mまで現代盛土。	HL022	3
二条三坊十四町	中・車屋町通夷川上る少将井御旅町344-1	6/23-25-29,7/7-8	No 2 : -0.53m以下、洪水層と整地層の互層。-1.24mで包含層(土師器)。No 3 : -1.0mで江戸の包含層。	HL107	3
二条三坊十四町	中・東御院通竹屋町下る三本木五町目 475-2他	11/13-16	No 1 : -1.2~1.43mに室町の包含層(土師器、陶磁器)。-1.35mで室町の土壤(土師器)。No 2 : -2.1mで黄褐色砂泥の地山を切込む平安後期の井戸(土師器、須恵器、白磁)。	HL280	3
二条三坊十五町	中・車屋町通竹屋町上る砂金町403,406	4/27,5/1-11-19 -22	No 1 : -1.33mで黄褐色粘土の地山を切込む室町の南北層。No 2 : -0.73m以下、室町-江戸の包含層各1層。-1.21mで時期不明の土壤。-1.28m以下、にいわ黄褐色粘土質砂泥の地山。	HL030	3
二条四坊十五町	中・烏丸通丸太町先り壹町-丸太町通寺町 下御堂前町	9/25-29-30,10/ 1-2-6-12-27-28, 11/5	No 1 : -1.1~1.4mで鎌倉の包含層2(土師器、瓦器、白磁)。	HL220	3
二条四坊 七町	中・丸太町通南側、烏丸~寺町通 地内	6/9~30,7/3-7/ 8-22-29,8/3~ 24	No 8~10の2箇所で時期不明の包含層。	HL090	3
二条四坊 八町	中・二条通烏丸通~守町通間 地内	5/27-28,6/1~ 30,7/2~6,8/3~ 18,9/1-18,11/5	No 1 : -1.46mで時期不明の包含層。No 5 : -1.37mで室町の包含層。	HL067	3
二条四坊十二町	中・二条通御馬場東入昭明町674	8/25-26,9/1	-0.4~1.6mまで近世の泥炭堆積。-0.82mで江戸の包含層。	HL187	3
二条四坊十三町	中・二条通、烏丸~寺町通間 地内	10/27-28,11/5- 6-16,12/8-17	No 1~3 : -0.18~1.75mまで二条大路の路面。No 4~6 : -1.75m以下は流れ堆積。-1.0mで室町の路面(土師器、瓦)。	HL254	3
二条四坊十四町	中・難波町通夷川上る後屋町471-1	10/28-30,11/5	-1.05mで平安の包含層(土師器、瓦)。-1.6m以下、にいわ褐色砂泥の地山。	HL257	3
二条四坊十五町	中・御幸町通竹屋町上る尾沙門町534	12/11	-0.3mまで現代盛土。	HL303	3
三条一坊 一町	中・西ノ京北齋町他 地内	7/10~24,8/3-1 8/24-31	No 1 : -0.35mで地盤層。-0.84mで褐色砂泥の地山を切込む落込。No 4 : -0.75mで灰黃褐色砂泥の地山。	HL136	2
三条一坊 三町	中・西ノ京職司町26-9他 3筆	8/17~19-24	-1.01mで灰黃褐色砂泥の地山。	HL174	2
三条一坊十二町	中・西ノ京池ノ内町30-6	7/7	-0.66mで江戸の落込の北界。	HL129	2
三条二坊 三町	中・新シ町通御池下る大文字町239-7	5/14-15-19	-0.67m~1.21mまで中世の包含層(土師器、陶器)。-1.21m以下は流れ堆積。	HL051	2
三条二坊 七町	中・堀川通押小路下る池元町 地先	6/22-23-29-30	夜間工事のため未調査。	HL106	2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
三条二坊 七町	中・堀川・御池通交差点 地内	9/4-9	夜間工事のため未調査。	HL203	2
三条二坊 七町	中・堀川通御池上る最上町391-1~3, 392-4~5,394-6	9/16-18・25-28, 10/6-9	-1.55mで室町の包含層、-1.65m以下で平安後期の池底堆積。	HL209	2
三条二坊十一町	中・押堀町45-3~上椎木町504	7/28	No 1 : -0.6mで時期不明の包含層。-0.8mで、 によい黄褐色砂泥の地山。No 2 : -1.2mでオリ ーブ褐色砂泥の地山。No 3 : -0.65mで室町の 包含層(土師器、礫灰岩)。-0.9mで黄褐色 粗砂の地山。 -1.75mまで複数。他は全て夜間工事。	HL156	2
三条二坊十一町	中・御池通堀川東入押堀町他 地内	5/19	No 1 : -1.0mで室町の包含層(土師器、瓦器)。	HL055	2
三条二坊十三町	中・堀ヶ町地内 (仮)堀ヶ公園建設地	12/11-14	No 2 : -0.9mで室町の包含層(土師器、瓦器)。 -1.23mで晩唐~室町の包含層。-1.5mで平安 中期の包含層(土師器)、-1.58m以下は黄褐色 粗砂の地山。	HL304	2
三条三坊 一町	中・二条通新町西入正行寺町684,685,銀町3-2	5/14-25	-0.2mで焼土、-0.65mで粗砂礫、-1.7mで圓 く縮まった土層。	HL052	3
三条三坊 八町	中・衣錦通二条下る上紗覚寺町221,223-1	4/1-2・6-13	-0.17m以下、焼土層、洪流水層、-1.97m以下、 によい黄褐色粗砂の地山。	HL002	3
三条三坊 九町	中・両替町通押小路下る金吹町480	5/6-7-11	-1.48m以下、室町の溝地堆積(土師器、陶器、 軒瓦)。	HL028	3
三条三坊 十町	中・室町通押小路下る御池之町301	10/22-26-27	No 1 : -1.85mで室町の包含層(土師器)。-2.45 mで褐色砂礫の地山。No 2 : -1.63mで室町の 包含層。-2.2mで明褐色砂礫の地山。	HL244	3
三条四坊 五町	中・堀町通御池下る丸木村木町 地先	7/23-30,8/3- 25,9/1	No 1 : -0.7~1.2mで近世の路面 5。	HL153	3
三条四坊 八町	中・押小路通柳馬場西入竹屋町152-3	7/9-10-13~16-21	-1.1mまで近世以降の土層。	HL131	3
三条四坊 八町	中・堀町通二条下る杉屋町636-1・2	9/2-3-7-8	-1.54mで中世の包含層。-2.13m以下、古墳の 包含層(布留式土器)、-2.78m以下、流れ堆積。	HL197	3
三条四坊 八町	中・二条通柳馬場西入親谷町72-1他	4/27-28,5/6-7-11	No 1 : -1.8mで平安後期~中世の落込。-2.03 m以下で平安後期の落込 3。No 2 : -2.4mで江 戸初期の土壌 4。-1.98m以下、によい黄褐色 粘土の地山。No 3 : -1.6mで二条大路路面、 -1.64m以下、黄褐色砂泥の地山。	HL027	3
三条四坊 九町	中・二条通柳馬場東入清明町655	6/25-29-30	-0.1m以下、燒土層 2、-0.9mで洪流水層、-1.2 mで江戸の包含層。	HL112	3
三条四坊十六町	中・御幸町通二条下る山本町434,436-1	4/15	-0.85mまで現代盛土。	HL016	3
四条二坊 五町	下・四条通堀川西入唐津屋町524-3	5/6-15	-0.25mで平安の包含層(土師器、綠釉陶器、 瓦)。-1.05m以下、褐灰色粗砂の地山。	HL035	4
四条二坊 十町	中・堀川通六角下る墨屋町255,256	7/15-17-21-22	-1.45mで江戸以降の整地層。-1.55m以下、黃 褐色砂礫の地山。	HL140	4
四条三坊 一町	中・新町通三条下る三条町325	7/21-23	No 1 : -1.08m以下、平安末期~鎌倉の包含層 7 (土師器、瓦器、輸入陶磁器、鐵食)。No 2 : -1.6 m以下、平安末期~鎌倉の包含層 9 (土師器、 瓦器、輸入陶磁器)。No 1・2は同一の土壌。	HL148	5
四条三坊 二町	中・西利院通六角下る池須町416-1	5/25-28,6/1	No 1 : -0.32mで江戸の包含層、-0.6m以下、黃色粗砂の 地山。No 2 : -0.25mで江戸の包含層、-0.85m 以下、によい黄褐色粗砂の地山。	HL061	5
四条四坊 五町	中・堀町通四条上る八百屋町555	9/25-28-30,10/2-5	-1.5mまで近世層。	HL217	5
四条四坊 九町	中・柳馬場通三条下る福屋町98-2	10/28-30,11/5	-1.34mまで近世層。	HL258	5
四条四坊十一町	中・柳馬場通堀藏即下る十文字町437	11/5-6-9	-1.8mで江戸の包含層。	HL270	5
四条四坊十三町	下・四条通御幸町西入奈良町町373	4/13-17-20-22	No 1 : -0.65m以下、四条大路路面 6、-1.5m で流れ堆積。No 2 : -1.77mで平安末期~鎌倉 の落込(土師器、瓦器、白堺)。-2.57m以下、 暗灰黃色砂礫の地山。No 3 : -1.48mで室町の 包含層。-1.64m以下、黄褐色砂泥・粗砂礫の 地山。	HL014	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
五条一坊 一町	中・壬生櫛ノ宮町11-14・15	12/14-18・21	No 1 : -1.43mで近世の廃土堆積。-1.8m以下、暗オリーブ色砂礫の地山。No 2 : -1.6mで平安中～後期の南北溝(土師器、白磁、瓦)、幅1.0m・深さ0.2m。-1.9m以下、暗オリーブ色砂礫の地山。	HL307	4
五条二坊 六町	下・岩上通仏光寺下る猿屋町425	6/23-24	-1.4m以下、明黄褐色砂泥の地山。	HL108	4
五条二坊 八町	下・堀川通四条下る四条堀川町261-1	4/10-13	-0.25mで江戸の土壌。-0.9m以下、によい褐色砂泥・砂礫の地山。	HL013	4
五条二坊 八町	下・堀川通四条下る四条堀川町257	6/19-22-24	-0.9mで鎌倉の包含層(土師器、青磁、瓦)。-1.4m以下、褐色粗砂の地山。	HL103	4
五条二坊 九町	下・油小路通四条下る石井町525-1, 527, 529	5/15-21-26-28, 6/1-8	-1.08mで江戸の土壌1、宝町の土壌2(土師器、瓦器、陶器)、平安の土壌1(土師器)。-1.51m以下、褐色砂泥の地山。	HL053	4
五条二坊 九町	下・油小路通四条下る石井町545	6/16	巡回時、工事終了。	HL098	4
五条二坊 九町	下・油小路通四条下る石井町531	7/9-10-13-21-23	-1.07m以下、江戸の整地層3。-1.67m以下、褐色粘土の地山。	HL132	4
五条二坊十四町	下・西洞院通仏光寺下る不柳町768	4/27-28-30, 5/7	-0.14mで包含層(陶器)、-0.76m以下、流れ堆積。	HL029	4
五条三坊 八町	下・室町通四条下る鶴林町491他20筆	8/3-4-18-21, 24-31, 9/1-4	No 1・2 : 平安～鎌倉の包含層、鎌倉の土壌検出。No 3 : 弥生中期の溝。1991年度発掘調査地。本文16ページ。	HL165	5
五条三坊十三町	下・鳥丸通松原上る東洞院鈴木町728-1-3	6/2-4-24	-0.5mまで現代盛土。	HL082	5
五条三坊十六町	下・四条通東洞院下る元徳王子町	8/19-21-24	-1.55mで鎌倉後期の包含層(土師器、陶器)。	HL180	5
五条四坊十三町	下・寺町通高辻下る京極町504, 504-1	6/24-26-29	-0.5m以下、記述無。	HL111	5
五条四坊十四町	下・御幸町通仏光寺下る鶴町 元開地小学校	6/24-26, 10/2	-0.99mで江戸の包含層。	HL110	5
五条四坊十四町	下・鶴屋町通仏光寺下る鶴屋町248-2	7/6	-1.95mまで複層。	HL125	5
五条四坊十四町	下・寺町通仏光寺下る恵美須町之539	10/13-30, 11/4	No 2 : -1.1m以下、整地層3、-1.25mで平安後期の土壌6。No 3 : -0.15m以下、平安後期～鎌倉の包含層(土師器、須恵器、灰釉陶器、青磁)。	HL234	5
五条四坊十六町	下・四条通御幸町西入奈良物町374	4/10-13-16	-0.68m以下、江戸の包含層2。	HL012	5
六条一坊 二町	下・中堂寺坊城町26 光輝小学校	11/5	-0.4mまで現代盛土。	HL271	4
六条二坊十五町	下・東中筋通五条上る天使坂町二丁目408	9/25-29, 10/2-5-6	-0.4m以下、江戸時代の包含層。	HL219	4
六条三坊 一町	下・松原通新町西入蔵下町22-1	10/28-30	-1.10mで中世の土壌(土師器、青磁)、以下は流れ堆積。	HL256	5
六条三坊 三町	下・新町通楊柳下る祇子町123-1	5/12-13	-0.3mまで現代盛土。	HL046	5
六条三坊 九町	下・松原通鳥丸西入津島町312	7/6-21-23	-1.8mで江戸の整地層。-2.4mで黄褐色砂礫の地山。	HL124	5
六条三坊 九町	下・万寿寺通鳥丸西入御供石町351-1	11/10-13-16-18	-0.75~-1.15mに時期不明の整地層2。	HL275	5
六条三坊 一町	下・室町通五条上る阪東屋町276, 278, 279	5/6-7-11-12	-1.66m以下、流れ堆積。	HL033	5
六条三坊十一町	下・鳥丸通五条下る大坂町382-1-2	6/2-4-8	No 1 : -0.9mで江戸の包含層。-1.29mで平安後期の土壌(土師器、須恵器)、落込(土師器)、平安の包含層(土師器、須恵器)。-1.69m以下、黄褐色細砂の地山。No 2 : -1.5mで平安の包含層。	HL083	5
六条三坊十五町	下・五条通鳥丸東入松屋町411, 431, 431-1	10/29, 11/4	-1.1mまで現代盛土。	HL260	5
六条三坊十六町	下・東洞院通松原下る大江町539	4/22-24	-0.78mで江戸の包含層。-1.0mで中世の包含層。-1.25m以下、流れ堆積。	HL023	5
六条四坊 九町	下・松原通富小路東入松原中之町490-2	5/11-12	-2.07m以下、平安前期の包含層2(土師器、須恵器、灰釉陶器、灰釉瓦器、褐釉陶器)、平安以前の包含層4。	HL041	5
七条一坊十五町	下・大富通花屋町下る大富二丁目583	8/24	-1.6m以下、流れ堆積。	HL184	6
七条二坊 三町	下・堀川通花屋町下る本願寺門前町60他	12/15	-0.31mまで現代盛土。	HL308	6
七条二坊十五町	下・東中筋通花屋町下る柳町328	9/25-28-30	No 1 : -1.0mで鎌倉の包含層(土師器)、-1.07mで時期不明の整地層。No 2 : -1.66m以下で粗砂。	HL218	6
七条三坊 八町	下・鳥丸通七条上る常磐町754	8/19	-0.35mまで現代盛土。	HL181	7
七条三坊十三町	下・不明通七条上る鶴川町229	11/10-11	-0.8~1.2mまで近世の湿地堆積。	HL276	7

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
七条三坊十六町	下・東洞院通花屋町下る葛田町373	10/29-30	No 1 : -0.73m以下、平安~近世の包含層。No 2 : -1.01mで鎌倉の包含層(土師器)。-1.41m以下は砂礫層。 -0.7mで宝町の包含層。-1.07mで黄褐色砂泥の地山。	HL259	7
七条三坊十六町	下・不明門通六条下る仏具屋町	10/26	-1.0m以下、氾濫堆積。	HL249	7
七条四坊 五町	下・七条通高倉東入村木町476	8/5	No 1 : -0.3mで平安末期~鎌倉の包含層(土師器、瓦)。-0.4mで平安末期の土層。No 2 : -0.64mで、にぶい黄褐色砂泥の地山を切込む平安末期の池(土師器、瓦)。	HL171	7
八条一坊 八町	下・觀喜寺町1-1,2	5/25~27	-0.82mで時期不明の包含層。-1.09m以下で流れ堆積と湿地堆積の互層。	HL062	6
八条一坊 八町	下・觀喜寺町1	4/15~17-20~24-28	No 1 : -0.17mで江戸の包含層。-0.72mで室町の包含層(土師器、瓦器)。-0.82mで鎌倉~宝町の包含層(瓦器、陶器、白磁)。	HL015	6
八条二坊 十町	下・油小路通木津屋横下る北不動堂町480	11/6-9	-1.2~1.9mまで氾濫堆積。-1.9mでオリーブ色砂泥の地山。	HL272	6
八条二坊十三町	南・西九条北ノ内町41	8/24~26-31	-1.1m以下、近世以降の土層。	HL183	6
八条三坊 二町	下・京都駅地区土地区画整理事業内(その3) 地内	10/12-13	-1.1m以下、近世以降の土層。	HL235	7
八条三坊 八町	下・七条通新町東入西境町159	11/4-5	-0.52~1.26mまで路面3。	HL267	7
八条四坊 二町	下・東洞院通七条下る東塩小路町547-4-5	10/26-27	-0.75mで中世の包含層(青磁)。-1.1m以下、流れ堆積。	HL248	7
八条四坊 九町	下・御之町153-1-2-13	4/3	-0.8mまで現代盛土。	HL007	7
九条一坊 八町	南・壬生通八条下る東寺町541	7/30-31, 12/22	-0.69mまで細砂層。	HL160	6
九条二坊 九町	南・西九条池ノ内町93-3-4	8/31, 9/3	-0.8m以下、粗砂、砂礫の流れ堆積。	HL191	6
九条四坊 四町	南・東九条中御町55 鴻化小学校	10/26	-0.4mまで現代盛土。	HL250	7

### 平安京右京 (HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
一条大路	上・一条御前通東入西町25	12/7	-0.2mまで現代盛土。	HR295	9
一条二坊 二町	上・御前通下立売上る天満屋町308の一部、上ノ下立売御前通西入大宮町476の一部	11/2-5	-0.5mまで現代盛土。	HR262	9
一条二坊 六町	上・上ノ下立売御前西入堀川町512, 514	5/25~27, 7/16, 8/10-11	No 4 : -1.41m以下、明黄褐色砂泥の地山。No 5 : -1.0mでオリーブ色砂泥の地山を切って平安の土塹2(土師器、瓦)。	HR064	9
一条二坊十二町	中・西ノ京北円町59	8/4~6-10-17-18-21-24~27	No 2 : -0.67mで平安の包含層(土師器)。-0.97mで中世の土取り土塹3(土師器)。No 3 : +0.07mで平安前朝の包含層(土師器、須恵器、織物陶器)。-0.83mで橙色粘土の地山。	HR149	9
一条二坊十五町	中・西ノ京中保町24-1	6/8~12-15-16	平安の落成の北界、平安前期の井戸状造構。本文18ページ。	HR089	9
一条三坊三町	中・西ノ京中保町他 地内	5/7-8-12-13-19~22	No 1 : -0.2mで宝町の路面(土師器)。-0.6mで流れ堆積。-0.95m以下、明黄褐色粘土の地山。	HR039	8
二条四坊 八町	右・太秦安井車道町4-3-4	10/7~9-12	No 1 : +0.1mで平安後期の包含層。-0.3mで明黄褐色砂泥の地山を切って平安の土塹。No 2 : -0.1mで平安後期の石組井戸。No 3 : 平安の包含層、土塹。	HR231	8
三条一坊 一町	中・西ノ京御尾町~西ノ京小堀町	4/7-8, 5/11-13-15	No 1 ~ 5 : -0.7m以下、砂礫の地山。	HR010	9
三条一坊 四町	中・西ノ京御尾町 地内	9/21-28, 10/2	巡回時 摂割終了。	HR215	9
三条一坊 五町	中・西ノ京小倉町1-5の一部	8/4-5	-0.86mで包含層(土師器)。	HR169	9
三条一坊十六町	中・西ノ京船岡町 地内	12/7-14-17-21	-1.1mで灰黃色粘土の地山。	HR296	9
三条二坊十二町	中・西ノ京新宿町5-12	4/6-7	-2.02m以下、平安中期の池底堆積(土師器)。	HR008	9
三条四坊 五町	右・山ノ内宮前町26-8	9/16-17	-0.42mで包含層(土師器)。-0.72m以下、灰白色泥土の地山。	HR211	8
四条一坊 一町	中・壬生天池町 地先	12/1	-1.4mまで撲。	HR289	11

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
四条一坊 一町	中・西ノ京柳尾町～壬生宇佐町 地先	7/9-31, 8/3-18 ～20	-1.3mで褐色砂礫の地山。 -0.3mまで現代盛土。	HR133	11
四条一坊 六町	中・壬生花井町3	11/16-18	No 2 : -0.35mで平安の包含層（土師器、須恵器）。	HR282	11
四条二坊 六町	中・壬生園田町18-2	9/2-4	No 2 : -0.5m以下、灰色砂礫の地山。No 3 : -0.73mで平安の包含層（綠釉陶器、瓦）、-1.05m以下、青灰色砂礫の地山。	HR198	11
四条二坊 六町	中・壬生園田町10-7	5/27-28, 6/1	-0.35mで、茎生か古墳の柱穴状透構。-0.43m以下、灰質色砂礫の地山。	HR066	11
四条二坊 九町	右・西院上今田町25の一部	4/8	-1.21m以下、包含層2（土師器）。	HR011	11
四条二坊十五町	右・西院下花田町～西院横町 地先	8/4～24, 9/7～ 30, 10/2	No 2 : -0.5m以下、佐井川の堆積。-0.4mで蘿岸の枝3本発見。No 3～5 : -0.6m以下、佐井川の堆積（須恵器）。	HR168	11
五条一坊 二町	中・壬生高瀬町50-2	10/20-22	-0.47mで平安前期の包含層。-0.84m以下、混地堆積。	HR240	11
五条一坊 四町	中・壬生松原町16	11/16, 12/9	-0.14mまで現代盛土。	HR281	11
五条二坊 一町	中・壬生東土居ノ内町20 朱雀第七小学校	10/26-27, 11/4 ～6-14	巡回時、工事終了。	HR251	11
五条二坊 九町	右・西院高山寺町4-1	10/22, 11/2	-0.55mで平安の包含層。-0.67mで平安前期の地状堆積（土師器、須恵器）。	HR247	11
五条二坊 十町	右・西院三郷町32-5-6	11/2-4	-0.16mで包含層（土師器、綠釉陶器）。-0.43m以下、オリーブ灰色砂礫の地山。	HR263	11
五条三坊 四町	右・佐井西通、高辻北通～五条通及び高辻北通、佐井西通～佐井通 地内	8/31～11/2	No 2 : -0.7mで平安前期の包含層。No 4 : -0.75mで時期不明の包含層。-1.05mで古墳の包含層。No 5 : -0.43mで平安前期の宇多小路西御溝（土師器、須恵器、木片）。No 6 : -0.73mで時期不明の路端。-1.14mで瓦を含む東西方向の落込。-0.8mで枕、-0.7mで横樋検出。道根大路・高辻小路の交差部にあたる。No 9 : -0.57mで時期不明の包含層。-0.7mで時期不明の落込。No 10 : -1.14mで宇多小路東御溝（綠釉陶器）。No 13 : -0.8mで平安の包含層（須恵器）。	HR192	10
五条四坊十三町	右・西院西田町82	12/4-8	-0.33mまで旧耕作土。	HR293	10
六条一坊 三町	下・中堂寺南町54-13	4/20	-0.3mまで現代盛土。	HR019	11
六条二坊 四町	下・西七条東御前田町34	7/31, 8/3-4	-0.98m以下、黃褐色砂礫の地山。	HR162	11
六条二坊十六町	右・松原通、佐井通～西大路通 地内	10/19-20, 23, 11/2-4-6-9-10-12	-0.67mで佐井川の堆積（須恵器）。-1.38m以下、綠灰色粘土の地山。	HR242	11
六条三坊 一町	右・西院西寿町20-3	8/3-4	-0.88m以下、黃褐色砂礫の地山。	HR166	10
六条三坊十五町	右・西院久保田町6-6の一部、6-7の一部、6-13の一部	4/20～23	-0.62mで茎生の包含層を切って土壤。-0.74m以下、よい黄褐色粘土の地山。	HR020	10
七条一坊 六町	下・朱雀宝麻町24-1	8/17-20	No 1 : -0.48mで唯オリーブ色泥砂の地山。No 2 : -0.46mで包含層（瓦）。	HR175	13
七条二坊 二町	下・西七条掛越町～西七条東石ヶ坪町	9/2～29, 10/2-28, 11/2-6-19	No 2 : -0.4mで平安の包含層（土師器、須恵器、鏡）。	HR199	13
七条二坊 三町	下・西七条市部町132	5/6-8	No 3 : -0.4m No 2と同一の包含層。	HR036	13
七条二坊 八町	下・西七条西石ヶ坪町5 七条第三小学校	10/26-27, 11/4 ～6-19	No 1 : -0.78m以下、よい橙色粘土の地山。No 2 : -0.48mで平安前期の土壤（土師器裏・ミニチュア羽釜、須恵器表・蓋・杯、土馬）。-0.51mで平安前期の西大路西御溝（土師器、瓦）を切って平安後期の土壌。	HR252	13
七条二坊 八町	下・西七条前田町44	11/10-11	巡回時、工事終了。	HR274	13
七条三坊十一町	右・西京極三反田町18-9	12/25	-1.0m以下、オリーブ灰色砂礫の地山。	HR322	12
七条四坊 二町	右・西京極町ノ坪町10-2	11/4-5-9-10	No 1 : -2.35m以下、褐色砂礫の地山。No 2 : -0.7mで平安の包含層（土師器）。	HR268	12
八条一坊十六町	下・西七条南東野町16-2	6/1-3-4	-0.8m以下、褐色砂礫の地山。	HR073	13

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
八条二坊 六町	下・櫛小路石橋町20	4/2-3-6-15-16	Na 1 : 2 : -0.54mで近世の東西方向の流路。 Na 3 : -0.55mで平安末期～鎌倉の東西溝、溝の底部から杭積層(土師器、灰陶陶器、瓦器)。 -0.8m以下、暗オリーブ色粗砂混雜の地山。	HR004	13
八条二坊 八町	下・西七条南西野町46-2	12/8-10	-1.2mで平安の包含層(土師器、灰陶陶器)。	HR294	13
八条二坊十二町	下・七条御所ノ内本町68-1-3	12/1	-1.5m以下、褐色色・よい褐色砂礫の地山。	HR288	13
八条二坊十三町	下・七条御所ノ内本町15	6/17	-0.3mで中世の包含層。	HR102	13
八条二坊十五町	下・南・西堀小路通一條北通～八条通、西高 堀川東通～佐井東通 地内	7/1～11/2	Na 1 : -0.39mで時期不明の包含層。Na 7 : -0.75mで鎌倉の包含層。Na 8 : -0.41mで江戸の包含層。Na 12 : -0.3mで時期不明の包含層。 Na 15 : -0.44mで平安前期の包含層。Na 16 : -0.5mで平安中期の包含層。Na 19 : -0.43mで平安の包含層。	HR121	12
八条四坊十五町	右・西京極芝ノ下町29-1 西京極小学校	9/30, 10/2-7-13	-0.4mで耕作土。	HR225	12
九条一坊 六町	南・唐橋花園町43, 44	5/25～27	-0.2mで包含層(土師器、須恵器)。	HR063	13
九条一坊 十町	南・唐橋門脇町36	12/1	掘削工事なし。	HR287	13
九条一坊十三町	南・唐橋西寺町 5	9/14-16	-0.28mまで現代土壌。	HR207	13
九条一坊十五町	南・唐橋門脇町10	8/11	-0.25mで平安前期の包含層(土師器、軒丸瓦)。	HR173	13
九条二坊 八町	下・櫛小路高畠町14～16	5/22	-0.5mまで現代土壌。	HR060	13
九条三坊十一町	南・吉祥院西ノ庄場之馬場町 1	9/8-9	-0.95mでオリーブ色砂泥の地山。	HR205	12
九条三坊十二町	南・吉祥院西ノ庄場之馬場町 1	7/22-23	-1.6m以下、よい黄褐色砂泥の地山。	HR154	12
九条三坊十五町	南・吉祥院前河原町33-2	8/17～20	-0.67mで鎌倉～室町の包含層(土師器)。	HR176	12
九条四坊十五町	南・吉祥院大河原町 8	10/22	-0.26mまで耕作土。以下は砂・礫の氾濫堆積。	HR239	12

### 洛北地区 (RH)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
北野 道 跡	北・平野宮本町33, 44, 45	8/26-27	-0.87m以下、明黄褐色粘土の地山。	RH188	15-3
北野 道 跡	北・平野宮本町69	9/30, 10/1-2-5-5	-0.77m以下、浅黃褐色砂礫の地山。	RH226	15-3
北野 道 跡	北・北野東紅梅町～上白梅町 地先	5/25～28, 6/1～10	-1.4mまで擾乱。	RH065	15-3
北野 庙 寺	北・北野紅梅町87	9/11, 10/2-6	Na 1 : +0.35mで中世の包含層、+0.2mで平安～中世の包含層。±0 mで平安の包含層。Na 2 : +0.15m以下、平安～室町の包含層。-0.65m以下、黄褐色粘土の地山。	RH206	15-3
北野 道 跡	北・北野紅梅町87	9/11, 10/2-6	Na 1 : +0.35mで中世の包含層、+0.2mで平安～中世の包含層。±0 mで平安の包含層。Na 2 : +0.15m以下、平安～室町の包含層。-0.65m以下、黄褐色粘土の地山。	RH206	15-3
西北町 道 跡	北・紫竹山西町1-3 待風小学校	9/25, 10/5	-0.75mまで黒泥。	RH221	16-1
尊 重 寺 跡	上・五辻通千本東入西五辻東町47	7/16-17	-0.45mで整地層、-0.58mで平安後期の包含層(土師器、須恵器、白磁)。-0.93m以下、褐色砂泥の地山。	RH141	15-1
尊 重 寺 跡	上・五辻通淨福寺西入一色町18	9/3-4-8	-1.04mまで近世の整地層。	RH201	15-1
世 尊 寺 跡	上・智惠光院通上立売下る紋屋町～伊佐町 地先	7/22～9/14	Na 1 : -0.3m以下、路面、整地層。Na 2 : -1.2m以下、褐色砂泥の地山。Na 5 : -0.55m以下で鎌倉の整地層(土師器)。Na 10 : -0.3mで近世の包含層。	RH155	15-1
世 尊 寺 跡	上・上立売通大宮西入現屋町282	8/31-9/3-8-10-14	-1.2m以下、近世以降の包含層。	RH193	15-1
本満寺の構え跡	上・今出川通小川東入南衆町337	5/6-7-12-15	-1.75m以下、褐色砂泥の地山。	RH032	15-2
相国寺旧境内	上・上御堂馬場町366-1の一部	9/18-21-29	-0.47mで唯褐色砂泥の地山を切って室町の整地層(土師器)。	RH214	15-2
鞍馬山経翠群	左・鞍馬本町587	10/26～30, 12/10	+2.3mで室町の包含層。	RH227	14-1
聖林院長谷巣跡	左・岩倉長谷町	5/11～13, 6/18～	Na 1 : -0.1m以下、褐色砂泥・砂礫の地山。Na 2 : -0.7m以下、明黄褐色砂泥の地山。Na 4 : /26, 11/2, 12/16	RH044	14-4
岩倉忠在地遺跡	左・岩倉大鶴町145-3	10/5-6-8-9-12	-0.8m以下、黄褐色砂泥の地山。	RH228	14-3
船山須恵器窯跡	北・西賀茂今原町2-1	9/16～18-21	Na 1 : -0.85mで弥生の包含層。-0.95m以下、よい黄褐色砂泥の地山。	RH210	16-2

## 太秦地区 (UZ)

遺跡名	所 在 地	調査日	調査概要	調査No	図版
清涼寺境内	右・嵯峨大覺寺門前井源町地内	11/9~24, 12/1~8~17	-0.49mで包含層(土師器)。-0.9m以下、にぼい褐色粘土の地山。	UZ273	15-3
円乗寺跡	右・御室大内35-2	11/24	-0.5m以下、黄褐色砂泥の地山。	UZ285	17
花園宮ノ上町遺跡	右・花園紋ノ四町～谷口圓成寺町 地先	7/31, 8/8~10~12~18~20~24~31, 9/1~2~8~9, 10/8	No 2・3・5・6 : -0.4~0.6mで平安の包含層。-1.4mで暗黃褐色粘土の地山。	UZ164	17
村ノ内町遺跡・常盤東ノ町遺跡・仁和寺院家跡	右・常盤東ノ町6-11	5/6~18	-0.7m以下、中世～江戸の包含層。-1.0m以下、褐色砂礫の地山。1976年発掘調査地点。	UZ237	17
村ノ内町遺跡・仁和寺院家跡	右・常盤東ノ町6-5, 26-7	7/28~29	No 1 : +0.05m以下でにぼい赤褐色砂泥の地山。No 2 : +0.04m以下で古墳～中世の包含層(土師器)。+0.12mで包含層を切って、時期不明の構造遺構。-0.2m以下、にぼい赤褐色砂泥の地山。	UZ157	17
上ノ段町遺跡	右・嵯峨野有柄川町1	7/31, 8/3~4	-0.6mで時期不明の包含層(土師器)。-0.85m以下、褐色砂泥の地山。	UZ163	16-5
和泉式部町遺跡	右・太秦森ヶ西町17-9, 20-1, 21-152, 36, 40 田有地	6/29~30, 7/1~3	No 1 : -1.34mで古墳の包含層。-1.94m以下、明黄褐色粘土の地山。No 2 : -1.45mで古墳の包含層。No 3 : -1.3mで地山を切って古墳期の豊穴住居の一部を検出(土師器)。規模は幅4.3m以上、深さ0.29m。周溝の底部幅0.3m残存、平面の形状は不明。	UZ118	17
舞所ノ内町遺跡 脚接地	右・嵯峨野秋街道町1-1	4/23~24~27	-1.6mで平安～中世の包含層。-1.9m以下、明黄褐色砂泥の地山。	UZ204	16-5
多板町遺跡	右・太秦多板町14-109-268-269-277-279	6/25~26~29	No 1 : -0.17mで包含層。-0.57mで整地層。-0.87m以下、明黄褐色砂泥の地山。No 2 : -0.36mで平安の包含層(土師器、錆物陶器)。	UZ113	16-5
西賀町遺跡 井戸ヶ尻遺跡	右・嵯峨野千代ノ道町 右・太秦井戸ヶ尻町～太秦森ヶ前町 地先	8/28 6/10~7/2	-0.06mまで現代耕土。 No 2 : 9・10 : -0.22~0.7m以下、明黄褐色粘土の地山。	UZ189 UZ291	16-5 17

## 北白川地区 (KS)

遺跡名	所 在 地	調査日	調査概要	調査No	図版
追分町古墳群	左・北白川久保田町 地内	10/13~14~22~26 ~28~30, 11/5	No 1 : -1.0mで流れ堆積、-1.3mで窓櫛土層。 No 2 : 4 : -0.5m以下、流れ堆積。	KS237	18
京都大学構内	左・吉田近衛町26-70-71	5/8	No 1 : -0.65m以下、包含層3(土師器)。No 2 : -0.49mで窓櫛の包含層。-0.67mで中世の土壌。 -0.9m以下、黄褐色粗砂の地山。	KS043	18
朱生塗跡・ 白河街区跡	左・北白川追分町4	7/30~8/1	縄文の包含層を検出。縄文中期～朱生前期の遺物が出土。本文27ページ。	KS161	18
京都大学西部 構内遺跡	左・吉田牛ノ宮町8	7/21~24	-1.65mで平安後期～鎌倉の砂と瓦砂の互層に よる仮墓(土葬器、瓦器、白磁、瓦)。-2.0m 以下、黄褐色砂泥の地山。	KS150	18
白河街区跡	左・聖蹟院西町1-7	6/2~4	-0.2m以下、江戸の包含層。	KS084	18
白河街区跡	左・新車屋町通二条下る新車屋町～新富小 路通仁王門下る最勝寺町 地先	7/21~30, 8/4~ 10~17~19~25, 9/4~10~18	No 6 : -0.15m以下、近世の流れ堆積。	KS152	18
白河街区跡	左・吉田下大路町19	7/29~31	No 1 : -0.29mで江戸の包含層。-0.69mで鎌倉・東町の落込。-0.94m以下、白川砂。No 2 : -0.7mで鎌倉の落込、土壌。-0.7m以下、白川砂。No 3 : -0.46mで鎌倉の包含層。-0.54m以下、白川砂。	KS158	18

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
白河街区跡	左・聖蹟院東町16-10	10/20-22-26	-0.4mで平安末期～鎌倉の包含層。-0.5m以下、によい黄橙色微砂の地山。	KS246	18
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町 岡崎公園	11/4-9	-0.38m以下、堆積層。	KS265	18
白河北駿跡	左・東九太町26-2	11/12	-0.3mまで現代盛土。	KS278	18
白河北駿跡	左・東九太町17	8/24-26, 9/4	-0.67m以下、砂礫層。	KS185	18
鴨接地	左・岡崎後成町29-13	11/16	-0.47mまで現代盛土。	KS283	18

### 南・桂地区 (MK)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
上久世遺跡・上久世城跡	南・久世久世町454 久世西小学校	10/27	-0.8mまで現代盛土。	MK255	19-4
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目73-2	6/11-12	-0.85mで生糞の包含層。-0.95m以下、黄褐色粘土の地山。	MK094	20-1
中久世遺跡	南・久世中久世町五丁目14	9/2-4-7	No 1 : -1.3mで鉢生～古墳の洗路の西側。-1.58m以下、男賀褐色粘土の地山。No 2 : -1.85mで洗路。-2.7m以下、灰褐色砂泥の地山。	MK200	20-1
中久世遺跡	南・久世殿町447-1	9/21-25-29-30, 10/2-5-6	No 1 : -1.11mで古墳の包含層。-1.22mで明賀褐色砂泥層の地山。No 2 : -0.33m以下、名含層。-0.73m以下、黄褐色粘土の地山。	MK216	20-1
大森遺跡	南・久世大森町189-2, 190-2	9/16	-0.42mまで現代盛土・耕作土。	MK213	20-1
草鳴船跡	西・川島玉頭町21-2	9/16-18-28-30, 10/2-5-6-8-9	No 1 : -0.13mで江戸の土壌。-0.6m以下、褐砂泥の地山。No 2 : -0.1mで中世の土壌。No 4 : -0.7m以下、黄褐色砂泥の地山を切って室町の落込。	MK212	19-2
福西古墳群 上里北ノ町遺跡	西・大枝中山町～大枝新新林町二丁目 西・大原野上里北ノ町他	6/10 4/1-11/24	-1.6mまで現代盛土。 -0.25m以下、粘土・砂泥の地山。	MK093 MK003	16-4 19-5

### 洛東地区 (RT)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
将軍塚古墳群	東・栗田栗田山南町1	6/3-5-8-15	-0.25mで岩盤。	RT086	20-3
法觀寺旧境内	東・八坂上町385-7	5/12-15-19 ~22-25	No 3 : -1.05mで平安後期の包含層（土器類、須恵器）、飛鳥の瓦を含む。-1.2m以下、黄褐色粘土の地山。No 6 : -1.9mで黄褐色粘土の地山を切って小穴。	RT047	20-4
法觀寺旧境内	東・八坂上町373-1	7/13-14	No 1 : -0.3m以下、黄褐色粗砂泥層の地山。No 2 : -0.48mで江戸の包含層。以下、明黄褐色粗砂の地山。	RT138	20-4
法住寺駿跡・六波羅政序跡	東・正面通、本町通～大和大路通 地内	4/30, 5/7-8	-0.7m以下、灰白色粘土の地山。	RT025	22
法住寺駿跡	東・茶屋町他 地内	6/1-26	No 8・9 : -1.27-1.35mで室町の溝地堆積（土器類、軒丸瓦）。	RT076	22
六波羅政序跡	東・池尻町214-2	6/29-30, 7/1-3 3-7-13-14	-0.54m以下、によい黄褐色沙の地山。	RT119	22
法住寺駿跡	東・新庄町西組625-2	8/31, 9/1	平安末期の東西溝、南北溝検出。本文38ページ。	RT194	22
法性寺跡	東・本町十五丁目807	7/29	-1.4mで包含層（土器類）。	RT159	23-1
法性寺跡	東・本町十九丁目391-1	8/18-19	-0.35mまで現代盛土。	RT178	23-1
安祥寺下寺跡	山・御附平林町 地内	8/17, 10/1	-0.54mまで現代盛土。	RT177	20-5
安朱遺跡	山・上野御所ノ内町10-4	6/30, 7/14-24	No 1 : -0.5mで整地層。-0.9m以下、によい黄褐色細砂層の地山。No 2 : -0.65mで整地層。-0.9m以下、灰黃褐色砂泥層の地山。	RT120	20-5
左義長町遺跡・山科本願寺跡	山・西野左義長町15-1-3	9/1-8	-0.68mまで耕作土。	RT196	21-1
左義長町遺跡・山科本願寺跡	山・西野左義長町 地内	12/16-17-21-22-24	-0.3m以下、暗褐色粘土の地山。	RT313	21-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
大聖遺跡	山・小山中川町13-4の一部	10/27-28	-1.0mで包含層(土師器)。	RT253	21-4
中臣遺跡	山・東野森野町23-61-64	5/8	-0.3mまで現代盛土。	RT042	21-2
中臣遺跡	山・渡辺番所ヶ口町38-14	5/12	-0.2mまで現代盛土。	RT045	21-2
中臣遺跡	山・勤修寺東京橋野町4-6の一部 1号地	5/27	-0.15mまで現代盛土。	RT069	21-2
中臣遺跡	山・勤修寺東京橋野町18-14	6/26	-0.3mまで現代盛土。	RT115	21-2
中臣遺跡	山・勤修寺東京橋野町18-14	6/26	-0.4mまで現代盛土。	RT116	21-2
中臣遺跡	山・勤修寺東京橋野町51-4-8	7/14	-0.1m以下、黄褐色粘土の地山。	RT127	21-2
中臣遺跡	山・勤修寺東京橋野町10地4筆	7/9-22-24	-0.2m以下、黄褐色シルトの地山。	RT134	21-2
中臣遺跡	山・東野森野町1-20	7/21	-0.4mまで現代盛土。	RT151	21-2
中臣遺跡	山・勤修寺西系橋野町236-1	8/7	-0.15m以下、礫・シルトの地山。	RT172	21-2
中臣遺跡	山・東野森野木町6-8	8/21-25, 9/1	巡回時、工事終了。	RT182	21-2
中臣遺跡	山・東野森野町37-6-7	9/7	-0.15mまで現代盛土。	RT204	21-2
中臣遺跡	山・勤修寺東京橋野町4-6の一部 3号地	5/27	-0.15mまで現代盛土。	RT202	21-6
大宅発寺	山・大宅井鷲町10の一部	7/16-21	-0.4mまで現代盛土。	RT142	21-6
大宅遺跡	山・大宅山田8-1, 7-1の一部、9の一部、10の一部、14の一部	9/3	+0.18m以下、黄褐色粘土の地山。	RT202	21-6

### 鳥羽地区 (TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
下三橋遺跡接続	伏・横大路三橋山城屋敷町	6/5, 7/21-30, 8/3-5-6, 26, 9/10	No 1 : -1.26m以下、堤地堆積(土師器、須恵器、木片)。No 2 : -4.0m以下、流れ堆積。	TB087	23-2
吉祥院竹尻城跡	南・吉祥院西ノ内町45-1の一部	12/10	-0.3mまで現代盛土。	TB300	25-3
深草遺跡	伏・深草西浦町三丁目~隣草西浦町六丁目地先	11/12-13-16-26, 27-30, 12/8-15	No 1 : -0.92m以下、暗灰黃色淤砂の地山。No 2 : -0.95m以下、木片を多量に含む腐植土層。	TB279	25-2
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町112-8-10の一部 3区画	4/2-7-13	巡回時、工事終了。	TB005	24
鳥羽離宮跡	伏・中島崩山町159	5/7	巡回時、工事終了。	TB040	24
鳥羽離宮跡	伏・竹田真禮木町33-1	5/21	-0.24mまで現代盛土。	TB056	24
鳥羽離宮跡	伏・竹田真禮木町36	6/1	-0.3mまで耕作土。	TB075	24
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町1-3	6/15-17-22-29, 7/1	-0.8mまで耕作土。	TB099	24
鳥羽離宮跡	伏・竹田真禮木町171	10/7-8	+0.6mまで耕作土。	TB233	24
鳥羽離宮跡	伏・竹田背池町~竹田真禮木町 地先	11/4-5-26, 12/9-10-16	近世以降の耕作土。	TB266	24
鳥羽離宮跡	伏・中島秋山町121	12/7-8	-1.4m以下、块状堆積。	TB297	24
鳥羽離宮跡	伏・竹田桶ノ井町75, 76	12/10	-0.25mまで現代盛土。	TB302	24
鳥羽離宮跡	伏・竹田中宮町45	12/21-22	-0.69mで平安末期の包含層(土師器)。東勝接地は、鳥羽離宮跡127大調查地。	TB318	24
鳥羽遺跡	伏・中島鳥羽離宮町2	5/6-8-12	-1.92m以下、鎌倉の堤地堆積(木簡)。-2.99mm以下、流れ堆積。	TB034	24
鳥羽離宮跡	伏・中島橋端町72	5/28	掘削工事なし。	TB071	24

### 伏見・醍醐地区 (FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
小野庵寺	伏・醍醐大高町3-7	6/1, 7/14	巡回時、工事終了。	FD077	25-4
法界寺旧境内	伏・日野西大道町 地先	6/10-7/21, 9/3	-0.46m以下、明夷褐色砂泥の地山。	FD092	23-3
伏見城跡	伏・桃山羽柴長吉中町37の一部	10/7-8	-0.24m以下、明治褐色砂泥の地山。	FD232	26
伏見城跡	伏・京橋町308, 327-6, 山崎町371-6	5/12	-0.5mまで現代盛土。	FD048	26
伏見城跡	伏・桃山町本多上野 地先	5/21-25-27, 6/1-5-9-10	-0.25m以下、路面5, -0.79m以下、明褐色砂泥の地山。	FD057	27
伏見城跡	伏・周防町331-9-10	6/11	-0.2mまで現代盛土。	FD095	26
伏見城跡	伏・桃山長岡越中南町 地内	8/24-26-31, 9/1-4	No 3 : -0.24mで包含層(瓦)、-0.34mで地山を切って時期不明の土壠(瓦)。No 4 : -0.4mで地山の包含層(土師器)、-1.1m以下、黄褐色砂泥の地山。	FD186	26

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
伏見城跡	伏・上油掛町45-1	8/31, 9/3-4-7-9	No 1 : -2.0m以下、包含層(須恵器)。No 2 : -1.77m以下、江戸以降の包含層。	FD195	26
伏見城跡	伏・堀屋町185, 187, 196-3	10/5-6-8	No 1 : +0.1mで時期不明の石造の一部。-0.59m以下、橙色泥砂の地山。No 2 : 土 0 mで江戸の包含層、-0.3mでオリーブ色砂泥の地山を切って江戸の南北溝。	FD229	26
伏見城跡	伏・筒井伊賀東町17	10/19-20	-0.25m以下、黄褐色砂泥混砂礫の地山。	FD238	26
伏見城跡	伏・桃山町松平坂筋1-1地	10/19	-3.0mまで現代盛土。1986年度発掘調査地。	FD243	26
伏見城跡	伏・京町九丁目40	11/2-5-18-19	-0.45m以下、橙色砂泥層の地山。	FD261	26
伏見城跡	伏・諏訪町164-1, 166-1	11/12-13-16	+0.5mで包含層(土師器)。	FD277	26
伏見城跡	伏・桃山町本多上野78-4, 80-3	12/3-4	-0.72m以下、にぶい褐色粗砂の地山。。1997年試掘調査地。	FD290	27
伏見城跡	伏・深草大龜谷万祐敷町131-4	12/15-16	+0.05m以下、時期不明の路盤。	FD309	27
金森出雲遺跡・	伏・桃山町金森出雲3-3	6/3-5-8	No 1 : -0.36mで整地層。-0.95m以下、橙色砂礫の地山。No 2 : +0.89mで桃山の包含層(土師器、瓦)。-1.09m以下、明黄褐色砂泥の地山。	FD078	26
御香宮廐寺・			現代盛土以下、明黄褐色砂泥・粗砂、黄褐色砂泥の地山。		
伏見城跡					
指月城跡	伏・桃山町立売一春長老 地先	5/13-19-26, 6/10-16-23-30,		FD049	26
伏見城跡		7/1-2			
向島城跡	伏・向島庚申町62-17	5/27	-0.86m以下、明黄褐色粗砂。	FD068	25-5

### 長岡京地区 (NG)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
左京北邊二坊丸町	南・久世殿町181, 182, 184-186	5/13-15-19	-0.84mで包含層(須恵器)。-1.2m以下、流れ堆積。	NG050	20-1
中久世邊跡					
左京北辺	南・久世大坂町289	7/1-6	-0.15mまで現代盛土。	NG122	20-1
三坊十六町・					
大坂邊跡					
左京西条四坊二町	伏・羽束郷菱川町	10/19-20-22	-1.06m以下、湿地堆積。	NG245	28
左京七条四坊西町	伏・淀橋爪町437-1-3	10/12	+1.5mまで現代盛土。	NG236	25-1

## 報告書抄録

上りがな	きょうとしないいせきたちあいちょうきがいほう							
書名	京都市内道路立会調査概報 平成10年度							
調書名								
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	加納牧二、近藤章子、菅田 薫、能芝 勉、端 美和子、尾藤修行、丸川義広、吉村正綱、吉本健吾、電子正彦							
編集機関	京都都市総合文化財研究所							
所在地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1 TEL075-415-0521							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上る上本郷寺町488 TEL075-222-3108							
発行年月日	西暦1999年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安宮 太政官跡	京都府京都市上京区 左京五条通四条下る東入 主税町	26100		35度 0分49秒	135度44秒	1998.1.19～ 21		住宅
平安京跡 左京三条通四 条通四条下る 主税町	京都府京都市上京区 京都御苑	26100		35度 0分42秒	135度45分55秒	1998.1.16～ 3.6		用地整備・電 力・給排水管 布設
平安京跡 左京五条通 八町町	京都府京都市下京区 左京五条通四条下る佐竹 町	26100		34度59分59秒	135度45分13秒	1998.3.10～ 5.14		マンション
平安京跡 左京五 条通五 条通八 町町	京都府京都市下京区 左京五条通四条下る堀川 町	26100		35度 0分 0秒	135度45分37秒	1998.8.3～ 9.4		校舎
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安宮太政官跡	都城	平安後期	溝	土器類・瓦				
平安京跡 左京一条四坊・ 二条四坊	都城	近世	遺物包含層	陶器				
平安京跡 左京五条 三坊八町・ 烏丸級小路遺跡	都城・集落	平安末期～室町	漆状遺構	土器類				
平安京跡 左京五条 三坊八町・ 烏丸級小路遺跡	都城・集落	弥生中期	自然埋葬	土器類				

ふりがな	きょうとしないいせきたちあいちょうさがいほう							
書名	京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度							
著者名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	加納敬二、近藤章子、菅田 真、能芝 雄、塙 美和子、尾藤勝行、丸川義広、吉村正親、吉本健吾、電子正彦							
編集機関	京都府立文化財研究所							
所在地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1 TEL075-415-0521							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上る上本郷寺前町488 TEL075-222-3108							
発行年月日	西暦1998年3月31日							
所取遺跡名	所在地	コート		北緯	東緯	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京跡 右京一条 二坊十五町	京都府京都市中京区 西ノ京保町	26100		35度1分4秒	135度44分0秒	1998.6.8～ 16		マンション
平安京跡 右京一条 二坊十三町	京都府京都市右京区 院東津和院町	26100		35度0分36秒	135度44分43秒	1998.3.25～ 4.13		店舗
京大北部 内連跡	京都府京都市左京区 北白川道分町	26100		35度1分32秒	135度47分13秒	1998.7.30～ 8.1		マンション
萬葉遺跡 延勝寺跡	京都府京都市左京区 圓成寺町	26100		35度0分37秒	135度46分59秒	1997.5.20～ 1998.4.15		機器架台
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平安京跡 右京一条 二坊十五町	都城	平安	濠状遺構・井戸		土器類			
平安京跡 右京一条 二坊十三町	都城	平安	溝		土器類			
京大北部 内連跡	散布地	縄文～弥生	遺物包含層		土器類・石器			
岡崎遺跡・ 延勝寺跡	墓葬・寺院	弥生～古墳	流路		土器類・瓦			

ふりがな	きょうとしないいせあたらあいちょうきがいほう							
書名	京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度							
副書名								
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	加納敬二、近藤章子、菅田 篤、能芝 始、端 美和子、尾藤慈行、丸川義広、吉村正規、吉本健吾、電子正彦							
編集機関	鶴京都府埋蔵文化財研究所							
所在地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1 TEL075-415-0521							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 TEL075-222-3108							
発行年月日	西暦1998年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市	町村					
法住寺殿跡	京都市東山区新瓦町	26100		34度59分0秒	135度46分28秒	1998.8.31～9.1		住宅
伏見麗寺	京都市伏見区西大路町～北西裏町	26100		34度56分46秒	135度48分56秒	1997.10.14～1998.2.23		ガス管撤去・新設、水道管新設
法住寺殿跡	京都市西京区大原野石見町	26100		34度56分40秒	135度40分55秒	1997.4.14～1998.3.31		公共下水道
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
法住寺殿跡	寺院	平安中期～鎌倉	溝	土器類				
醍醐光明寺	寺院	飛鳥～奈良・中世	遺物包含層	瓦				
長岡京跡 右京一条 四坊十四町	都城	弥生～室町	遺物包含層	土器類				

# 図 面

## 凡 例

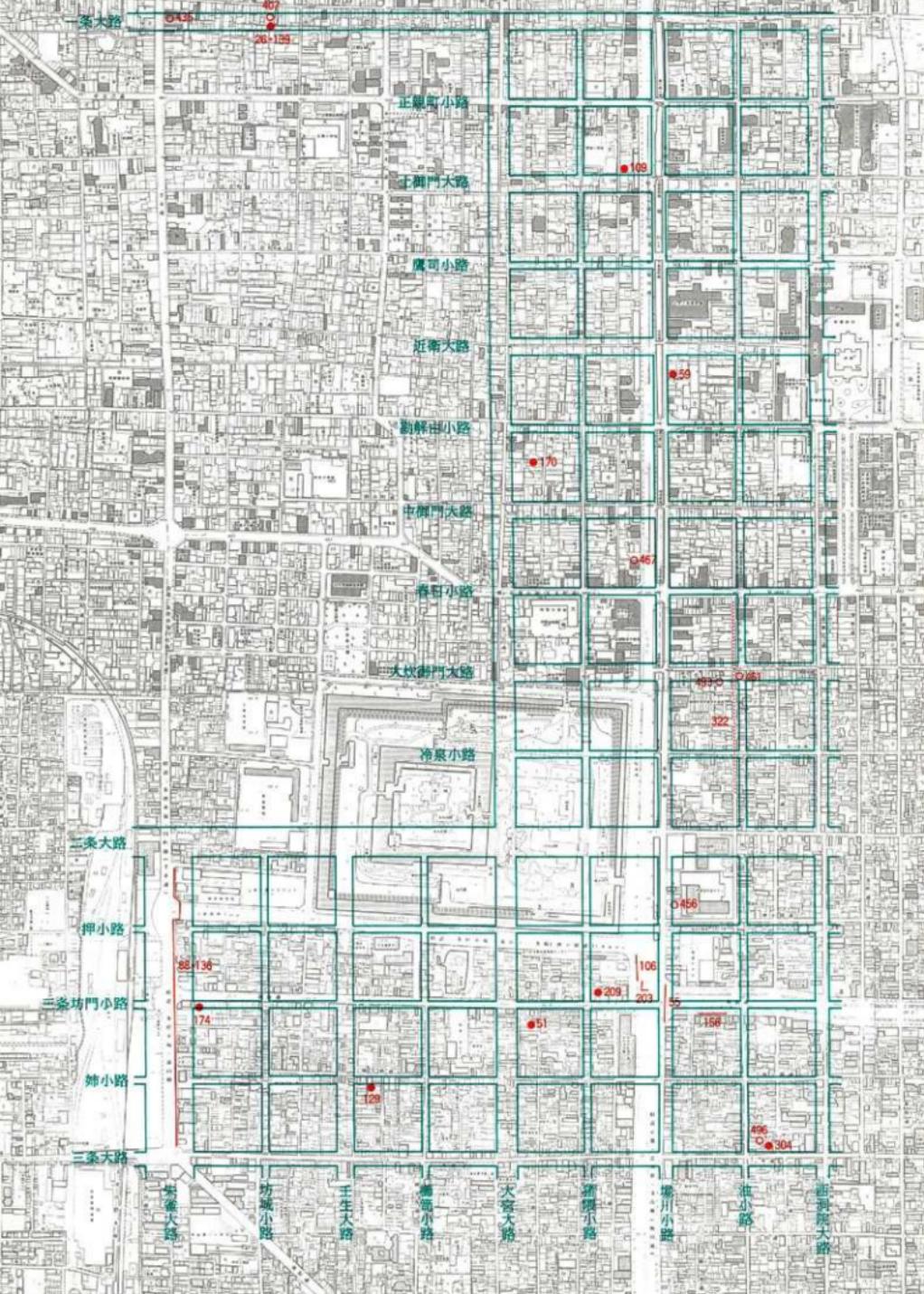
○ .....1997年度立会調査地点 ● ——1998年度立会調査地点

平安宮

四版

図版2

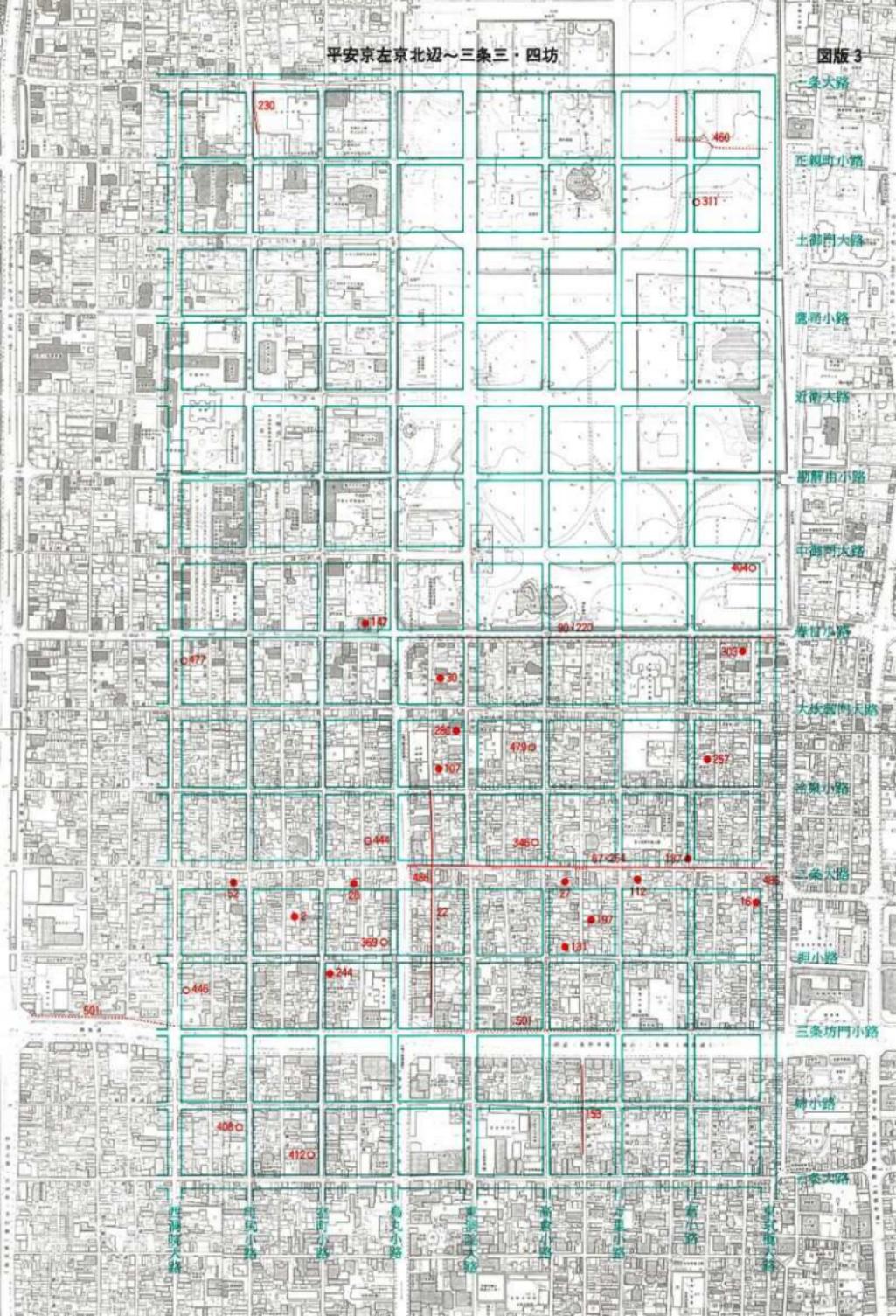
## 平安京左京北辺～三条一・二坊



## 平安京左京北辺～三条三・四坊

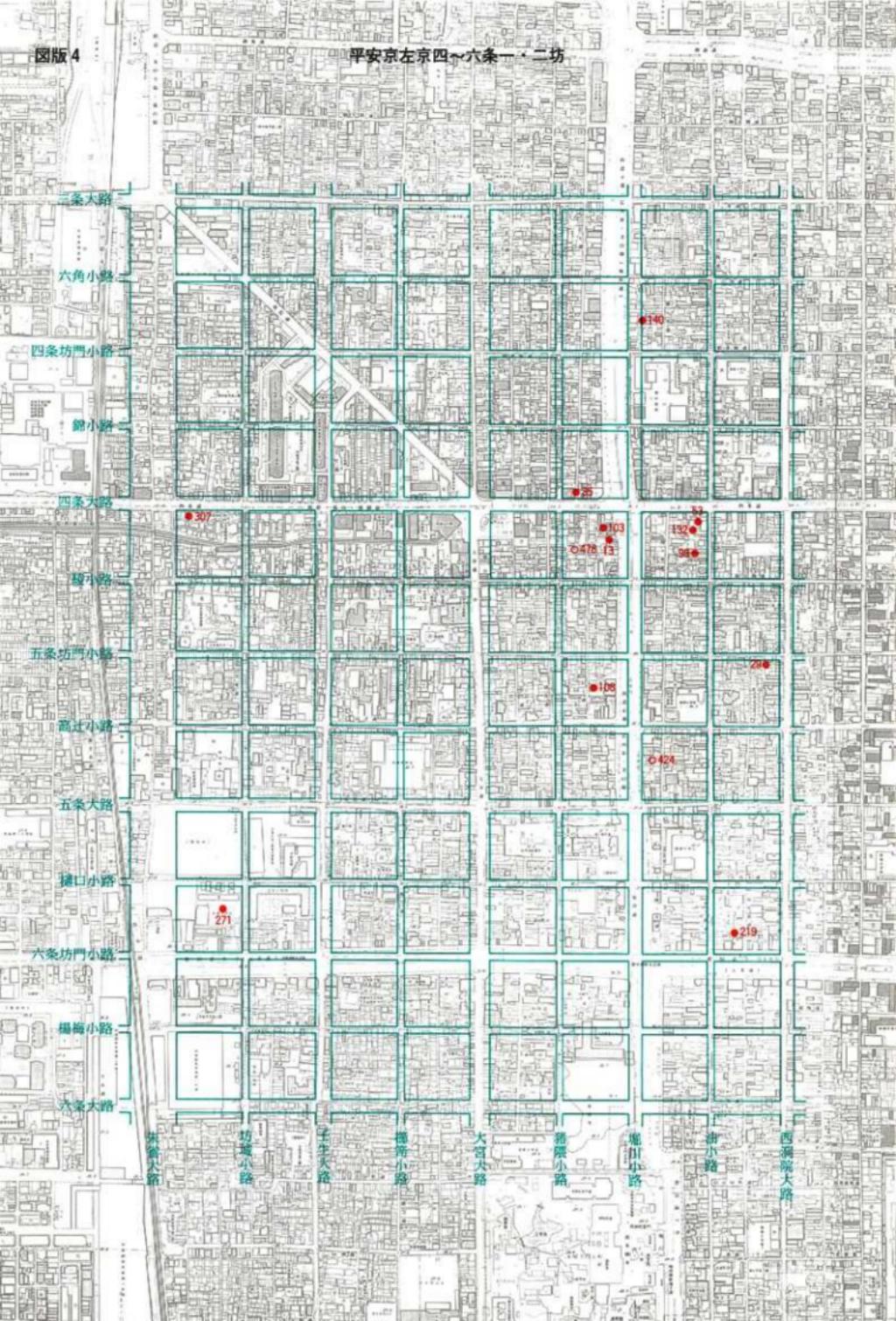
図版3

二十九



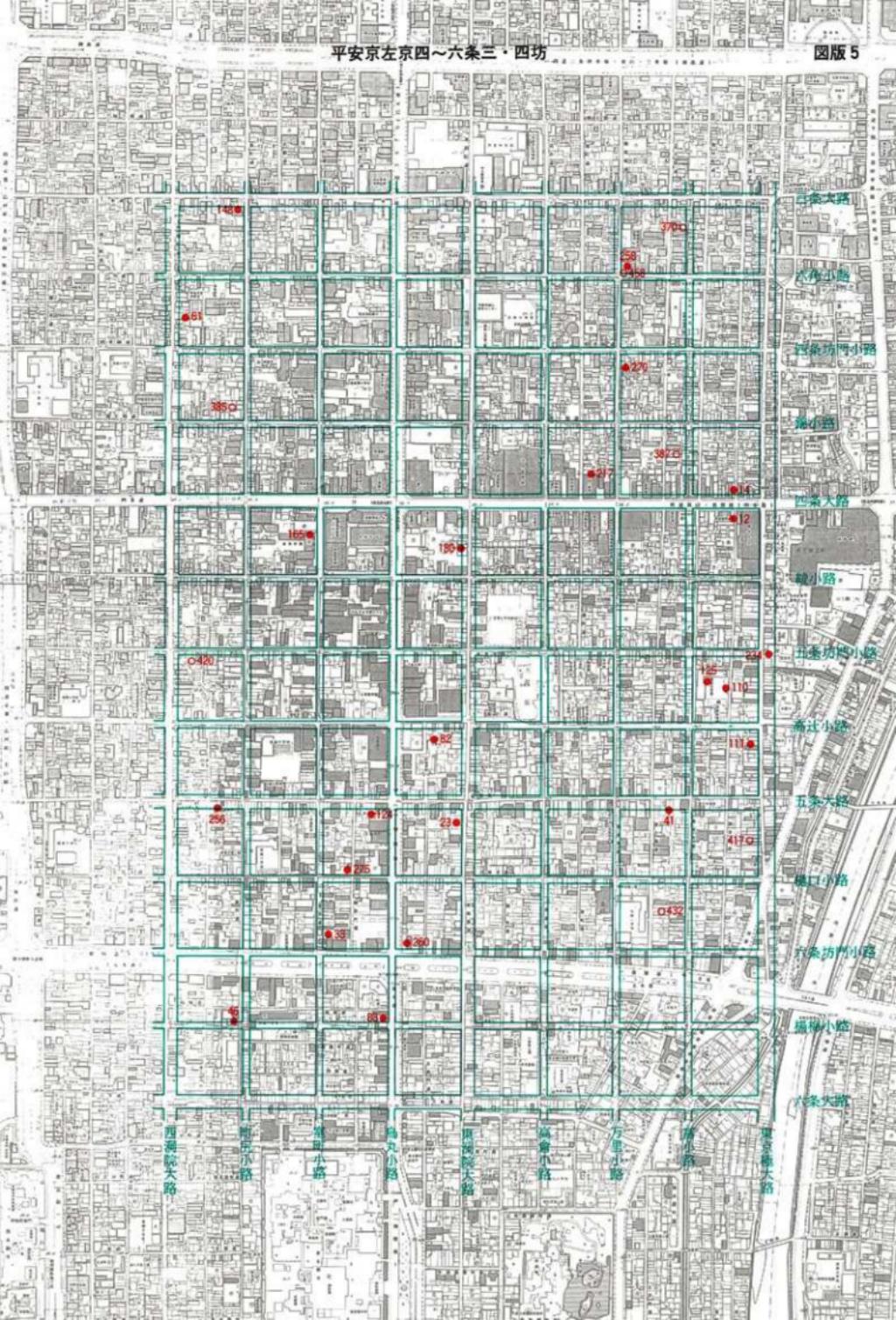
図版4

## 平安京左京四~六条一・二坊



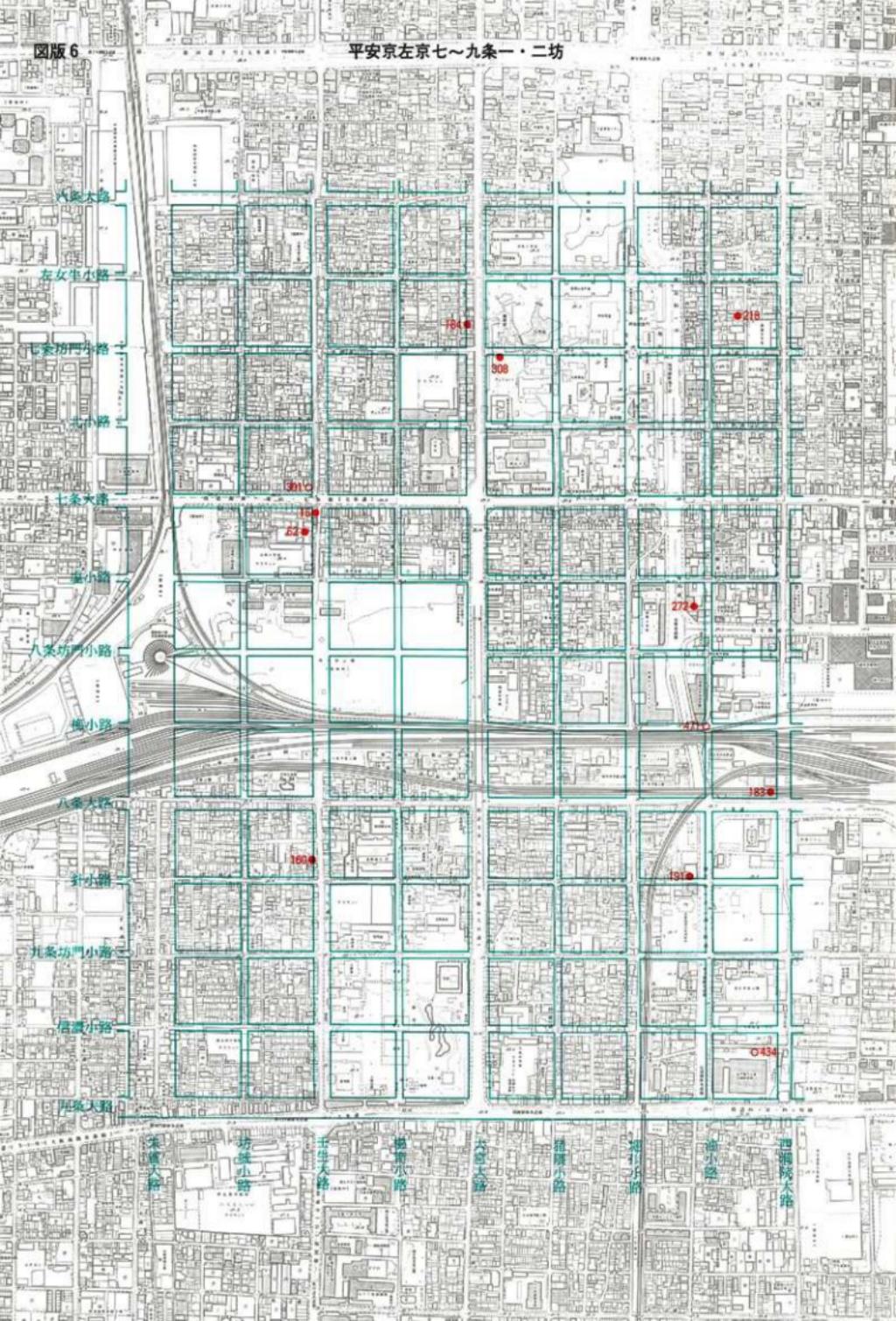
平安京左京四~六条三・四坊

図版5



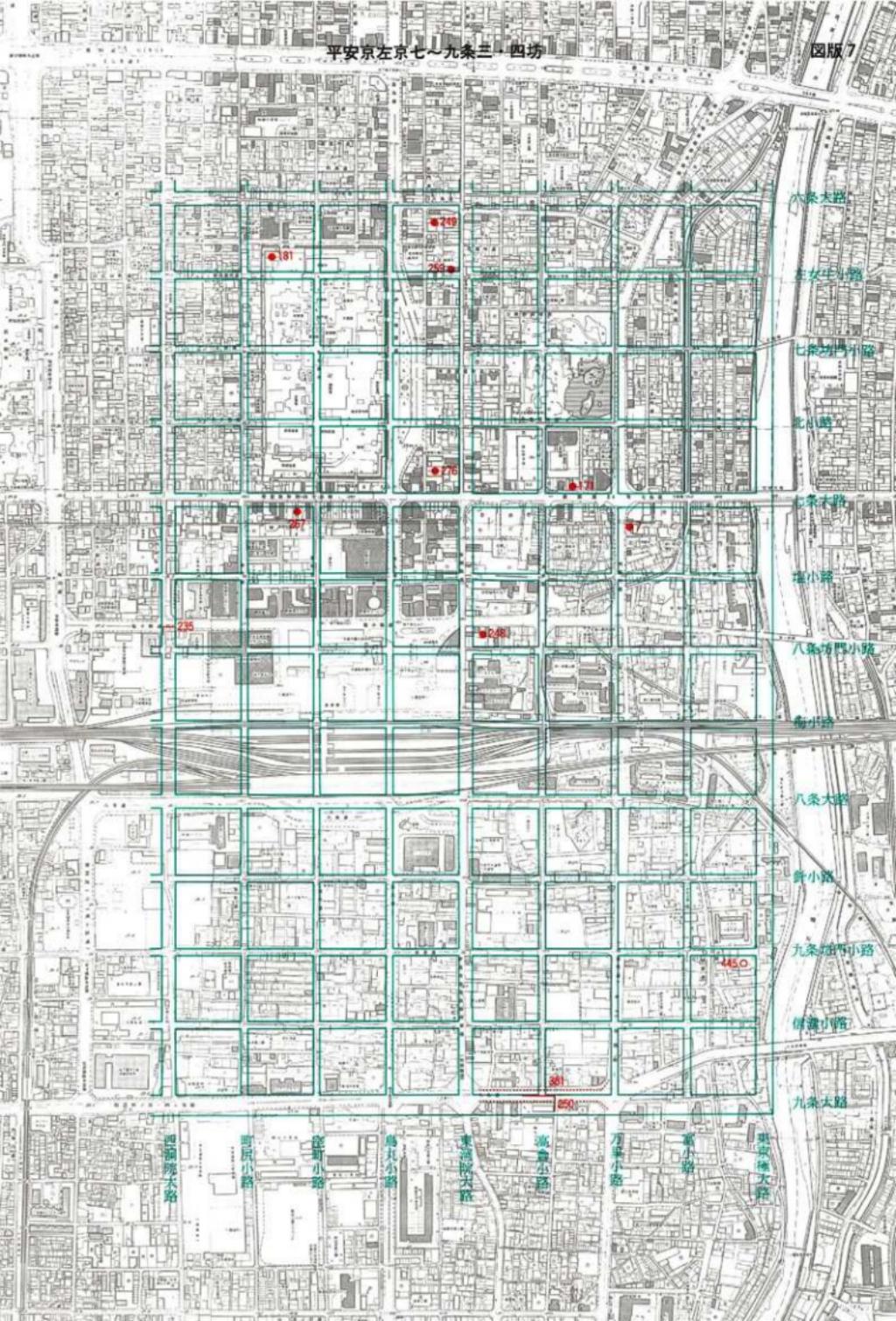
図版6

平安京左京七~九条一・二坊



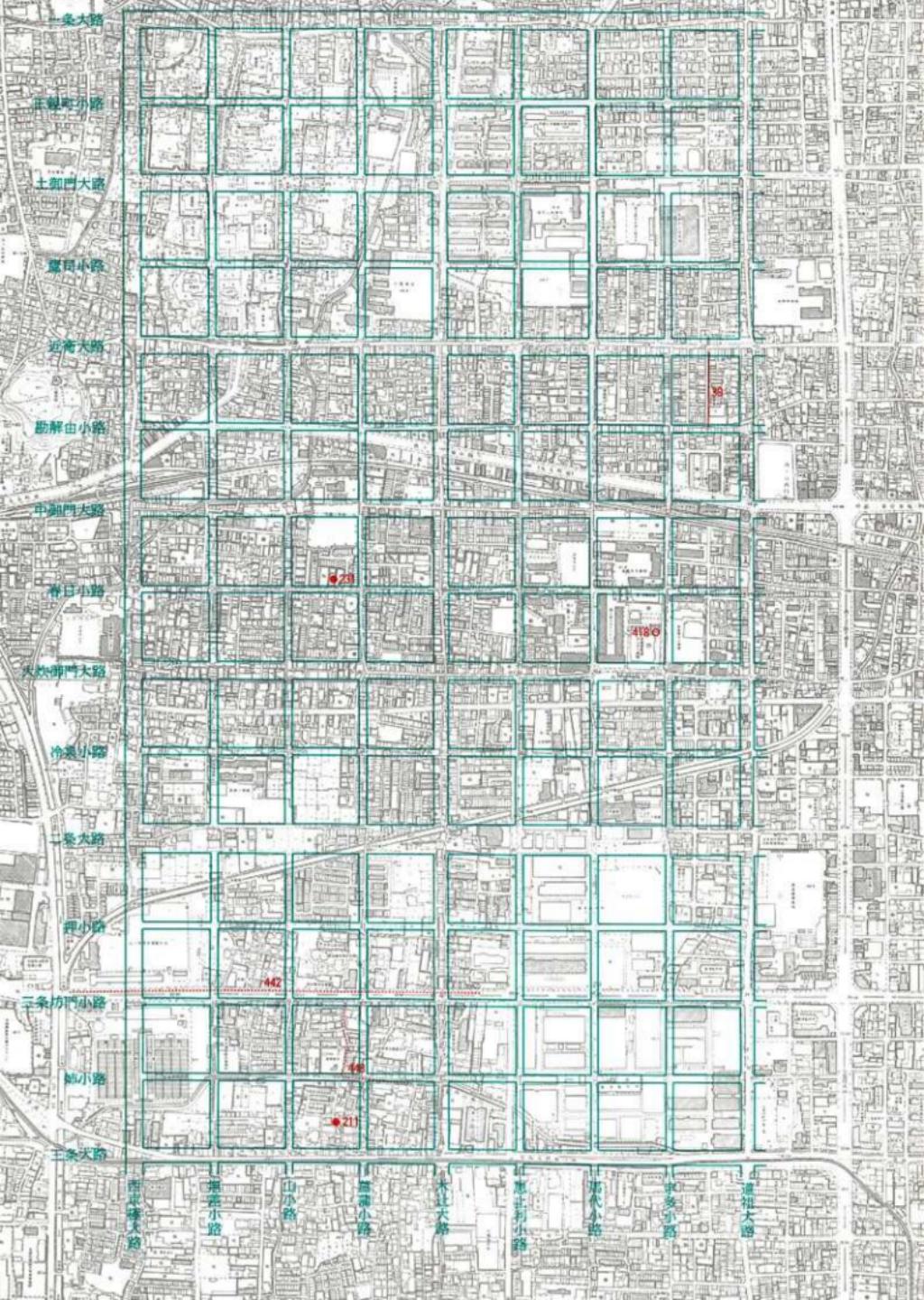
平安京左京七~九条三・四坊

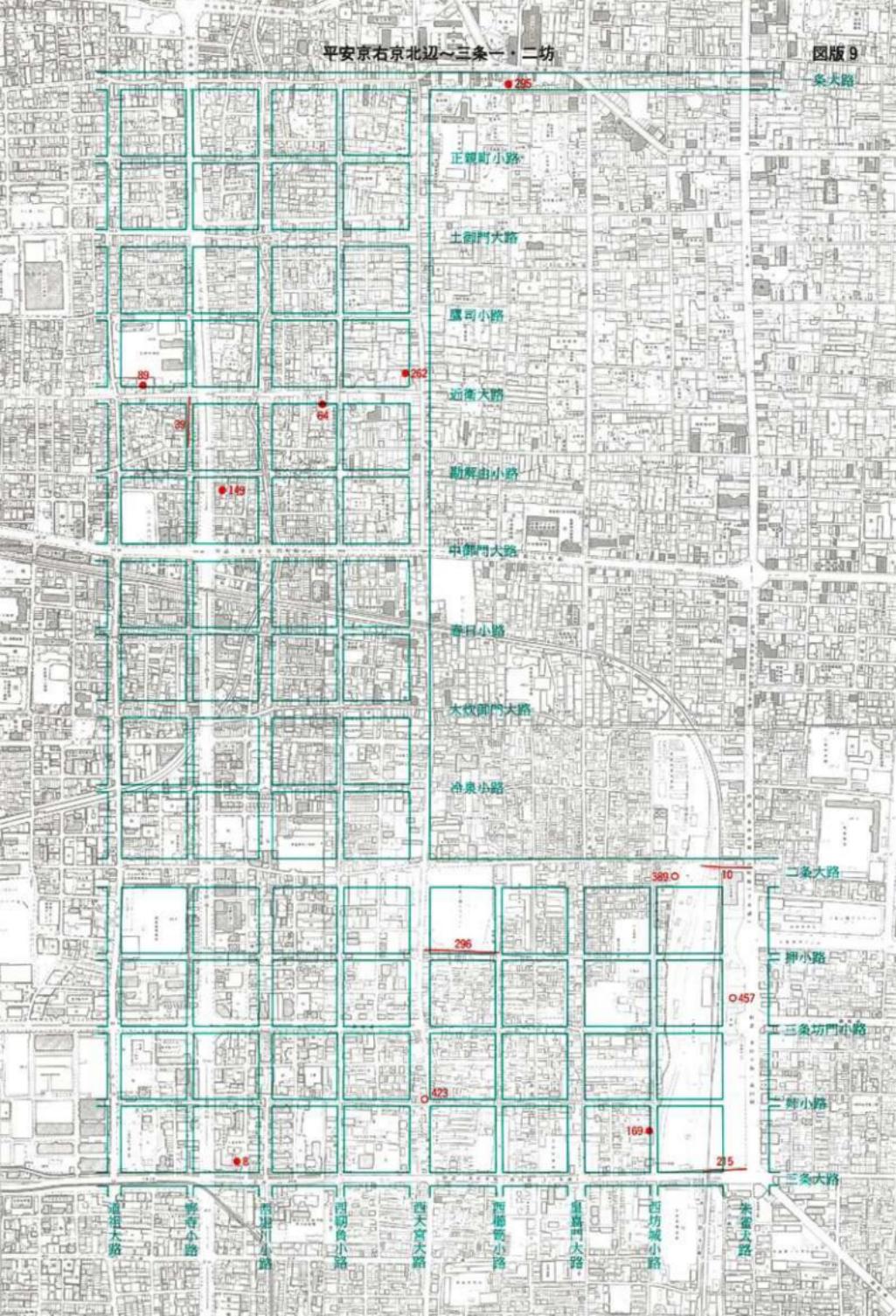
図版7



平安京右京北辺～三条三・四坊

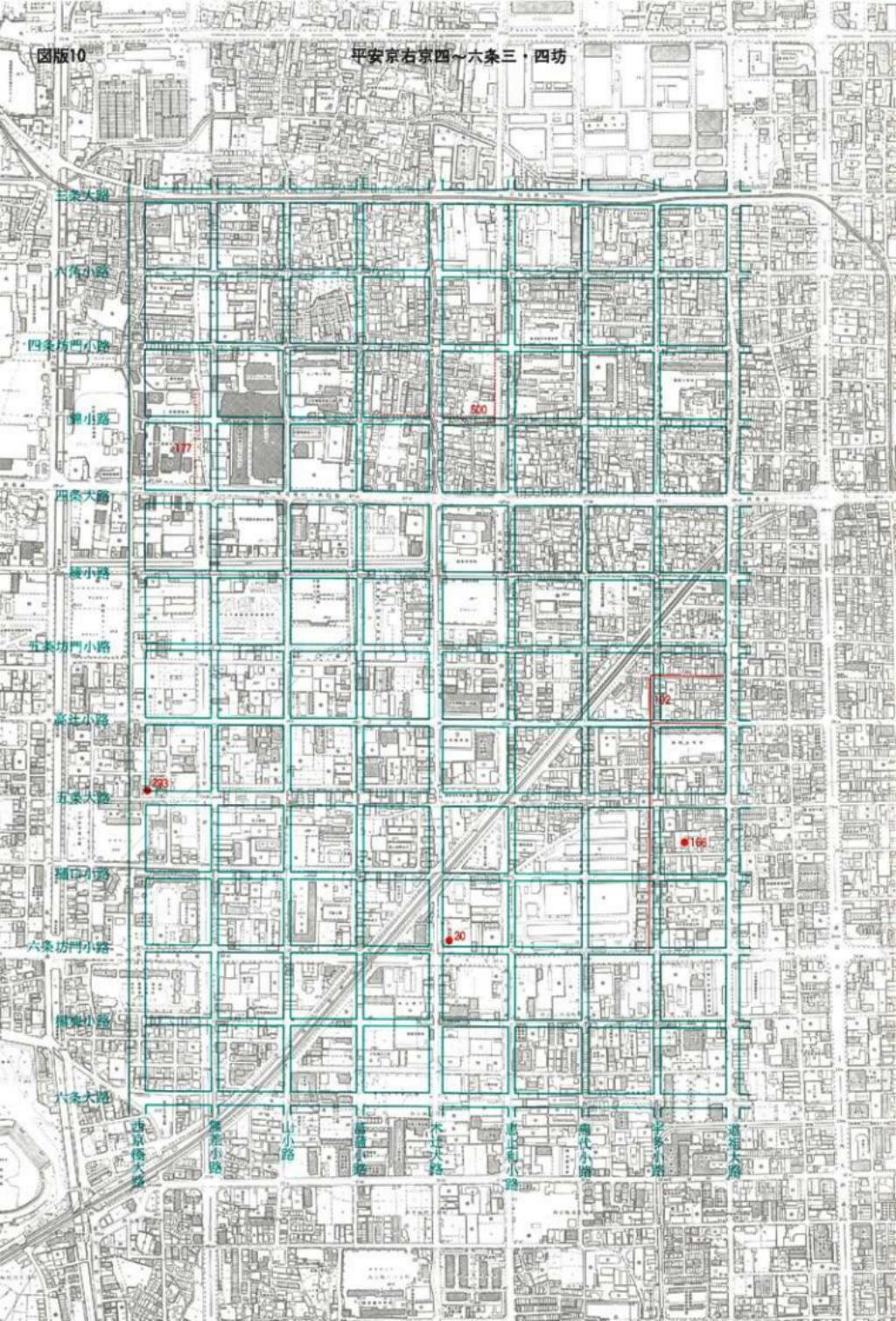
図版 8





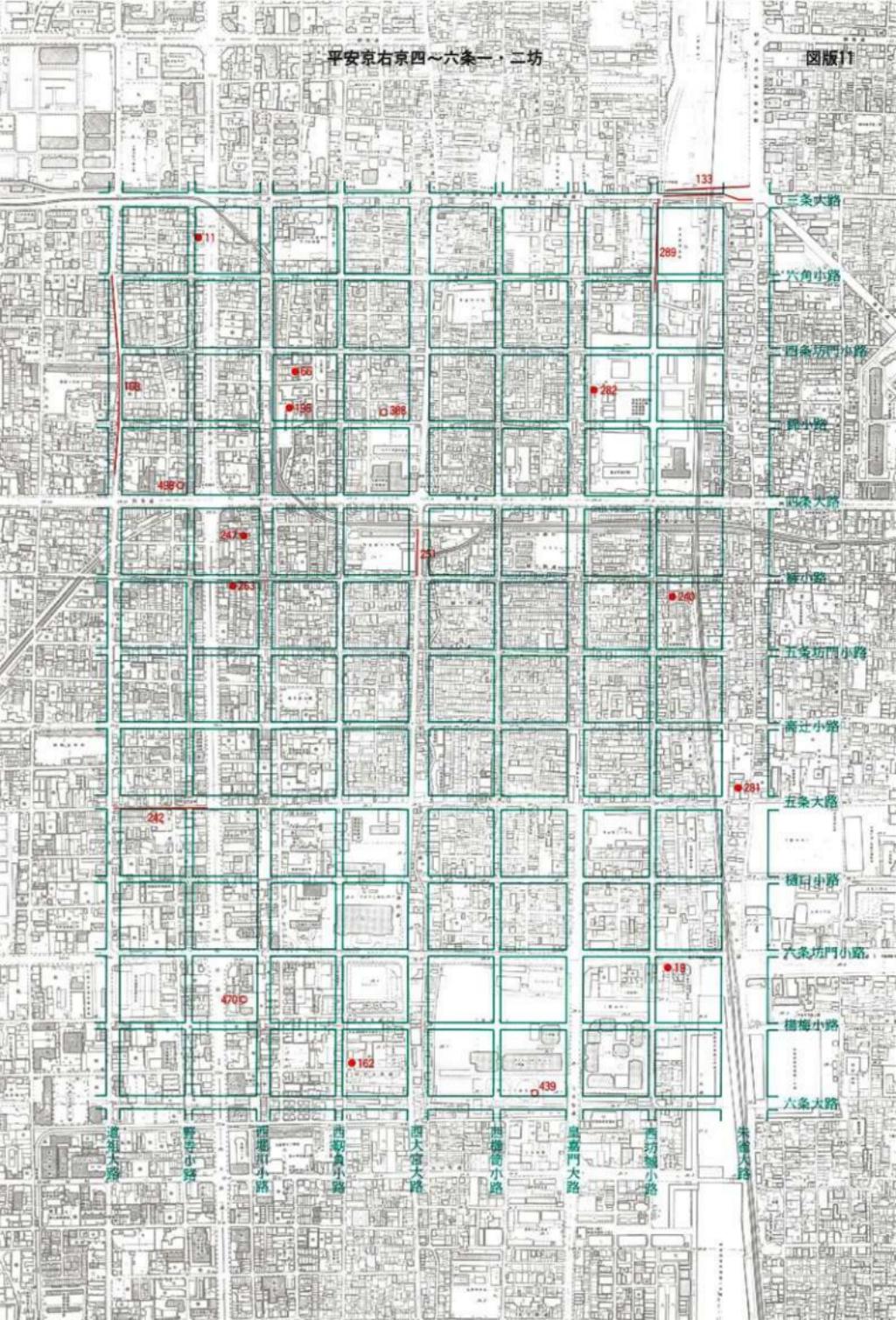
図版10

平安京右京四～六条三・四坊



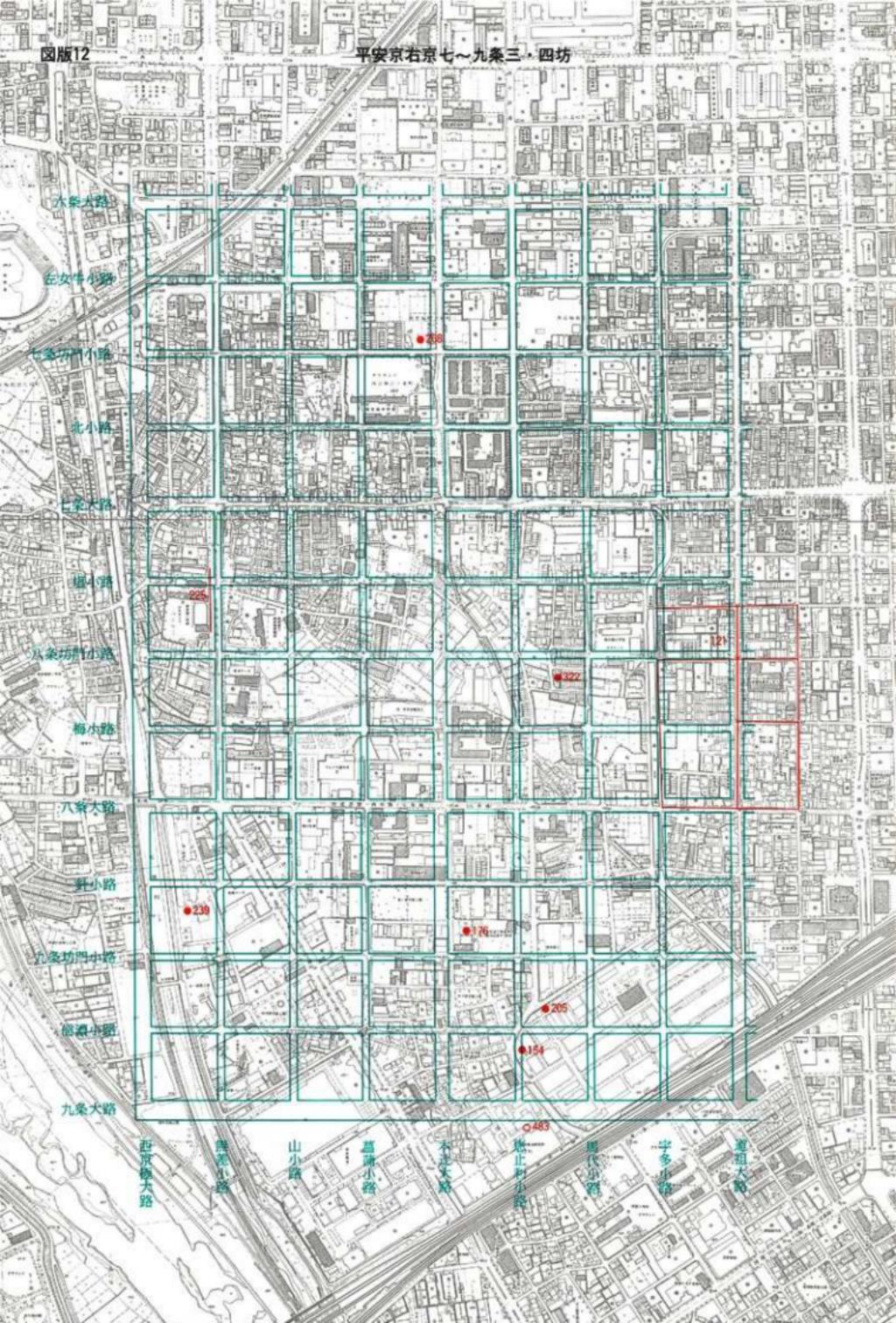
平安京右京四～六条一・二坊

図版1



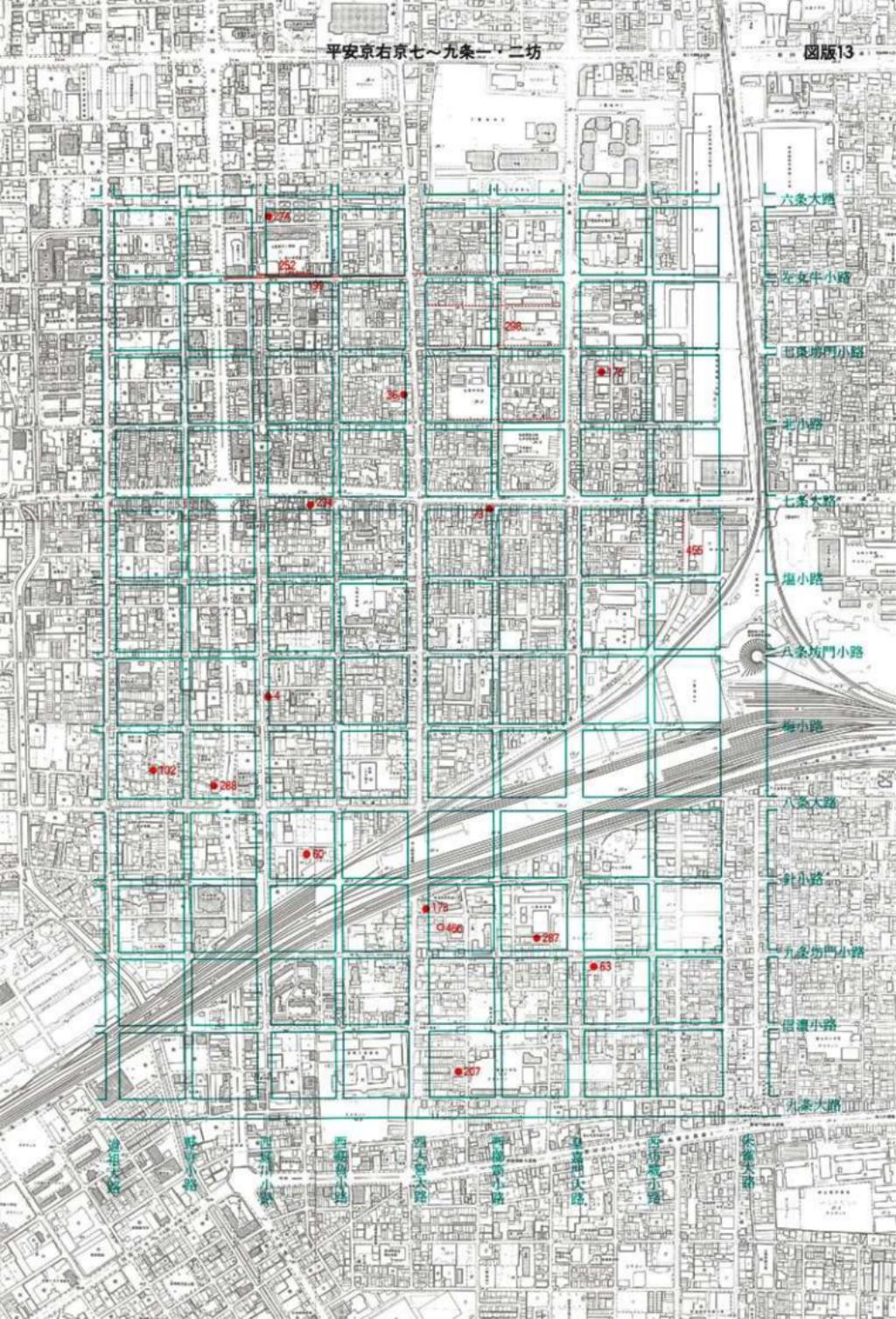
図版12

## 平安京右京七~九条三・四坊

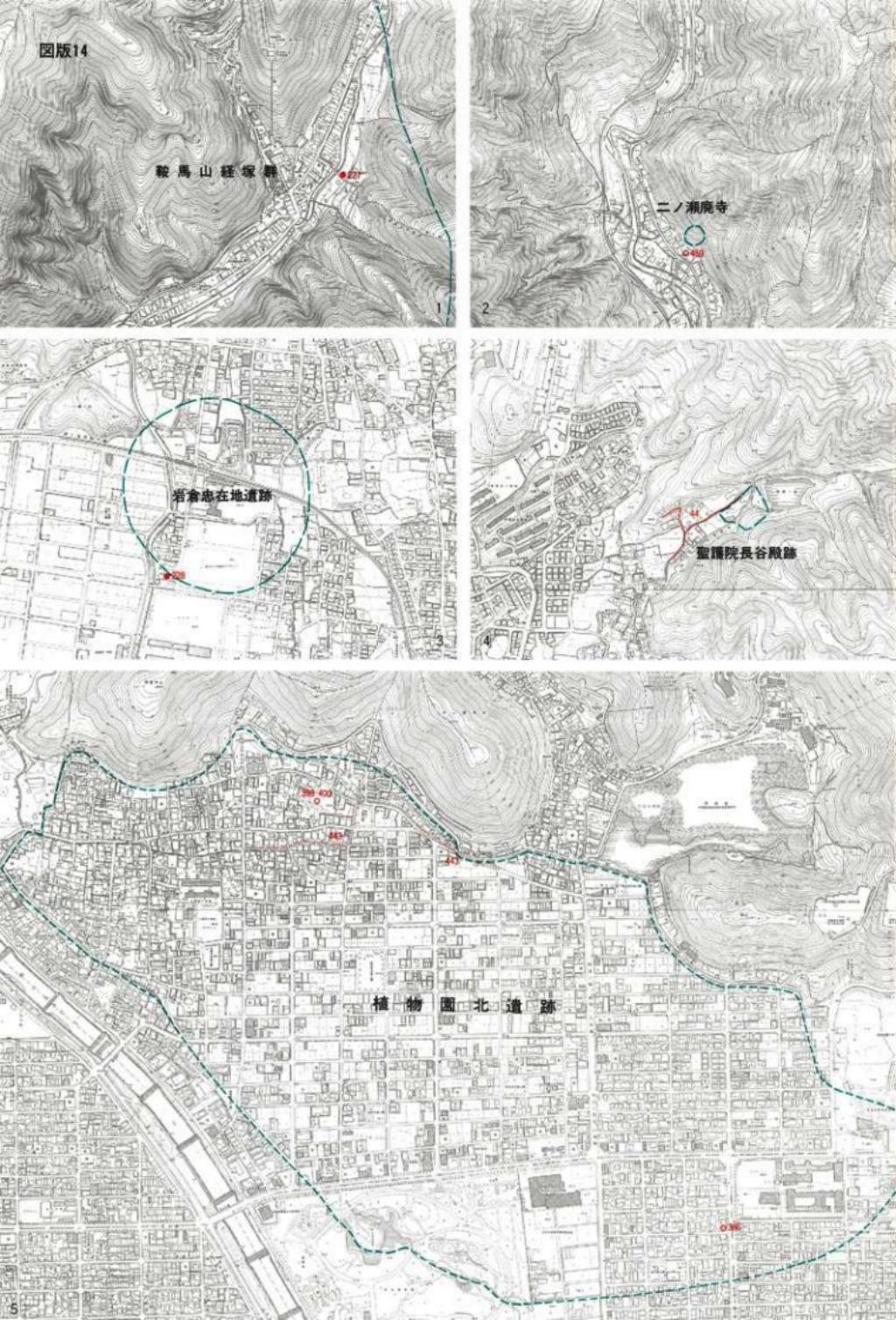


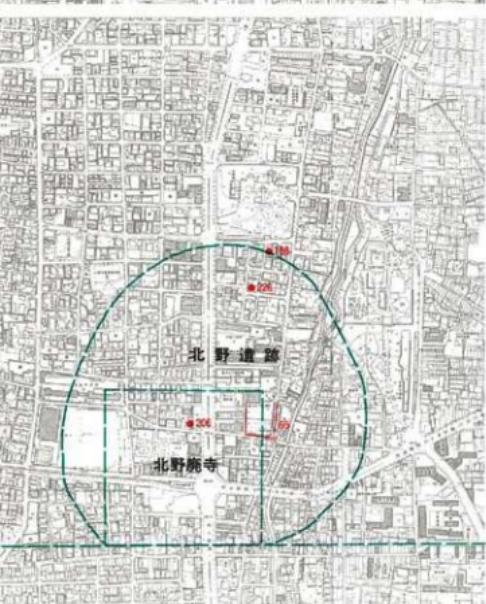
平安京右京七~九条一・二坊

図版13

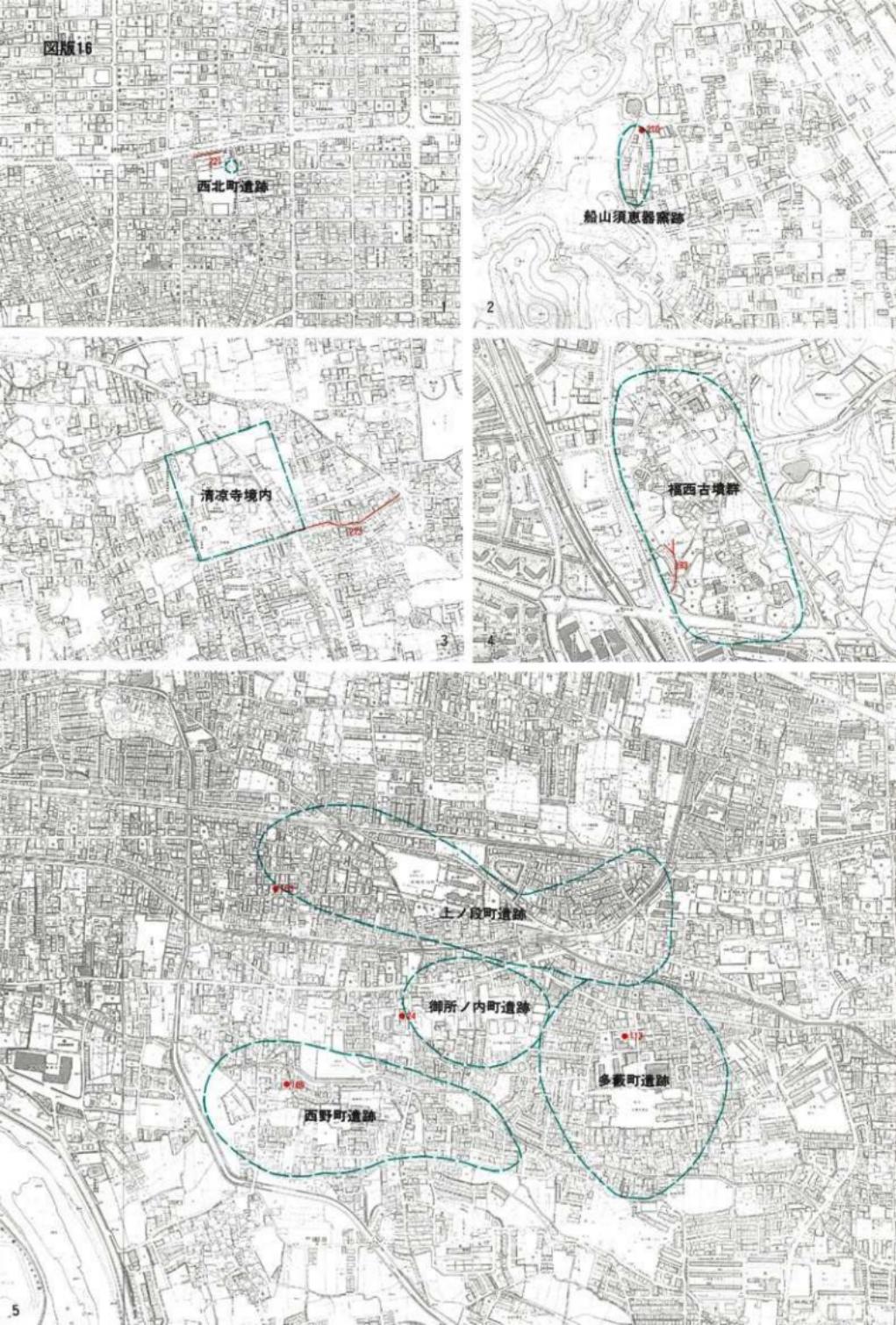


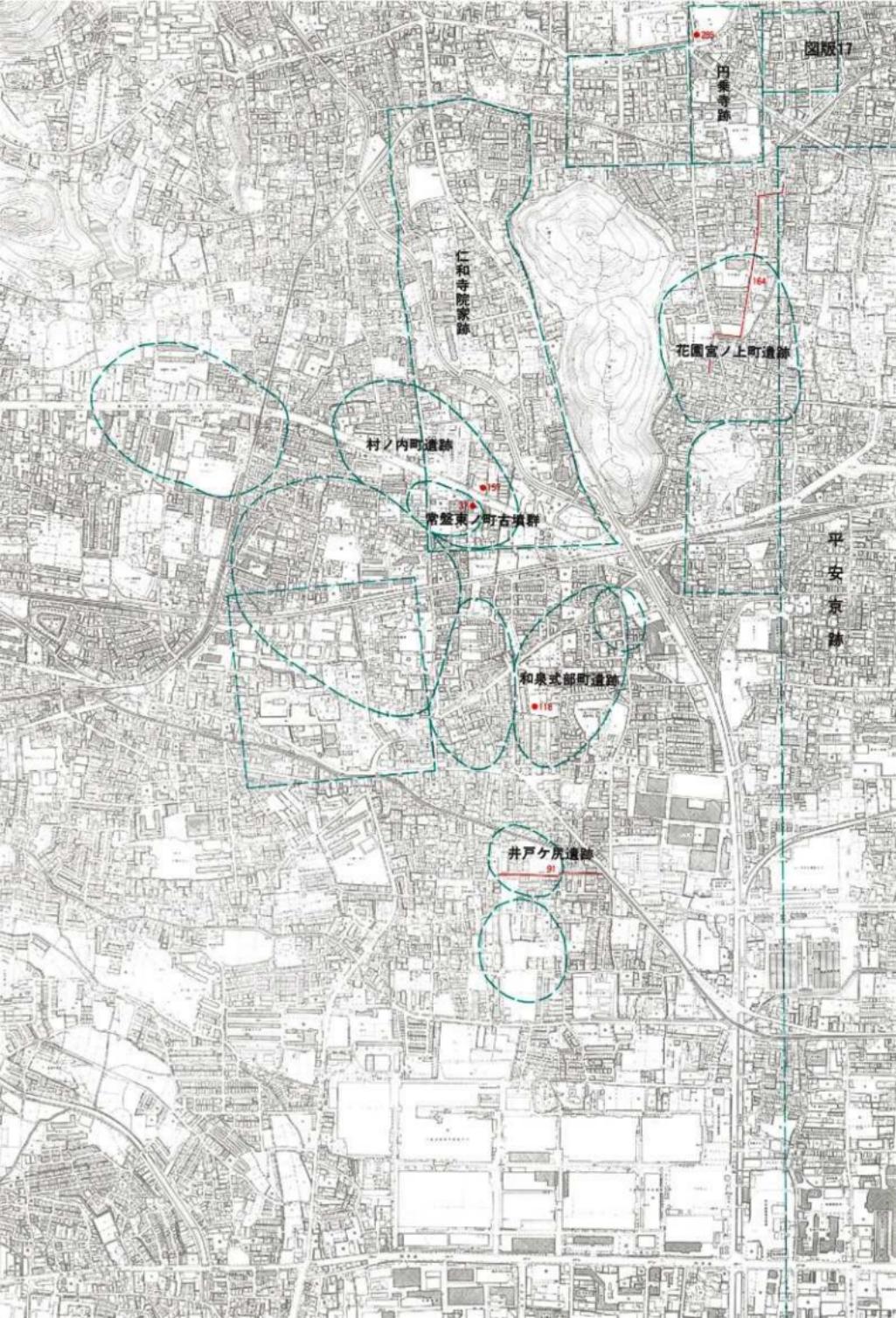
図版14



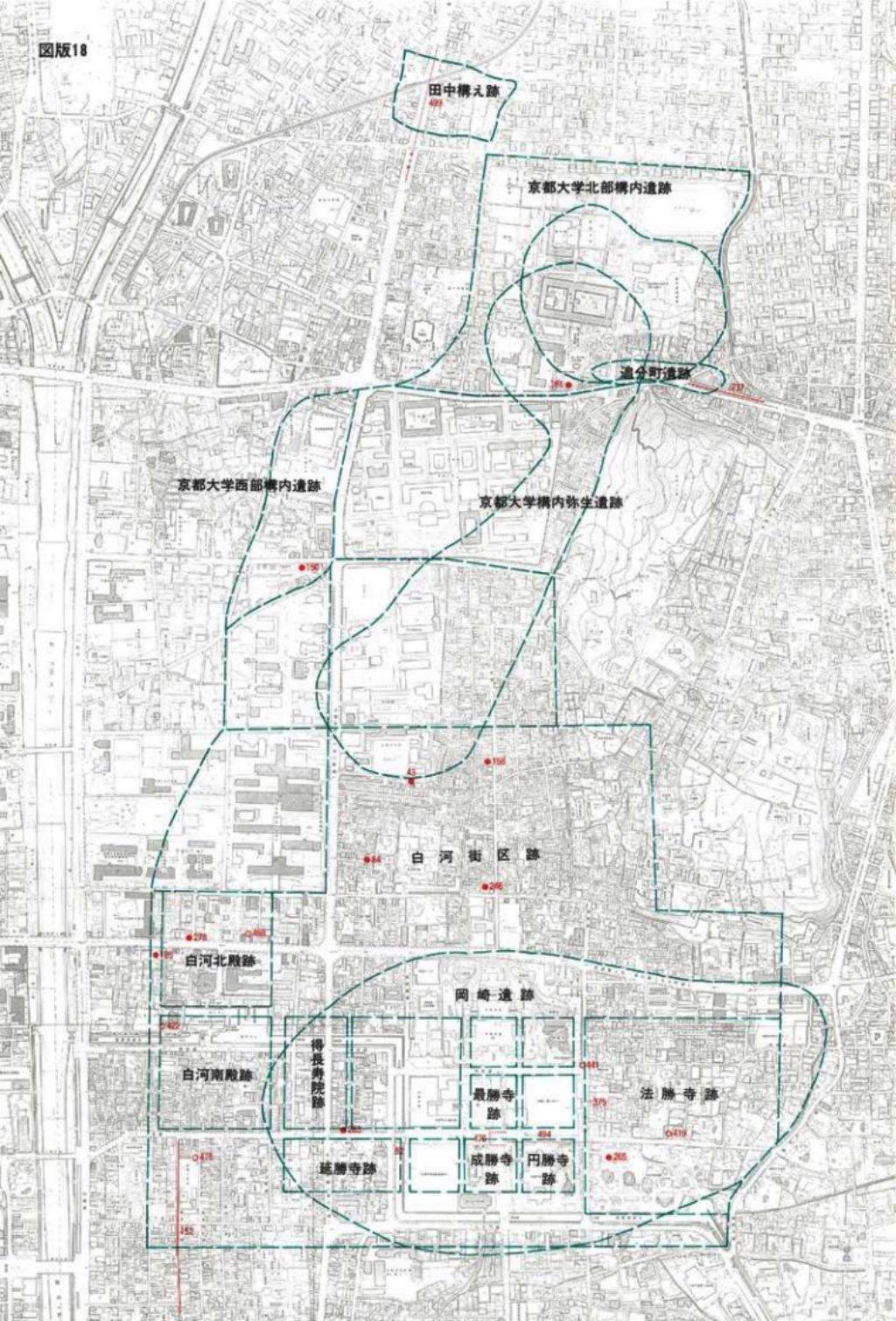


図版16

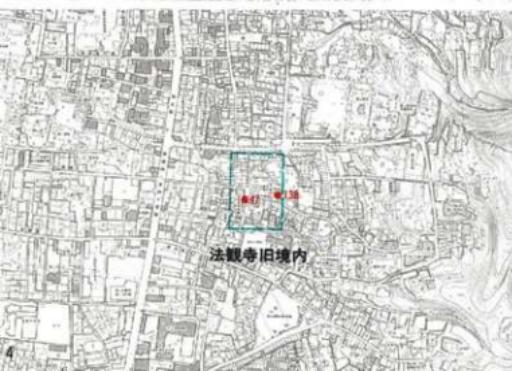
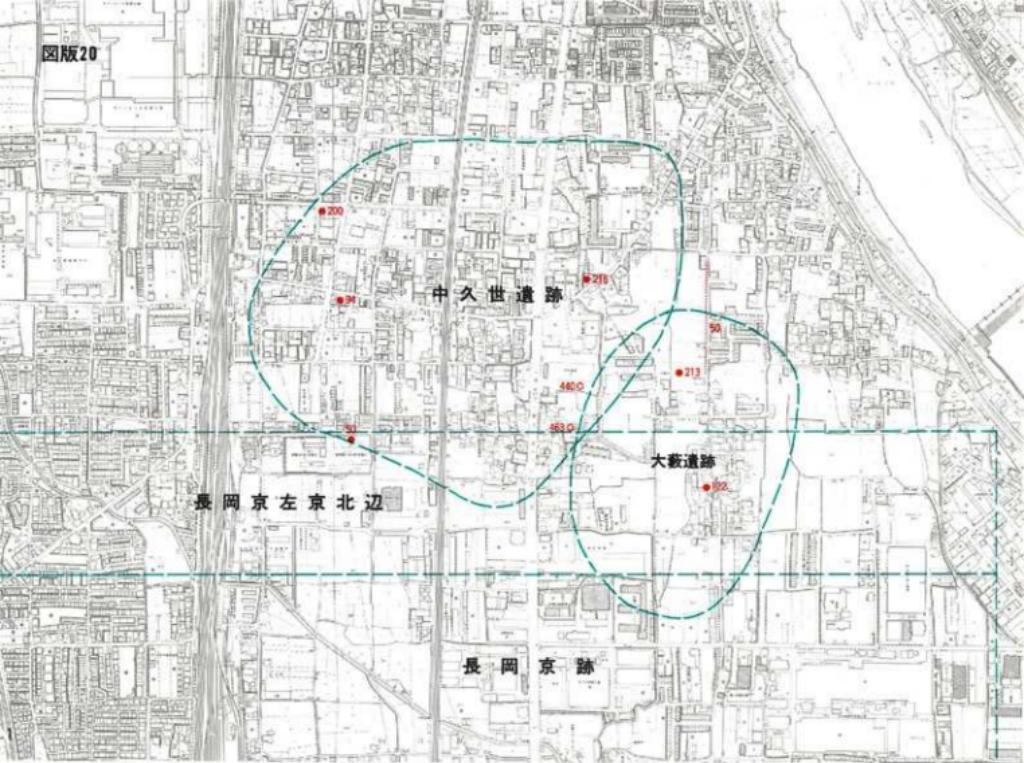




図版18







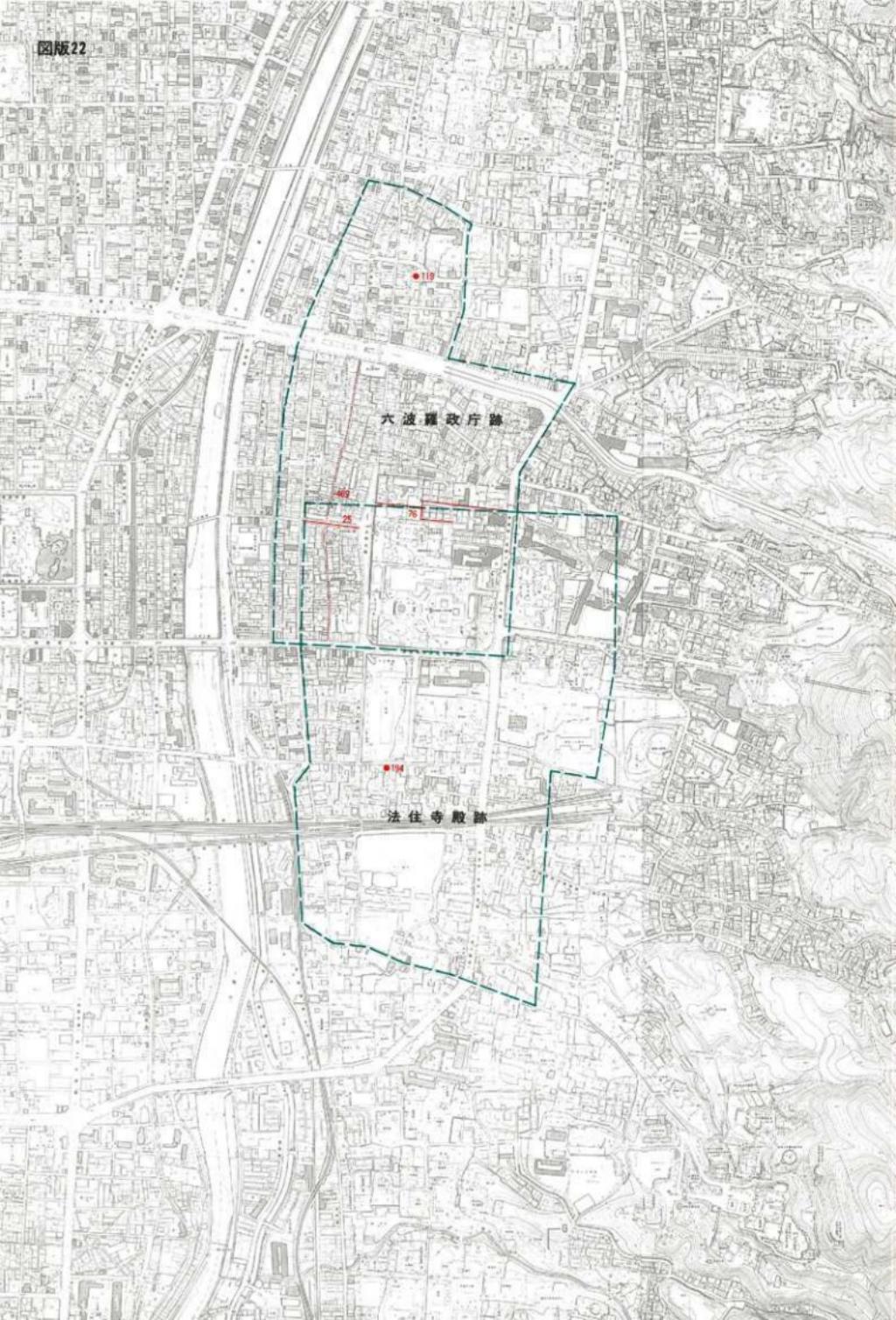


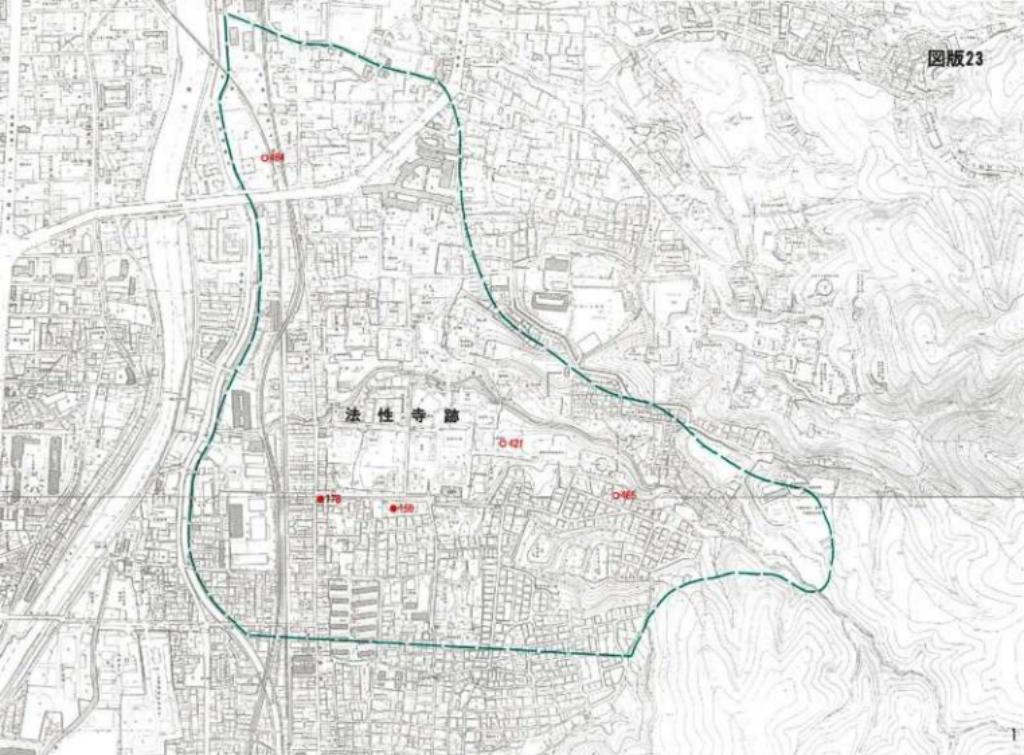
3

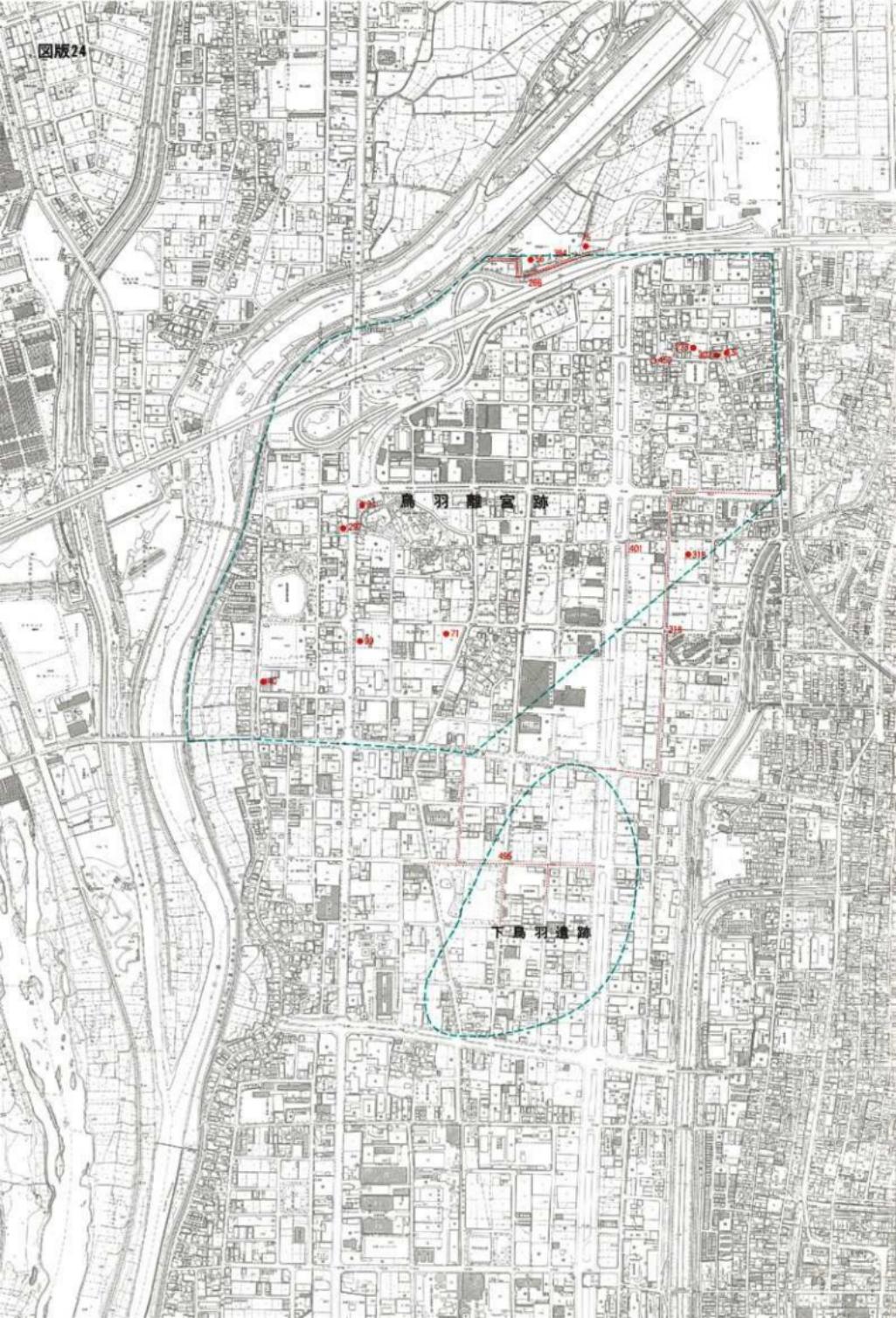
4

5

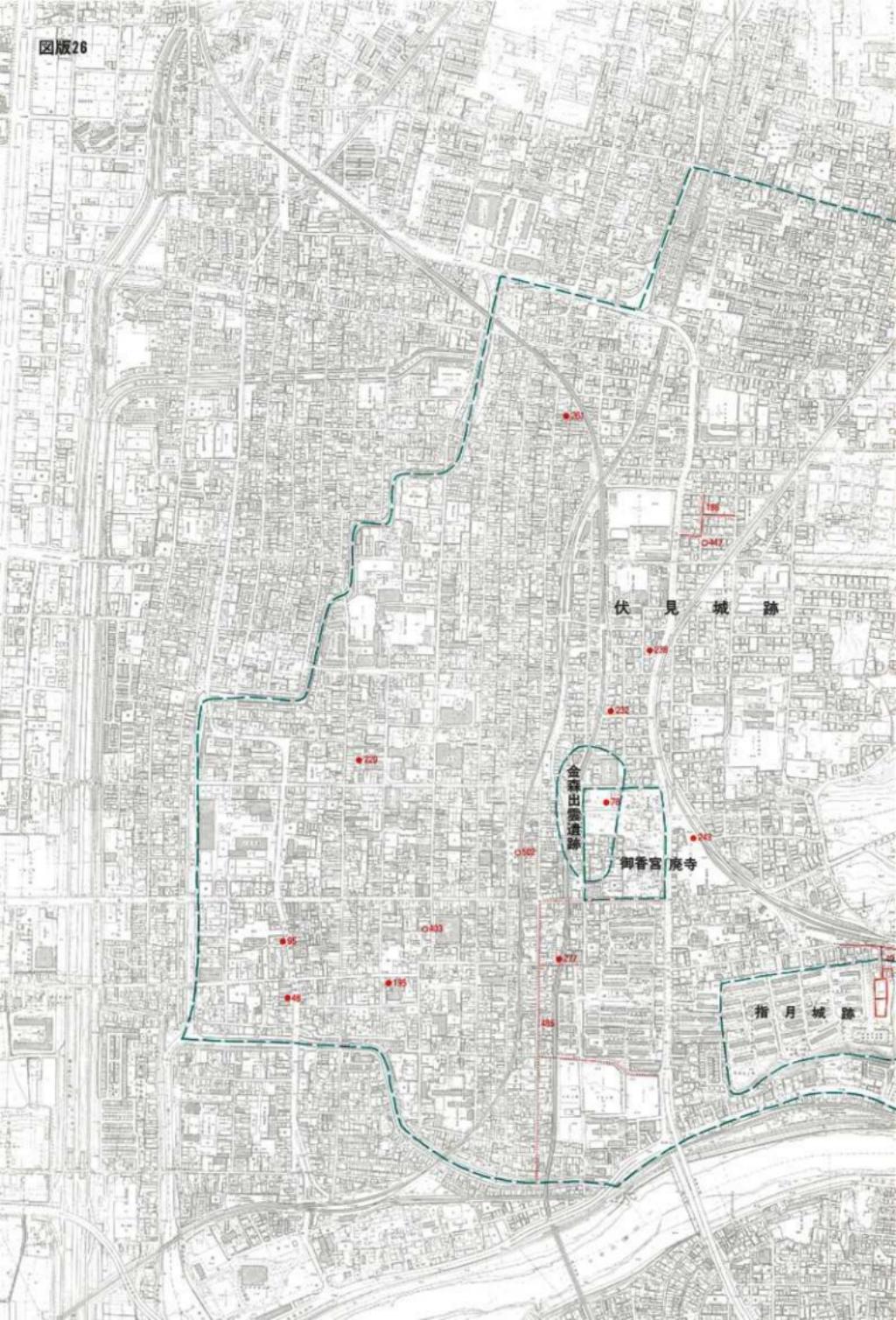
6



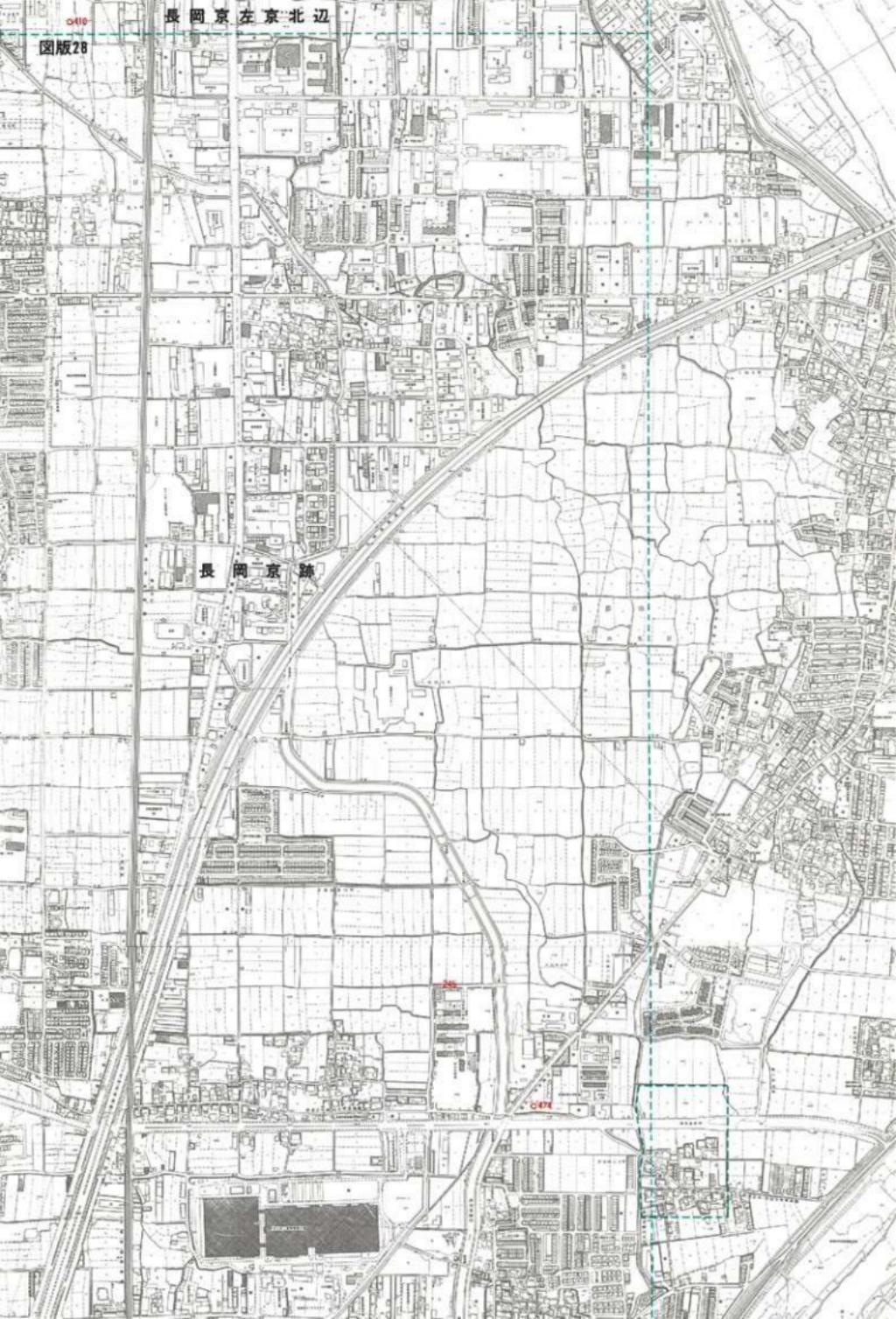












# 写 真



1 調査地全景（南から）



2 溝内完程状況（西から）



1



4



2



5



3



6



9



8

3 溝 出土遺物

平安宮太政官跡 (97 HQ 406)



11



12



17



13



15



14



16

溝 出土軒瓦

平安京左京五条二坊八町（97H-L478）



1 C地点 溝状遺構断面（西から）



2 漆状遺構 遺物出土状況（北から）

平安京五条二坊八町 (97-H-478)



1 瓦器鍋出土状況 (D地点) (北から)



2 井戸 (西から)



3 漆状遺構 (2・4・6・8・9)、D地点 (14・15・16) 出土遺物



15

6

9

14

8

2

4

16

平安京五条二坊八町（97H-L478）



19



22



17



24



18



26



25



27

29

平安京左京五条三坊八町・烏丸綾小路遺跡（98H-L165）



1 遺物出土状況（東から）



2 遺物出土状況（南から）

平安京右京一条二坊十五町 (98 H R 89)

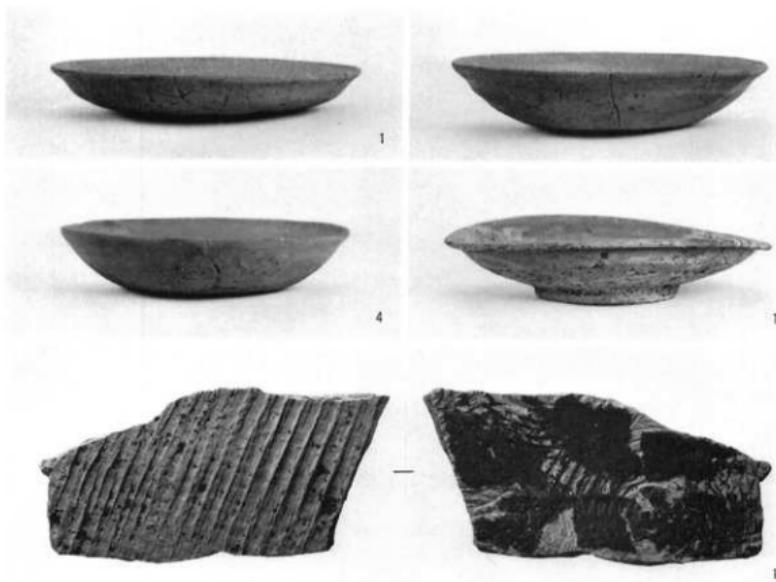


1 No. 3 地点 漢状遺構断面（北東から）

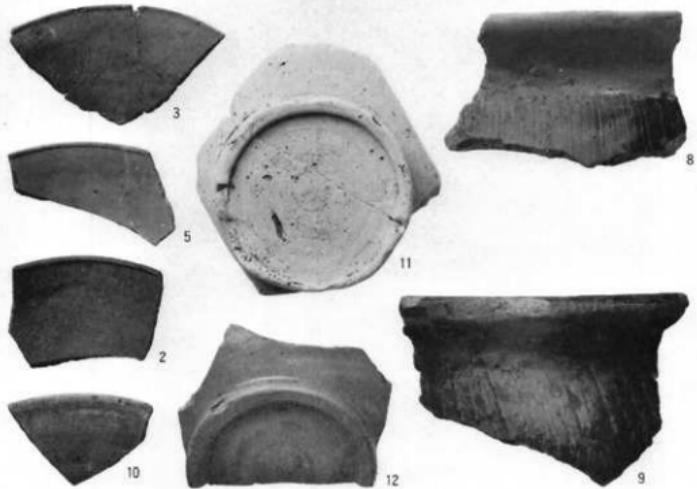


2 No. 3 地点 遺物出土状況（東から）

平安京右京一条二坊十五町(98H.R.89)



1 出土遺物



2 出土遺物

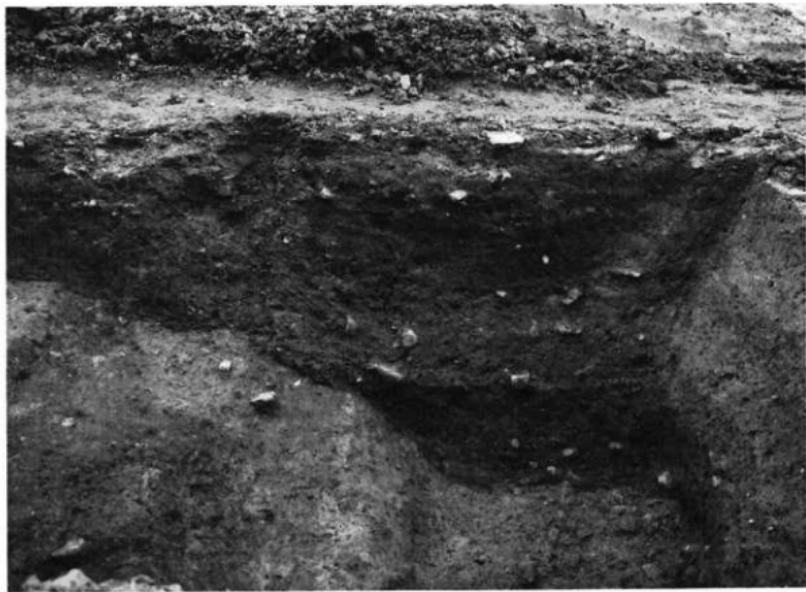
平安京右京四条二坊十三町  
(97 H.R. 498)



1 8トレンチ全景（南から）



2 9トレンチ全景（東から）



3 四条大路北側溝（SD 1）（西から）

平安京右京四条二坊十三町 (97 H R 48)



1 内溝 (SD 2) (西から)



2 内溝 (SD 3) (西から)



1 No. 2 地点 土器出土状況（南から）



2 No. 5 地点 土器出土状況（北西から）



49



50



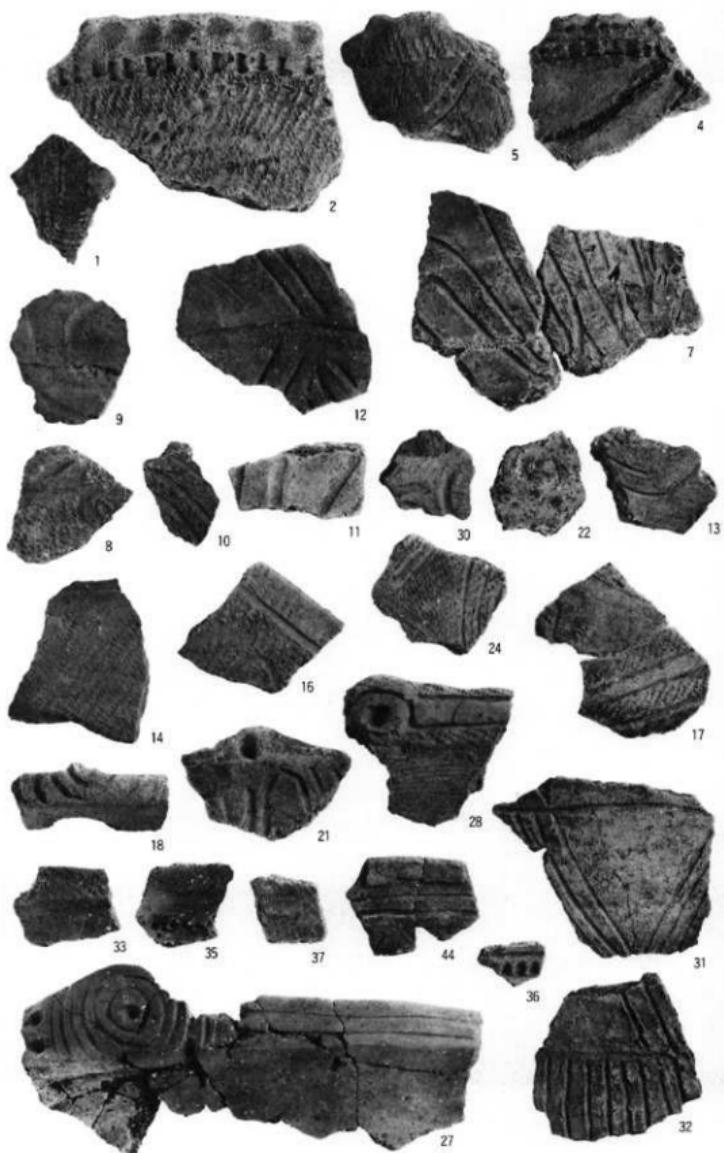
47



48

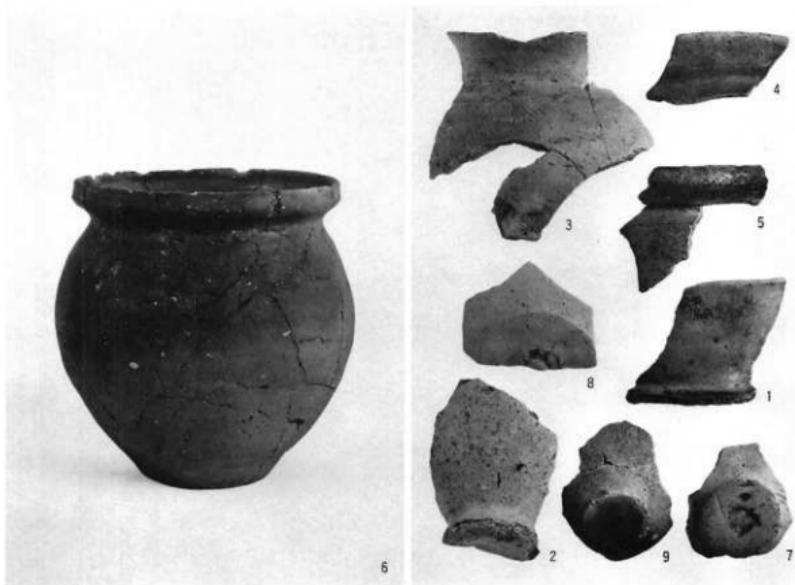
3 出土遺物

京都大学北部構内遺跡 (98K S 16)





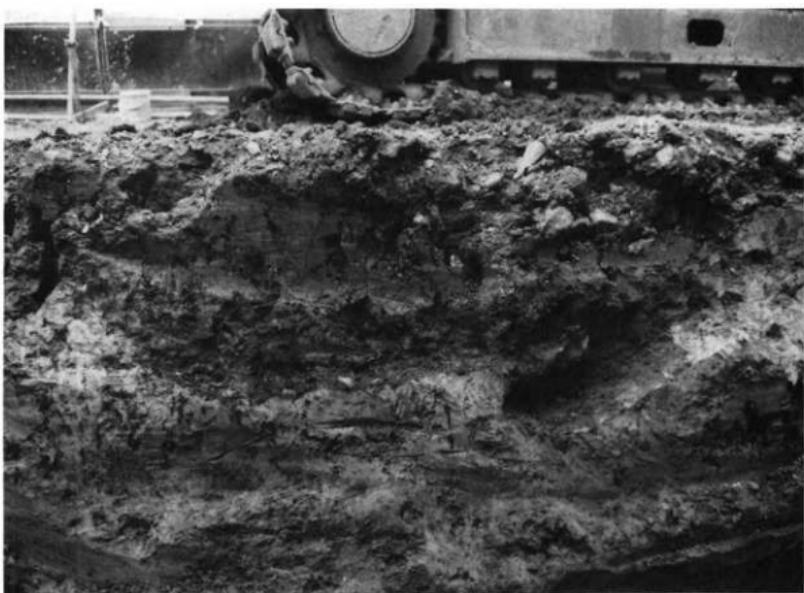
1 調査区全景（西から）



2 出土遺物



1 A地点 南北溝（北から）



2 B地点 東西溝（東から）

醍醐庵寺 (97  
FD 296  
• 437  
• 438)



1 B-1 地点 遺構断面 (東から)



2 B-2 地点 遺構断面 (北から)

醍醐寺  
() 97  
F D 296  
• 437  
• 438  
( )



1



2



3



4



5



6



7



8

長岡京右京一条四坊十四町  
(97 NG 26)



1 No. 1 地点 包含層断面（南から）



2 No. 3 地点 包含層断面（西から）



3 No. 7 地点 溝断面（南から）



4 No. 9 地点 包含層断面（西から）

## 京都市内遺跡立会調査概報

平成10年度

発行日 平成11年3月31日

発行 京都市文化市民局

住所 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488

編集 効京都埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1

TEL (075) 415-0521

印刷 真陽社